

## 第Ⅲ章 郡司氏敷地内の調査

### 第1節 郡司氏敷地内の遺構について

#### 第1項 概要

北東側では黄灰色土、南西側では黒褐色粘土が遺構検出面として広がっていた。遺構密度は黄灰色土が確認されたほうに密集している。郡司氏敷地内では建物跡6棟、井戸1基、廃棄土坑3基、厠跡1基、土坑多数、溝状遺構13条、柱穴多数を検出した。建物については半数が室内作業における柱穴の配置状況の検討から判断したものである。検出された建物のうち溝状遺構5と主軸方向をおおむね同じくする4棟の建物を有機的な関係を持つ遺構と考える。そのほかの建物については別章で報告を行う。

#### 第2項 建物（第4図）

**郡司氏建物5** 溝状遺構5の南東側で調査区の北東部付近で検出された。桁行5間で長さ11m、梁行2間で長さは4.6mで、南東部に2間（4m）×2間（3.6m）の張り出す箇所が見られる。本遺構の主軸方向はN-59°-Eで総床面積は70㎡に及ぶ。

**郡司氏建物6** 郡司氏建物5の南西側に位置しており、近接しているため同一の建物である可能性が考えられる。桁行き4間で長さは11.2m、梁行2間で長さは5.2mである。本遺構の主軸方向はN-58°-Eで総床面積は58.24㎡に及ぶ。

**郡司氏建物7** 郡司氏建物5の南東側に位置する。桁行4間で長さは8.9m、梁行1間で長さは4mである。本遺構の主軸方向はN-58°-Eで総床面積は35.6㎡に及ぶ。

**郡司氏建物8** 郡司氏建物7の南西側に位置しており、近接しているため同一の建物である可能性も考えられる。また本遺構は調査区南東側の外まで続く可能性がある。桁行は4間で長さは9mだが、梁行き北東側と南西側とで規模が少し異なる。北東側は5間で長さは5.4mで、南西側は2間で長さは5mとなっている。本遺構の主軸方向はN-58°-Eで総床面積は47㎡に及ぶ。

#### 第3項 井戸（第120図）

**井戸51** 郡司氏建物8の北西側にわずかに重なる。一辺が1.92mの不正隅丸方形プランを呈する桶積み上げ式の井戸枠のものである。当初は井戸枠の部分を柱穴と勘違いして掘削を行っていた。掘削を進めると大降りの礫が出土し、水が湧き出る様子が伺えたため、礫の出土状況を記録するとともに再度遺構検出を行い、本遺構が井戸であることを確認できた。この礫は井戸を破棄した時に投げ込まれたものであろう。礫を記録した後に改めて本遺構を半截していくと、検出面から1.4mほど掘り下げたところで井戸枠が検出された。井戸枠は4段検出され、さらにその下にも続く様子はいかがであったものの、大量の地下水が湧き出てきたためそれ以上の掘削はできなかった。井戸枠の板材は本調査区で検出された井戸の中で最も短いものであった。



第120図 郡司氏井戸51実測図 (S=1/30)

× 0.84m の不整楕円形プランで、掘り込みは検出面からの掘り込みの深さは 0.24m を測る。検出時には埋められていた桶の縦板の一部が見えていた。本遺構は桶内部の土が少なかったため、分析は行わなかったが、渋谷氏敷地内で検出された厠跡と同じ構造であり、本遺構も厠跡と判断される。

#### 第4項 廃棄土坑

##### 廃棄土坑 1 (第 121 図)

郡司氏建物 6 の東側隅と重なる位置にある。径 0.6m の不整円形プランで検出面からの深さは 0.15m を測る。埋土中からは陶磁器・瓦・礫等が出土した。

##### 廃棄土坑 2 (第 122 図)

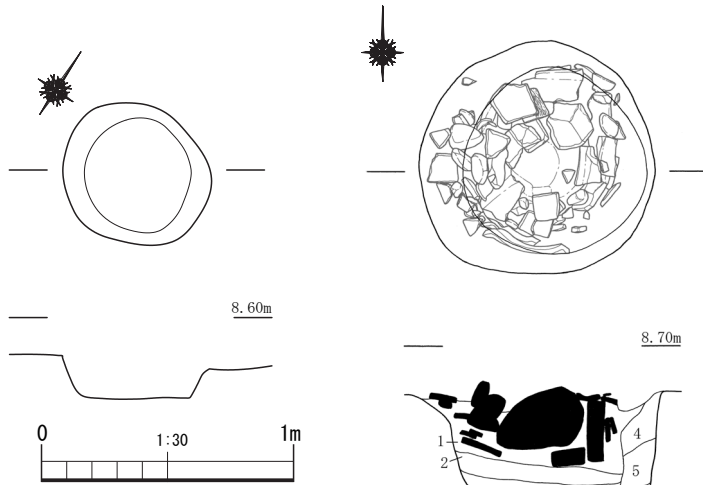
廃棄土坑 1 の南側に位置する。径 0.93m の不整円形プランで検出面からの深さは 0.45m を測る。遺構埋土の上部に陶磁器・瓦・礫等の遺物が集中していたが、下部にはあまり見られなかった。

##### 廃棄土坑 48 (第 123 図)

郡司氏建物 6 の南側に位置する。長さは 3.78m、幅は 1.53m ~ 1.2m の不整長楕円形プランで、検出面からの深さは 0.3m を測る。埋土中には陶磁器・瓦・礫の他に腐食した木片が多く含まれることが特徴的である。

#### 第5項 厠跡(第 124 図)

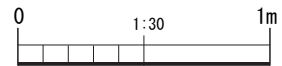
厠跡 156 郡司氏建物 5 の西側に位置する。0.96m



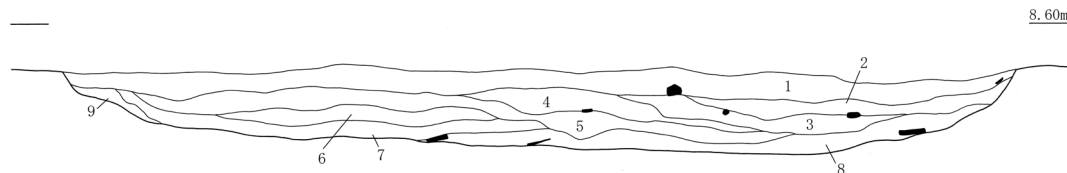
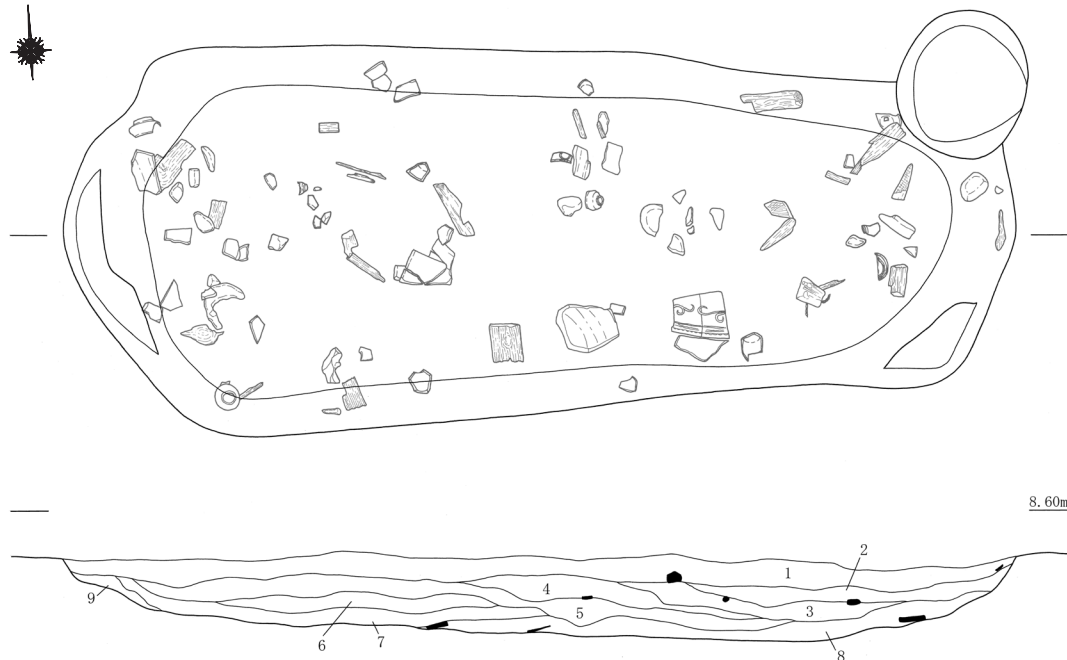
第121図 郡司氏廃棄土坑1  
実測図 (S=1/30)

土層注記

- 1: 黒褐色砂質土層 (Hue2.5YR3/1)  
遺物を多量に含む。炭化物を含む。
- 2: 黄灰色砂質土層 (Hue2.5YR5/1)  
遺物を少量含む。鉄分を少量含む。
- 3: 黄灰色砂質土層 (Hue2.5YR4/1)  
遺物を少量含む。鉄分を含む。
- 4: オリーブ黒色粘質土層 (Hue5Y3/1)  
鉄分をわずかに含む。
- 5: 灰色粘質土層 (Hue5Y4/1)  
地山ブロック、鉄分を含む。
- 6: 黄灰色粘質土層 (Hue2.5YR4/1)  
地山ブロックを含む。



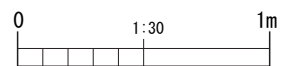
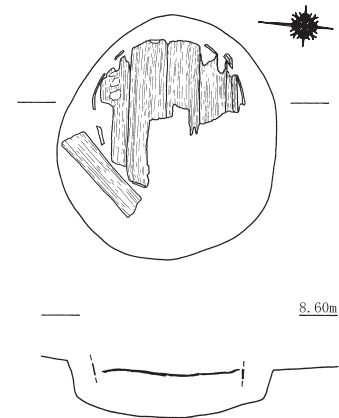
第122図 郡司氏廃棄土坑2実測図 (S=1/30)



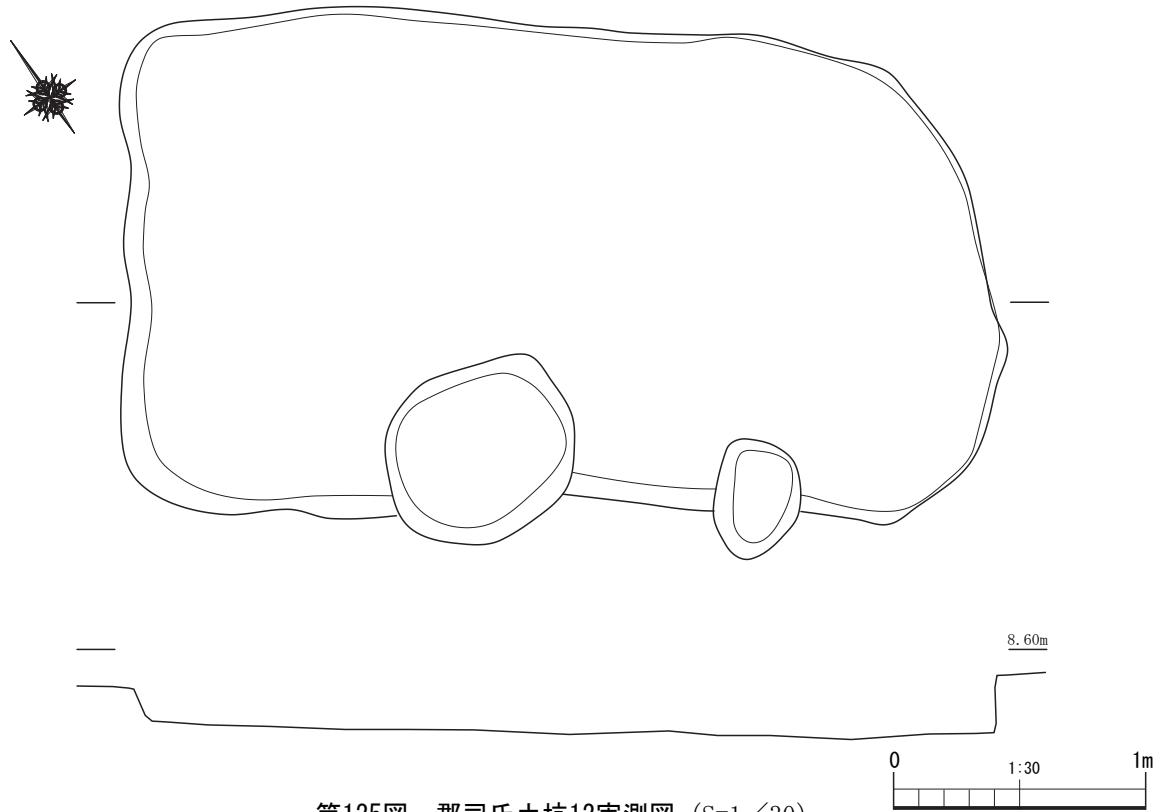
土層注記

- 1: 褐灰色シルト層 (Hue10YR4/1) 細砂混じり、炭化物少量含む。
- 2: 褐灰色シルト層 (Hue7.5YR4/1) 炭化物少量含む。
- 3: 灰黄褐色シルト層 (Hue10YR4/2) 腐蝕した木片を含む。
- 4: 黄灰色シルト層 (Hue2.5Y4/1) 腐蝕した木片を含む。
- 5: 暗褐色シルト層 (Hue10YR3/3) 炭化物少量含む。
- 6: 黒褐色シルト層 (Hue10YR3/2) 細砂混じる。
- 7: 黒褐色シルト層 (Hue10YR3/2) 細砂混じり、6より粘性強い。
- 8: 黒褐色シルト層 (Hue10YR3/1) 細砂混じり、腐蝕した木片を含む。
- 9: 明黄褐色シルト層 (Hue10YR3/2) 地山土のブロック層

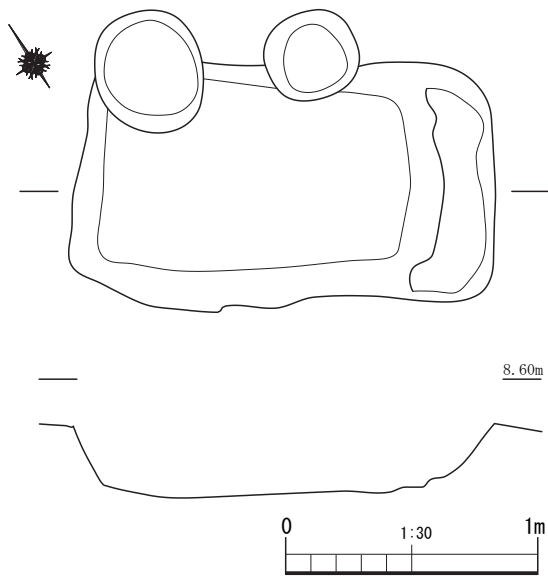
第123図 郡司氏廃棄土坑48実測図 (S=1/30)



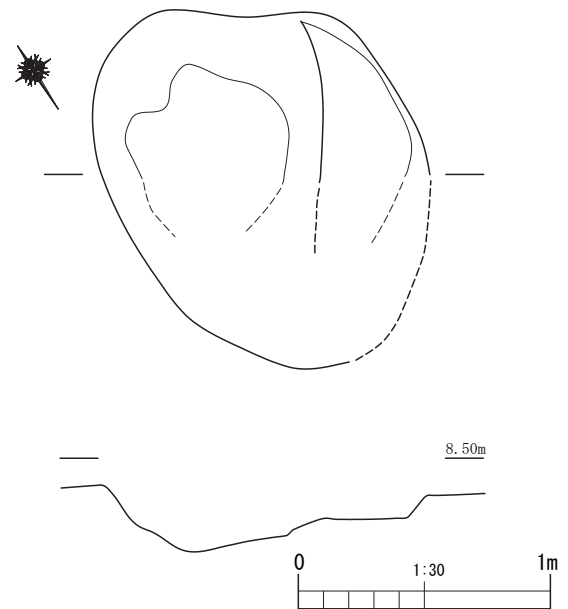
第124図 郡司氏厠跡156実測図 (S=1/30)



第125図 郡司氏土坑12実測図 (S=1/30)



第126図 郡司氏土坑18実測図 (S=1/30)

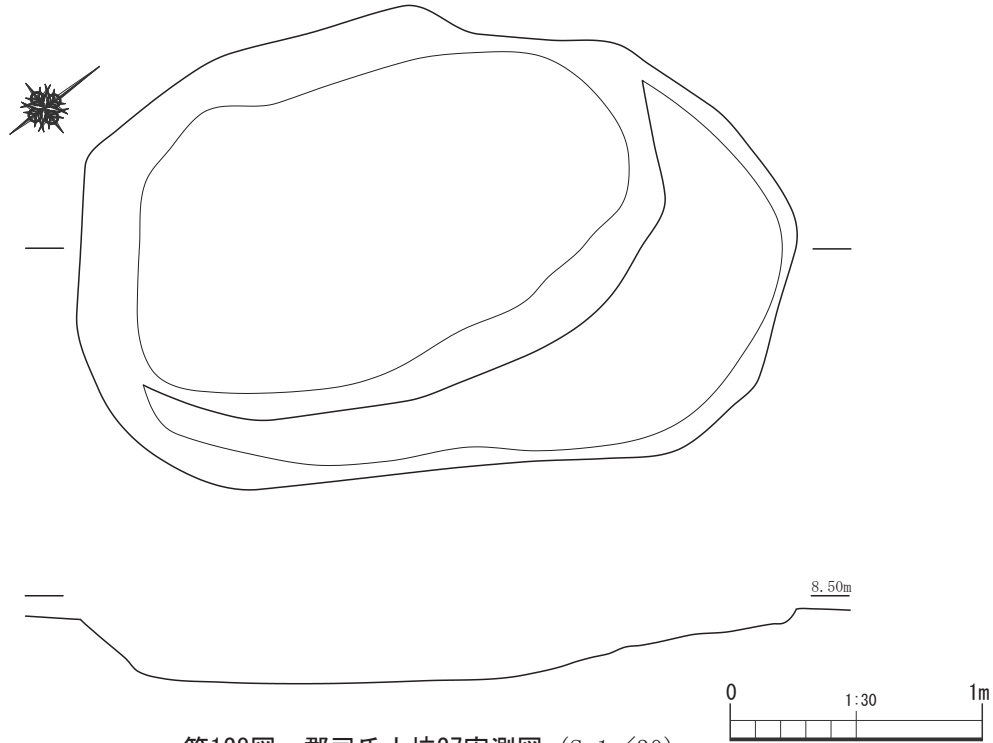


第127図 郡司氏土坑23実測図 (S=1/30)

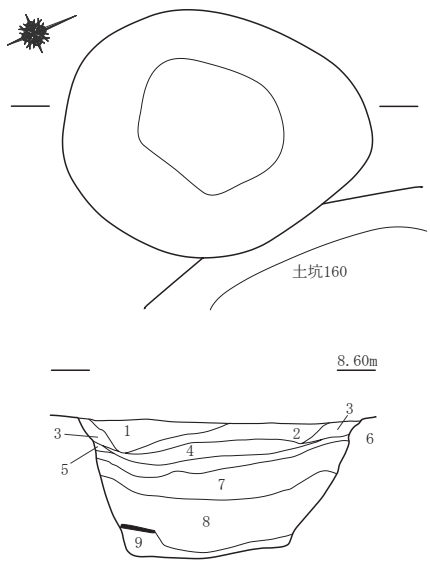
## 第6項 土坑

土坑 12(第125図) 井戸51の西側に位置する。3.51m×2.04mの不整隅丸長方形プランを呈し、検出面からの深さは0.24mを測る。

土坑 18(第126図) 郡司氏建物5の北側部分に重なる。1.68m×0.96mの不整隅丸長方形プ



第128図 郡司氏土坑27実測図 (S=1/30)

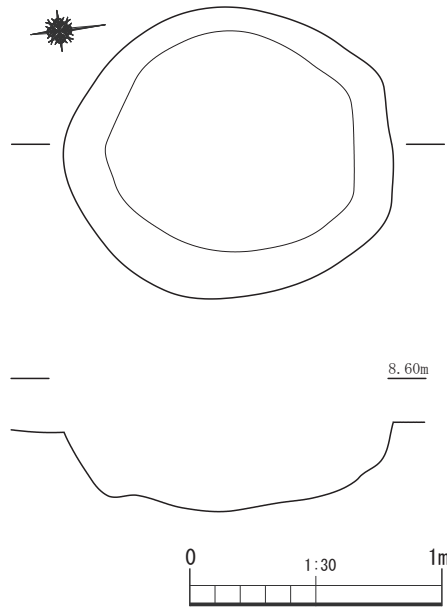


土層注記

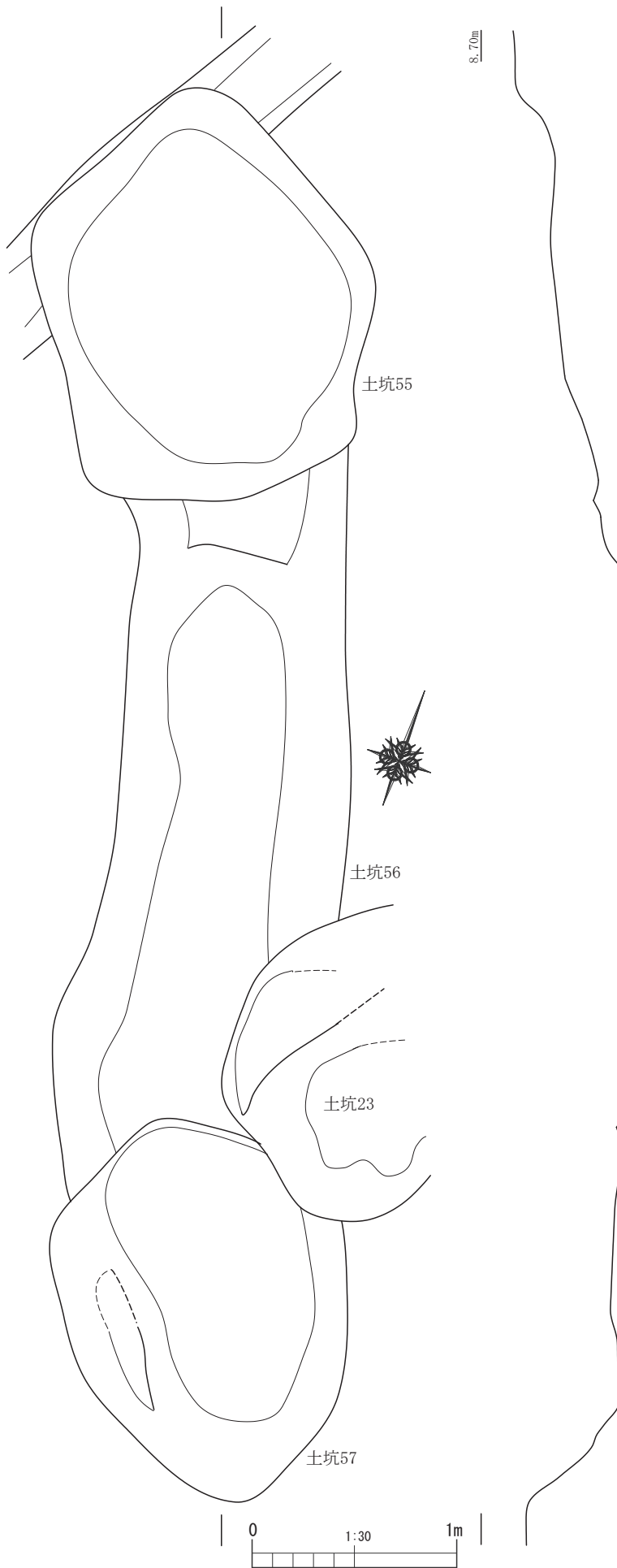
- 1: 灰色砂質土層 (Hue5YR4/1) 鉄分を少量含む。
- 2: 灰色砂質土層 (Hue5YR4/1) 3: 灰色砂質土層 (Hue5YR4/1)
- 4: 黒褐色シルト層 (Hue2.5YR3/2) 植物質の腐蝕層か。
- 5: 黒色粘土層 (Hue2.5YR2/1) 6: 黄灰色シルト質土層 (Hue2.5YR5/1)
- 7: 褐灰色シルト質土層 (Hue7.5YR4/1)
- 8: 灰褐色シルト層 (Hue7.5YR4/2) 木の枝、葉などの植物質を多く含む。
- 9: 灰褐色シルト層 (Hue7.5YR4/2) 籾殻を多く含む。



第129図 郡司氏土坑31実測図 (S=1/30)



第130図 郡司氏土坑33実測図 (S=1/30)



第131図 郡司氏土坑55・56・57実測図 (S=1/30)

ランを呈する。南西部にテラスがあり、検出面からの深さはテラス部分で0.21m、床面までは0.31mを測る。

**土坑 23 (第 127 図)** 廃棄土坑 48 の北西側に位置する。北側の残存状況が悪く全体の形状ははっきりしないが、現状で1.59m × 1.26m の不整楕円形プランを呈する。北西側にテラスがあり検出面からの深さはテラス部分で0.12m、床面までは0.27mを測る。

**土坑 27 (第 128 図)** 溝状遺構 5 の南西部に重なる2.85m × 1.74m の不整楕円形プランを呈する。北東側にテラスがあり検出面からの深さはテラス部分で0.12m、床面まで0.27mを測る。

**土坑 31 (第 129 図)** 廃棄土坑 48 の南東側に位置する。1.23m × 0.99m の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは0.51mを測る。下部に木質を多く含み、その下から靱殻が大量出土した。

**土坑 33 (第 130 図)** 郡司氏建物 8 の南西側に位置する。1.32m × 1.17m の不整円形プランを呈し、検出面からの深さは0.31mを測る。

**土坑 55・56・57 (第 131 図)**

土坑 23 の西側に重なる。3基の土坑の切り合い関係は不明瞭である。土坑 55 は2.01m × 1.65m の不整隅丸五角形プランを呈し、検出面からの深さは0.21mを測る。土坑 56 は両端



第132図 郡司氏土坑58実測図 (S=1/30)

部を土坑 55・57 に切られるため全体の形状ははっきりしないが、現状の規模は  $3\text{m} \times 1.11\text{m}$  で、検出面からの深さは  $0.63\text{m}$  を測る。土坑 57 は土坑 23 に北側を切られる。現状では  $1.92\text{m} \times 1.38\text{m}$  の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは  $0.45\text{m}$  を測る。

**土坑 58 (第 132 図)** 土坑 57 の西側に近接する。南側が調査区外まで続くため全体の形状ははっきりしないが、現状で  $5.4\text{m} \times 1.38\text{m}$  の不整長楕円形プランを呈し、検出面からの深さは  $0.45\text{m}$  を測る。

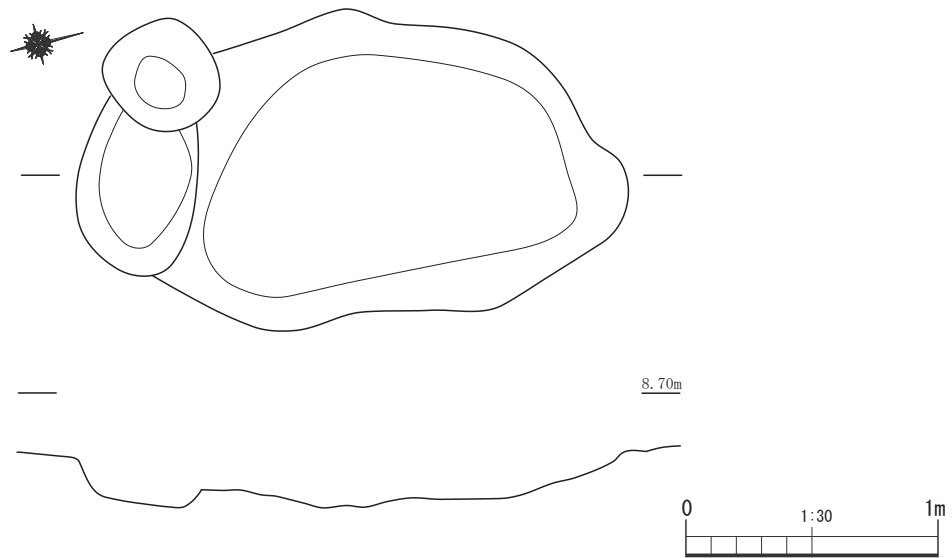
**土坑 59 (第 133 図)** 郡司氏建物 5 の北西側に近接する。建物 17 と重なるため全体の計上ははっきりしないが、現状で  $1.86\text{m} \times 1.43\text{m}$  の不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは  $0.18\text{m}$  を測る。

**土坑 60 (第 134 図)** 郡司氏建物 6 と重なる。 $2.31\text{m} \times 1.62\text{m}$  の不整楕円形プランを呈する。北西側にテラスがあり、検出面からの深さはテラス部分で  $0.12\text{m}$ 、床面まで  $0.21\text{m}$  を測る。

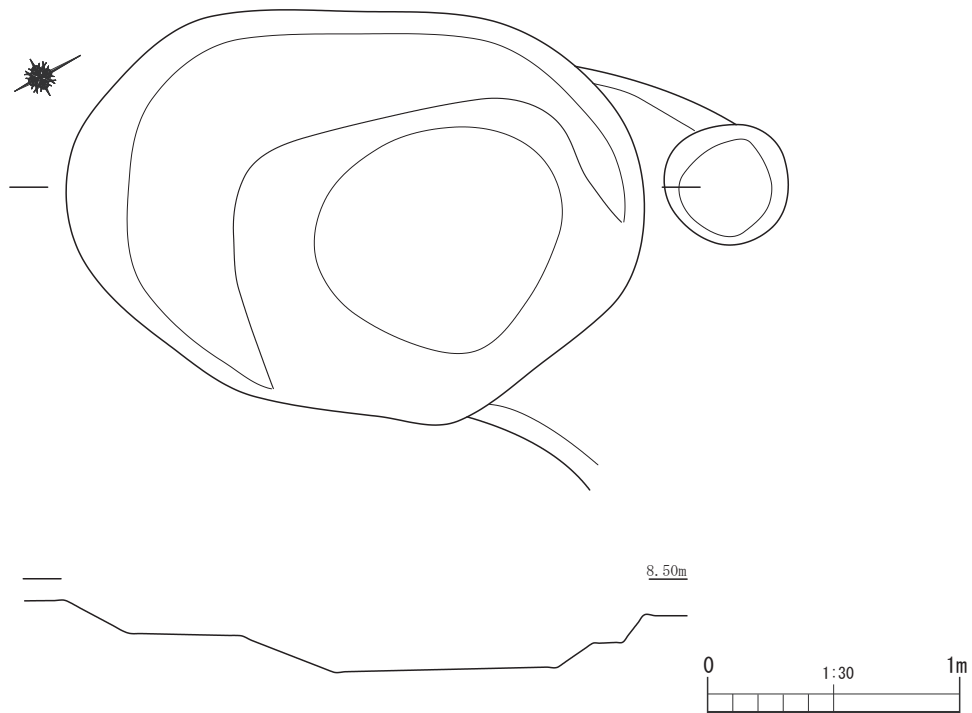
**土坑 67 (第 135 図)** 土坑 59 の北東側に位置する。 $2.55\text{m} \times 1.35\text{m}$  の不整隅丸長方形プランを呈し、検出面からの深さは  $1.23\text{m}$  を測る。埋土中からの出土遺物として寛永通宝が目立った。

**土坑 98 (第 136 図)** 土坑 67 の東側に位置する。北～西側を土坑に切られており、全体の形状ははっきりしないが、現状で  $0.99\text{m} \times 0.75\text{m}$  の不整楕円形プランで、検出面からの深さは  $0.06\text{m}$  を測る。

**土坑 160 (第 137 図)** 土坑 31 に南西側が重なる。 $5.64\text{m} \times 2.55\text{m}$  の不整長楕円形プランを呈し、検出面からの深さは  $0.27 \sim 0.42\text{m}$  を測る。



第133図 郡司氏土坑59実測図 (S=1/30)



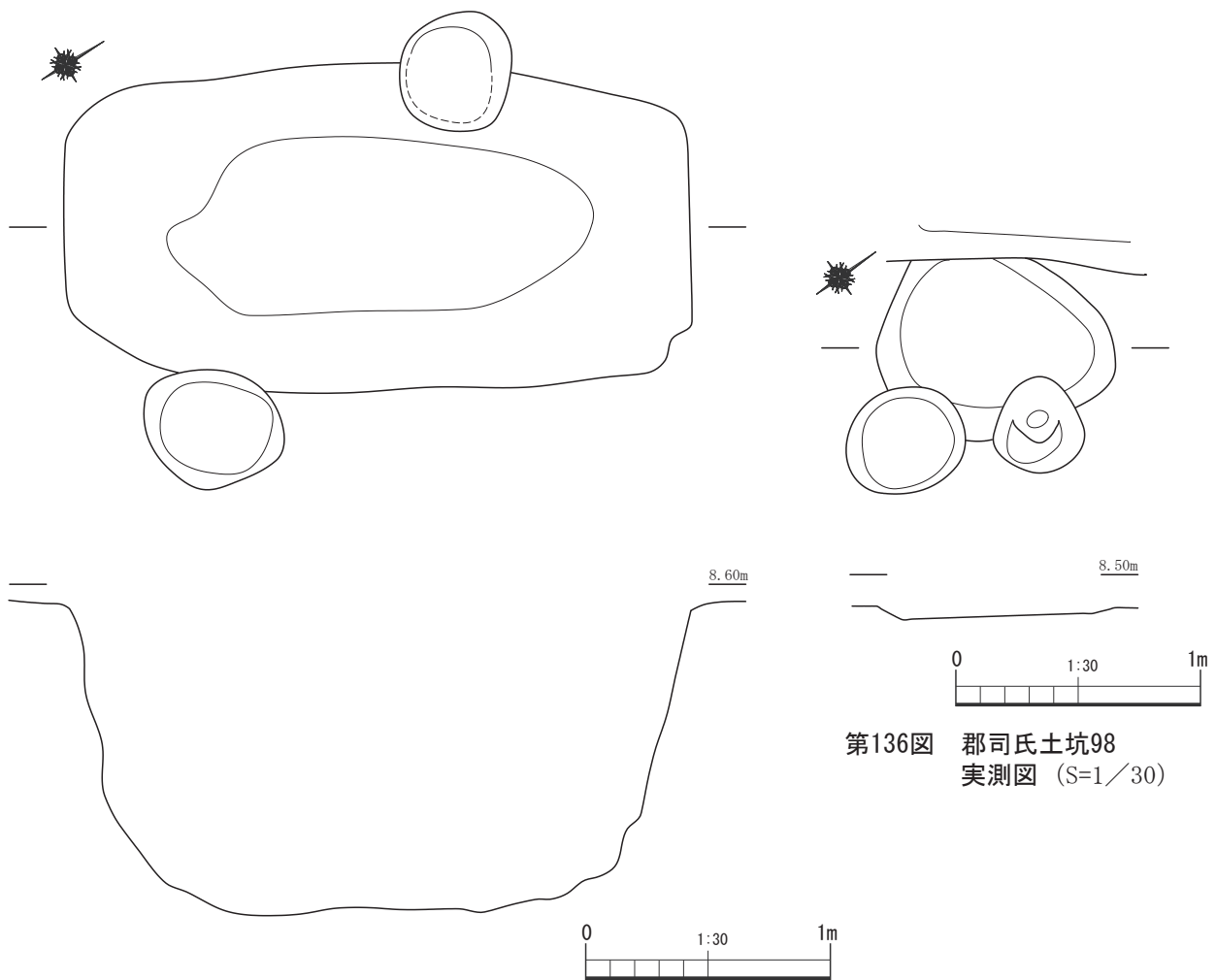
第134図 郡司氏土坑60実測図 (S=1/30)

### 第7項 溝状遺構 (第5図)

郡司氏敷地内の溝状遺構は13条検出されている。その方線は屋敷境の溝状遺構5と並行するか直交している。小規模のものばかりで用途等は不明である。本項では溝状遺構5の報告を行う。

**溝状遺構5 (第138図)** 溝状遺構6の南側に位置し、調査区の北東部から南西部まで直線的に伸びる。南西側は地山が削平を受けているためか、浅くなって調査区外までは続いていない。幅は1.16m～0.37mで、検出面からの深さは0.38m～0.07mを測る。埋土中から多くの遺物が出土したが、特に北東部に遺物が集中する傾向が見られた。溝状遺構6のように廃棄場となっていた可能性がある。





第135図 郡司氏土坑67実測図 (S=1/30)

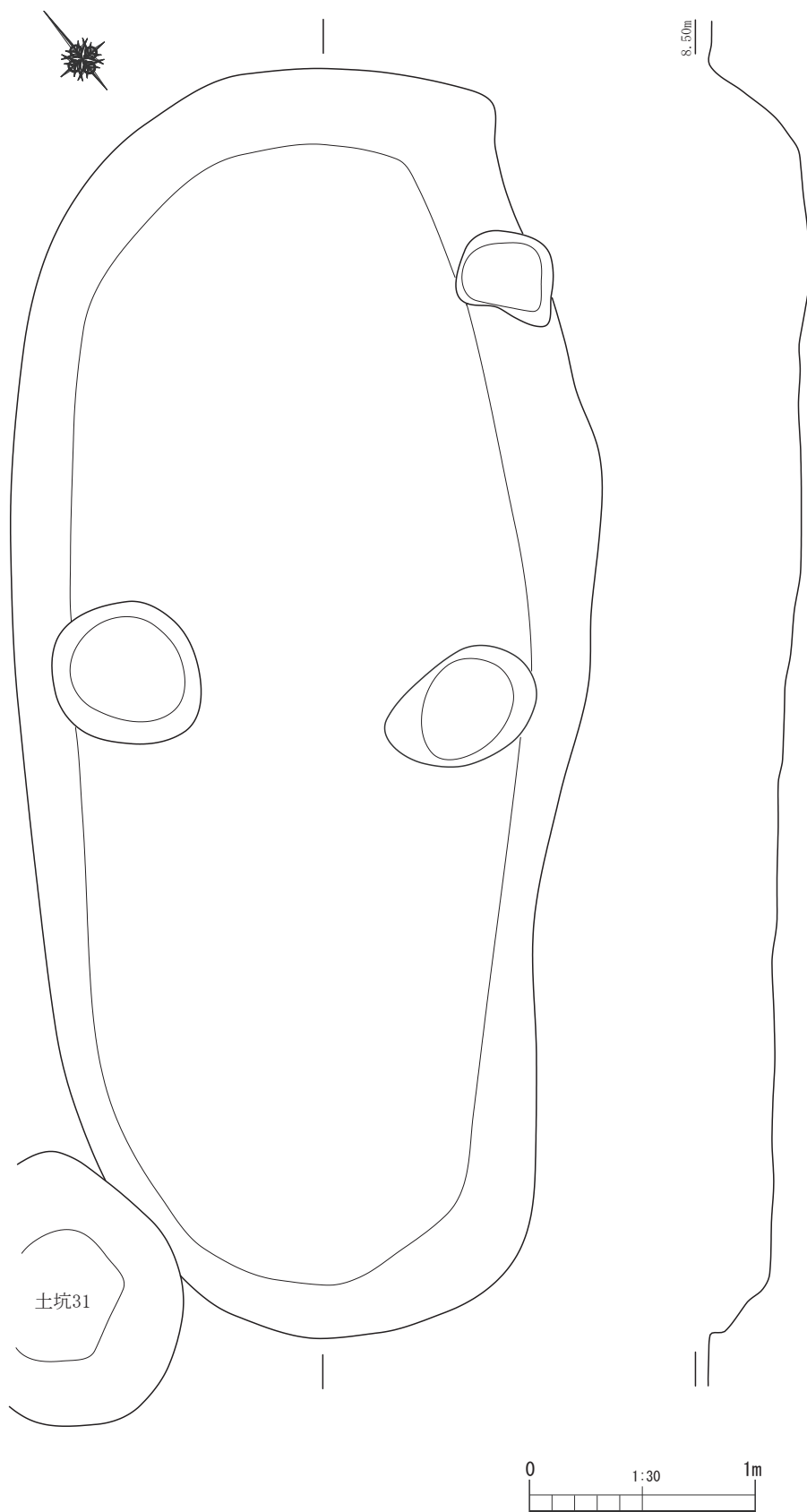
第136図 郡司氏土坑98  
実測図 (S=1/30)

## 第2節 出土遺物について

### 第1項 陶磁器 (第139図～第144図、第8表～10表)

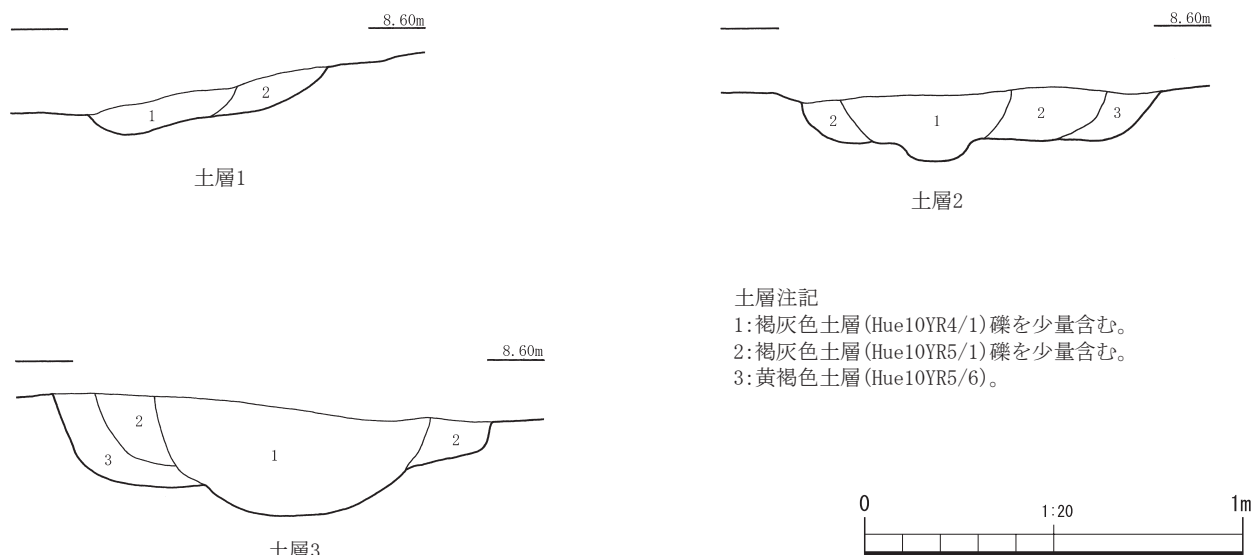
747・748は廃棄土坑1の出土遺物である。747は見込にコンニャク印判の五弁花、内面に蝶・花文が見られる。748は輪花皿で内面に山水・鳥居文が見られる。749～760は廃棄土坑2の出土遺物である。749は外面にコンニャク印判の若松文が見られる。753は白薩摩の碗で外面底部付近に「千鳥印」が見られる。754・755は瀬戸美濃の端反碗で焼継ぎが見られる。756は広東碗風の陶器碗である。759は段重で色絵が施されている。761～779は廃棄土坑48の出土遺物である。761は小広東碗である。762は外面に網目文が見られる。764は高台内が渦巻状に削られている。765は広東碗の蓋で外面に楼閣山水文が見られる。766は段重で外面に楼閣山水文が見られる。767は景德鎮の皿で高台内に「富貴佳器」の銘款が見られる。771は鮫肌釉の蓋である。

780・781は土坑12から出土した播鉢である。782は土坑23から出土した小杯である。783～785は土坑27の出土遺物である。783は外面に笹文が見られる。784は端反碗である。786



第137図 郡司氏土坑160実測図 (S=1/30)

～789は土坑33の出土遺物である。786は清朝磁器である。787は外面に竹文、見込にコンニャク印判の五弁花が見られる。788は把手付碗で鳥の餌入れの可能性はある。789は錢甕で、底部付近に逆三角形の記号が見られる。790・791は土坑56の出土遺物である。790は外面に露草文が見られる。792・793は土坑57の出土遺物である。794～799は土坑58の出土遺物である。794は京焼色絵陶器碗である。795は外面に笹梅文、高台内面に渦「福」が見られる。798は白薩摩の蓋で、外面に花文が見られる。800～802は土坑59の出土遺物である。801は関西系の小杯である。803～809は土坑67の出土遺物である。804は小杉碗である。805は備前のぺこかんである。806は外面にコンニャク印判による楓文が見られる。808は明代の青磁の燭台である。810・811は土坑



第138図 郡司氏溝状遺構5土層断面図 (S=1/20)

98の出土遺物である。810は見込みにコンニャク印判の五弁花が外面に丸・格子文が見られる。812～816は土坑160の出土遺物である。813は外面に鉄絵が見られる。816は関西系の灯明皿である。817～839は溝状遺構5の出土遺物である。817は外面と見込みに格子文が見られる。819と820は瀬戸美濃の端反碗で、819は焼継ぎ痕が見られる。821はせんじ碗である。825・826は輪花皿で、825は見込みに楼閣山水文が見られる。828は関西系の灯明皿である。829は型押し成形の紅皿である。830は葉入である。832は香炉である。833は変形の仏花瓶である。

840～847は郡司氏敷地内柱穴の出土遺物である。840は端反碗である。841は粗製の青花碗で高台は無釉である。842は広東碗蓋で外面に蝶文が見られる。843は高台から緩やかに彎曲した胴部を持ち、見込みに胎土目積み痕、内面には鉄絵が見られる。

## 第2項 土器・土製品 (第145図、第12表～第13表)

848・849は土坑12から出土した撫肩形大壺で、同一固体と考えられる。850は土坑18から出土した煎りゴマの破片である。851は土坑58から出土した羽釜で、金属製のものを模したものの可能性があり、外面に花文が見られる。852は土坑59から出土した煎りゴマの取っ手の破片である。853・854は土坑160の出土遺物である。853は851と同様の羽釜で、854は焙烙である。855・856は土坑33の出土遺物である。855は燭台で、856は人形である。857は土坑56から出土した亀型の人形である。858・859は郡司氏敷地内の柱穴から出土したもので、858は人形徳利の装飾部分で、859は人形である。860は溝状遺構5から出土したさなである。

## 第3項 瓦 (第146図)

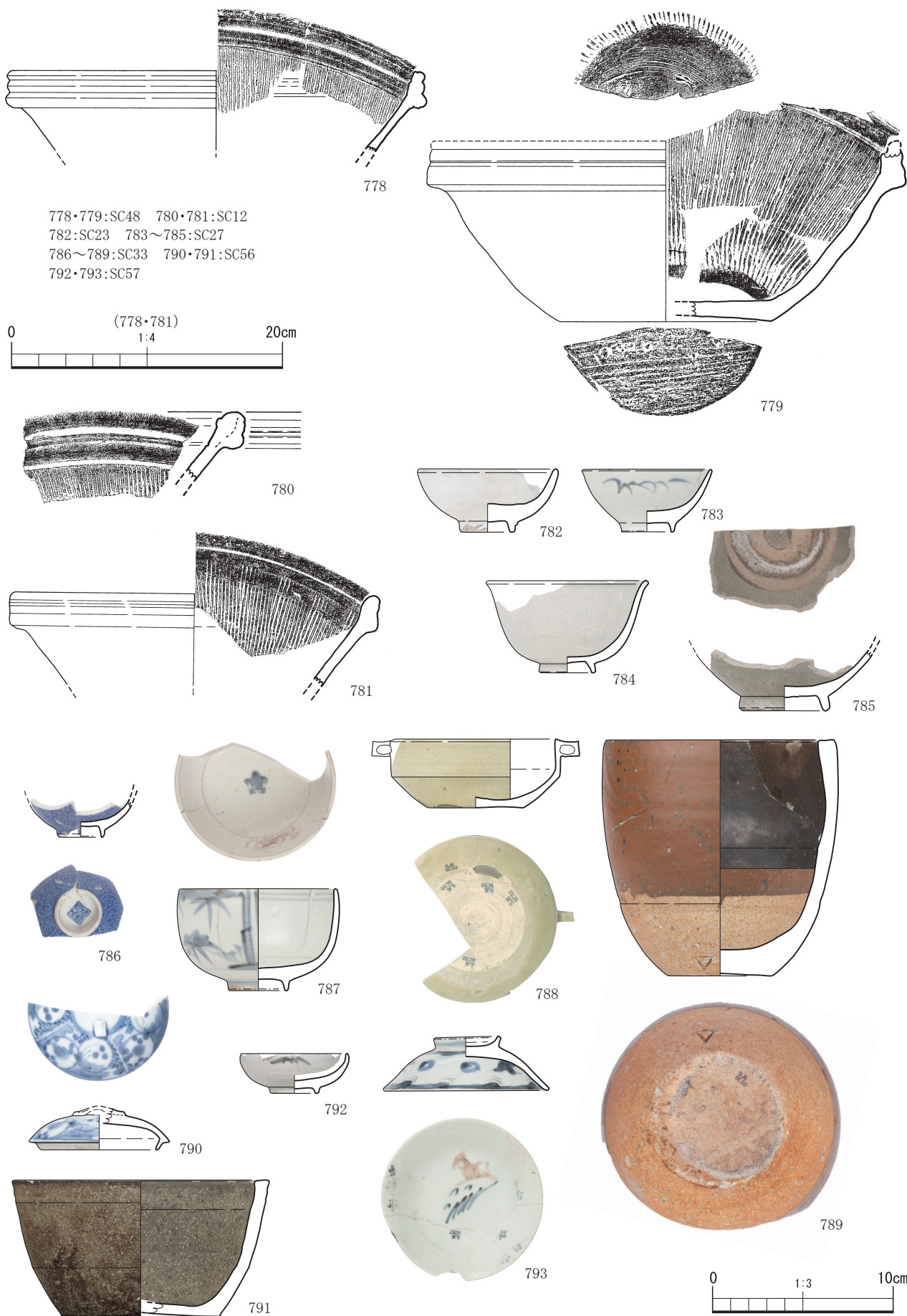
861は廃棄土坑1から出土した軒平瓦である。862・863は廃棄土坑2の出土遺物である。



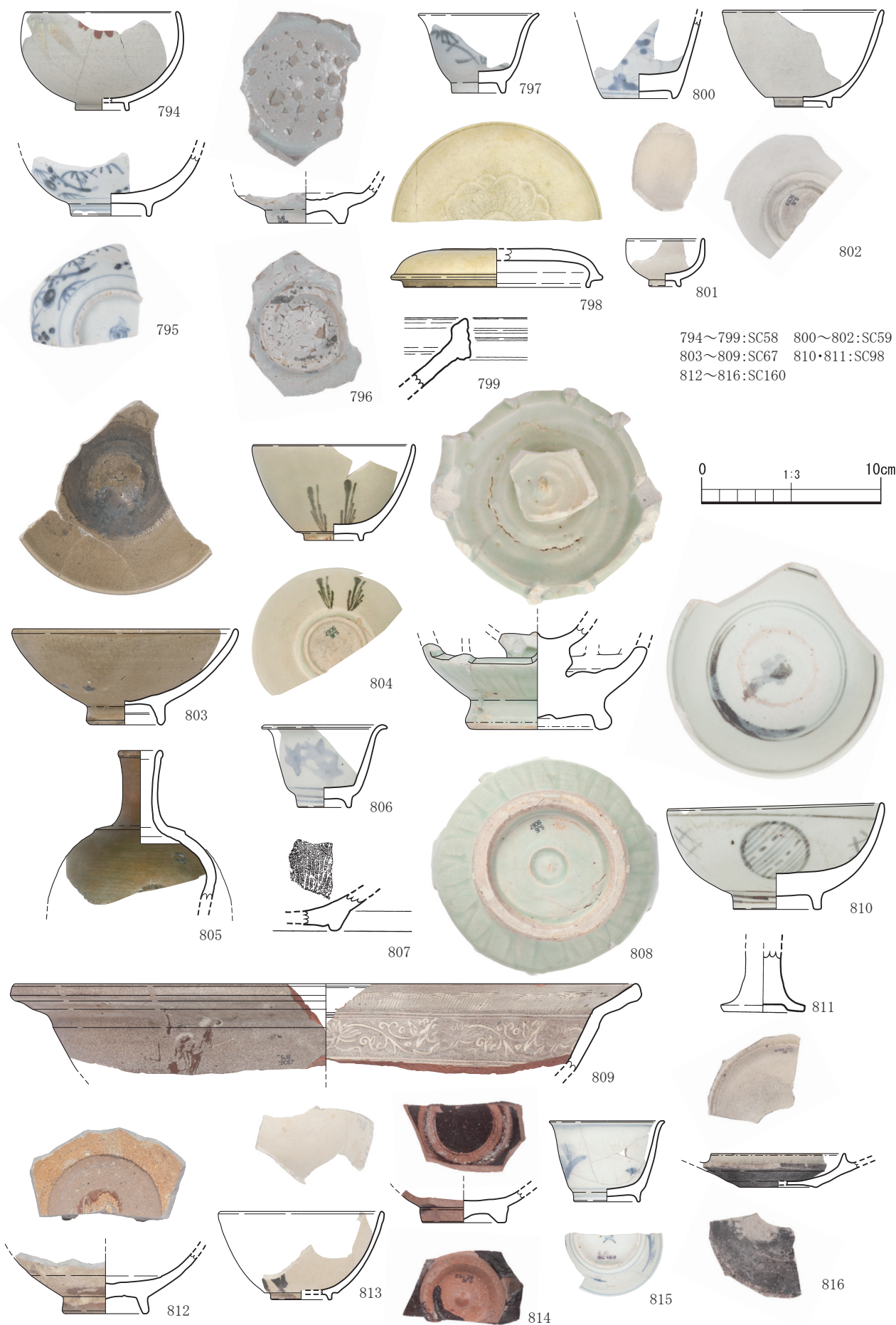
第139図 郡司氏廃棄土坑1・2・48出土陶磁器実測図 (S=1/3)



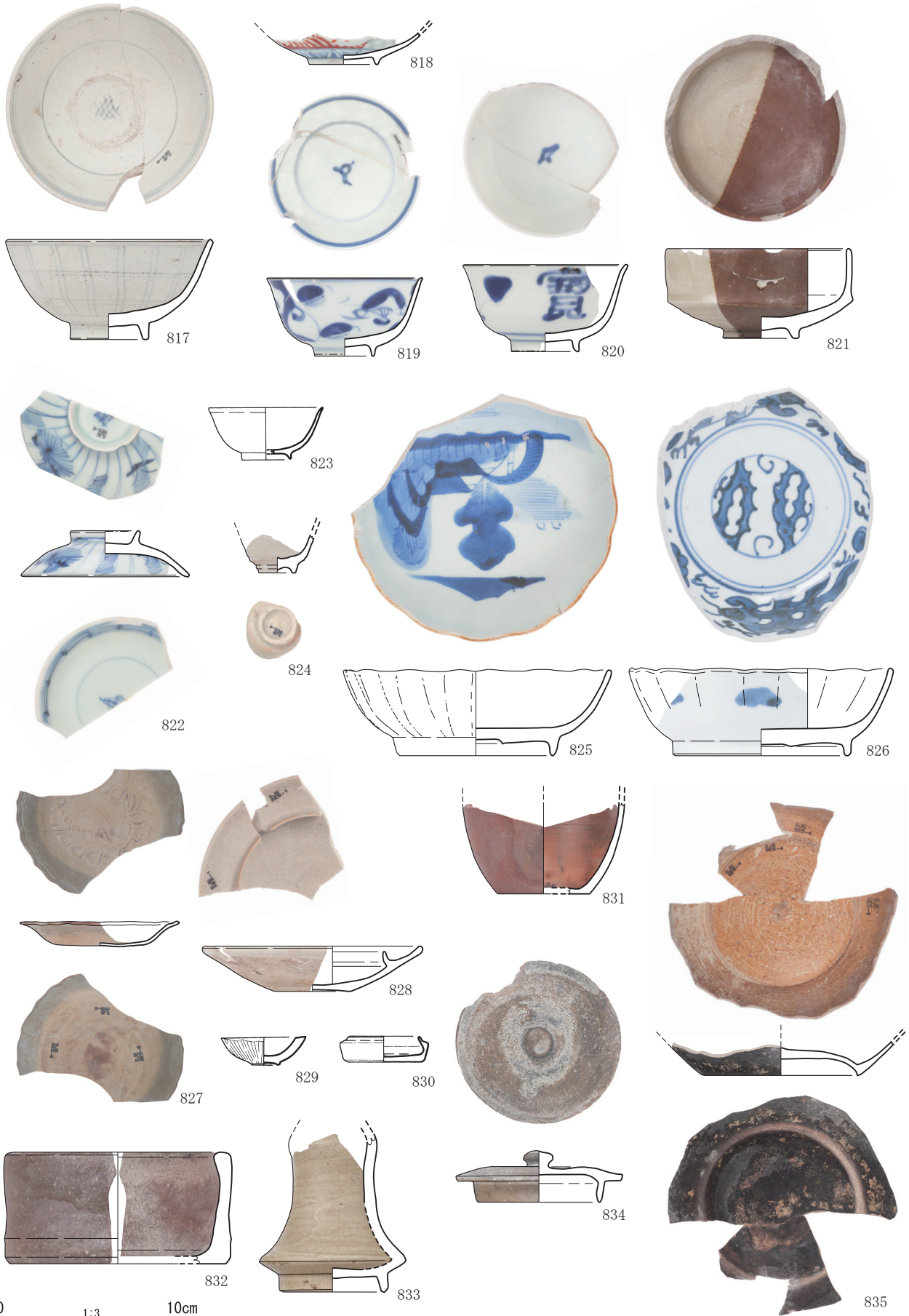
第140図 郡司氏廃棄土坑48出土陶磁器実測図 (S=1/3・1/4)



第141图 郡司氏廃棄土坑48、土坑12·23·27·33·56·57出土陶磁器実測图 (S=1/3·1/4)

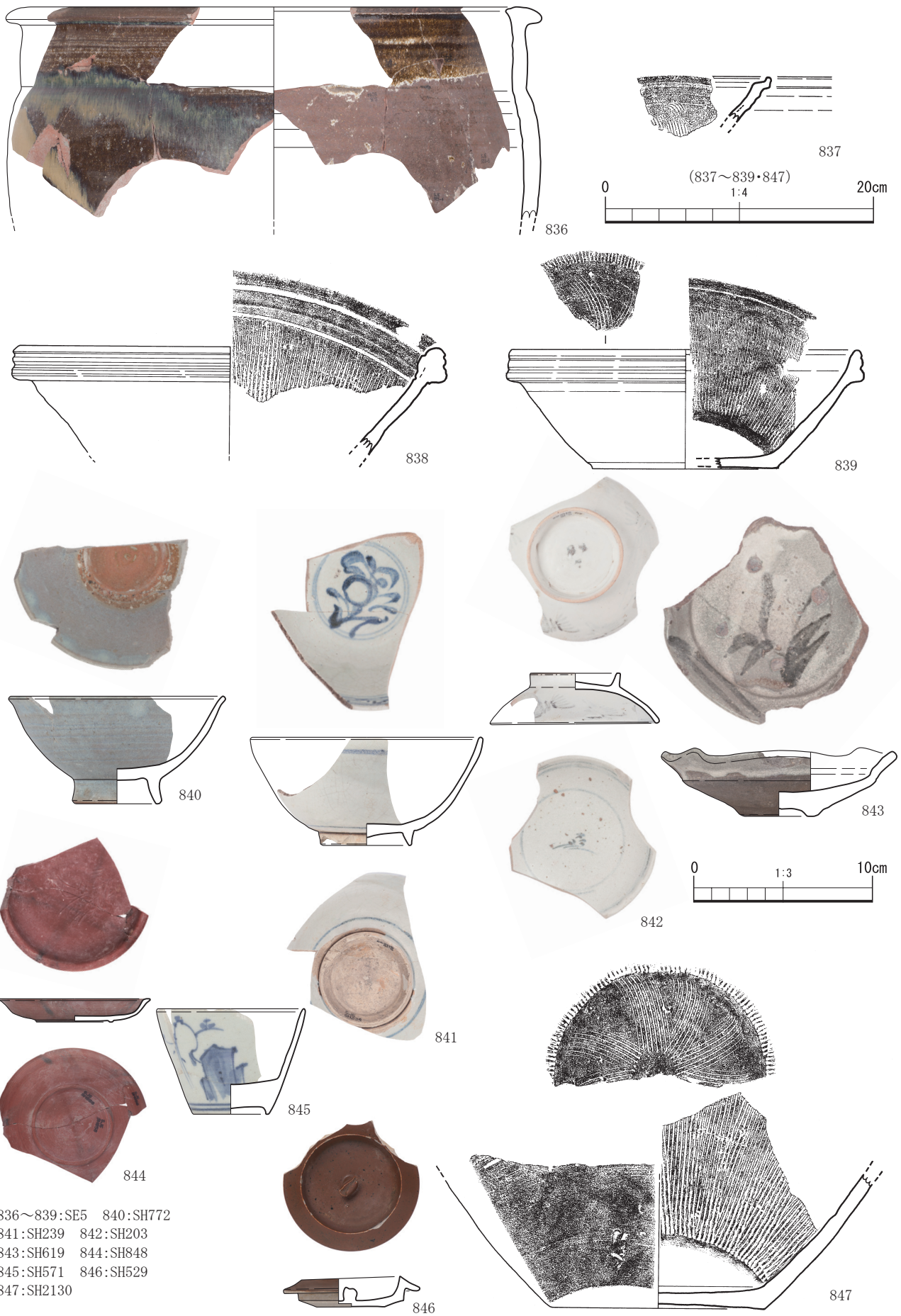


第142图 郡司氏土坑58·59·67·98·160出土陶磁器実測図 (S=1/3)



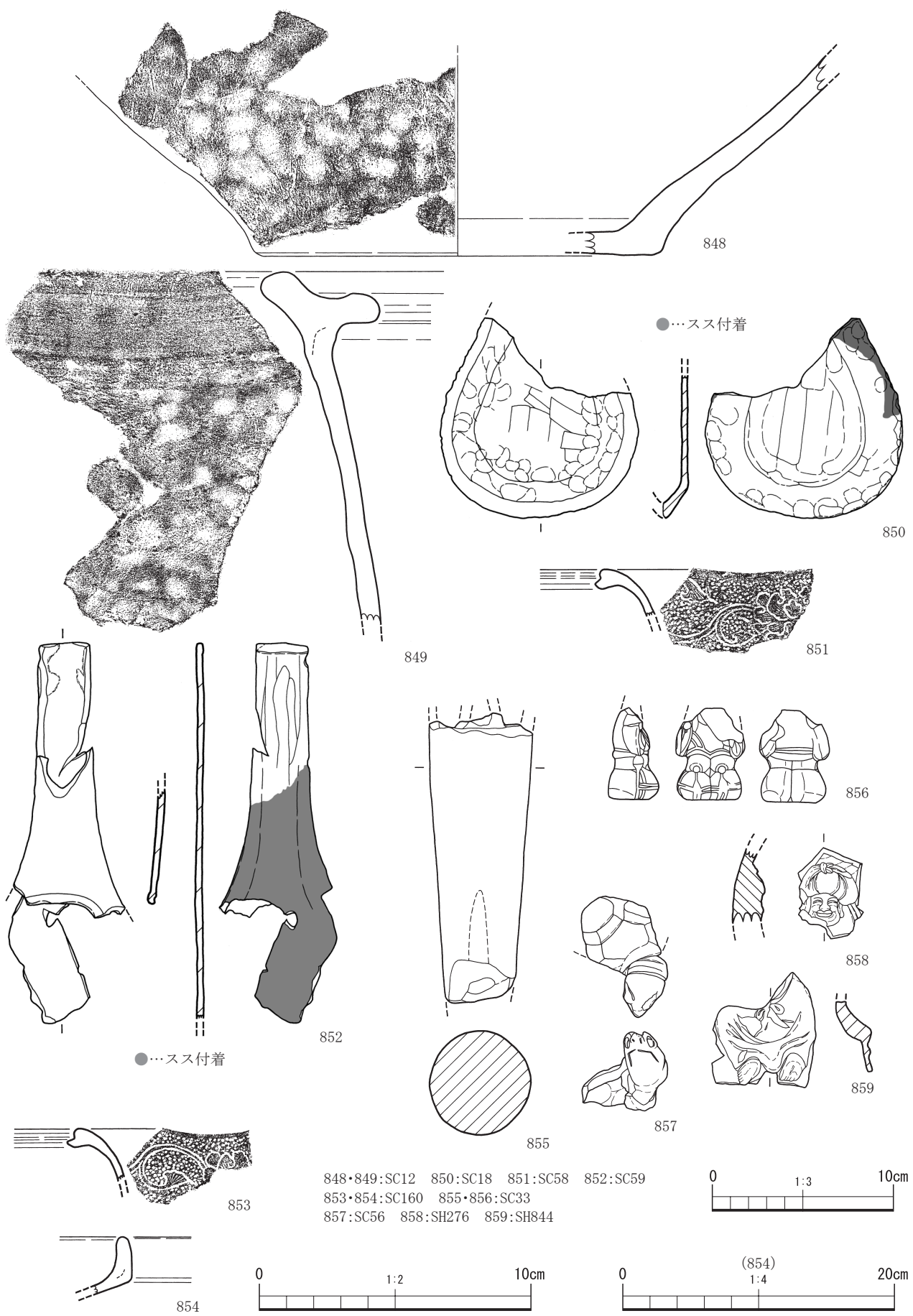
第143图 郡司氏溝状遺構5出土陶磁器実測図 (S=1/3)





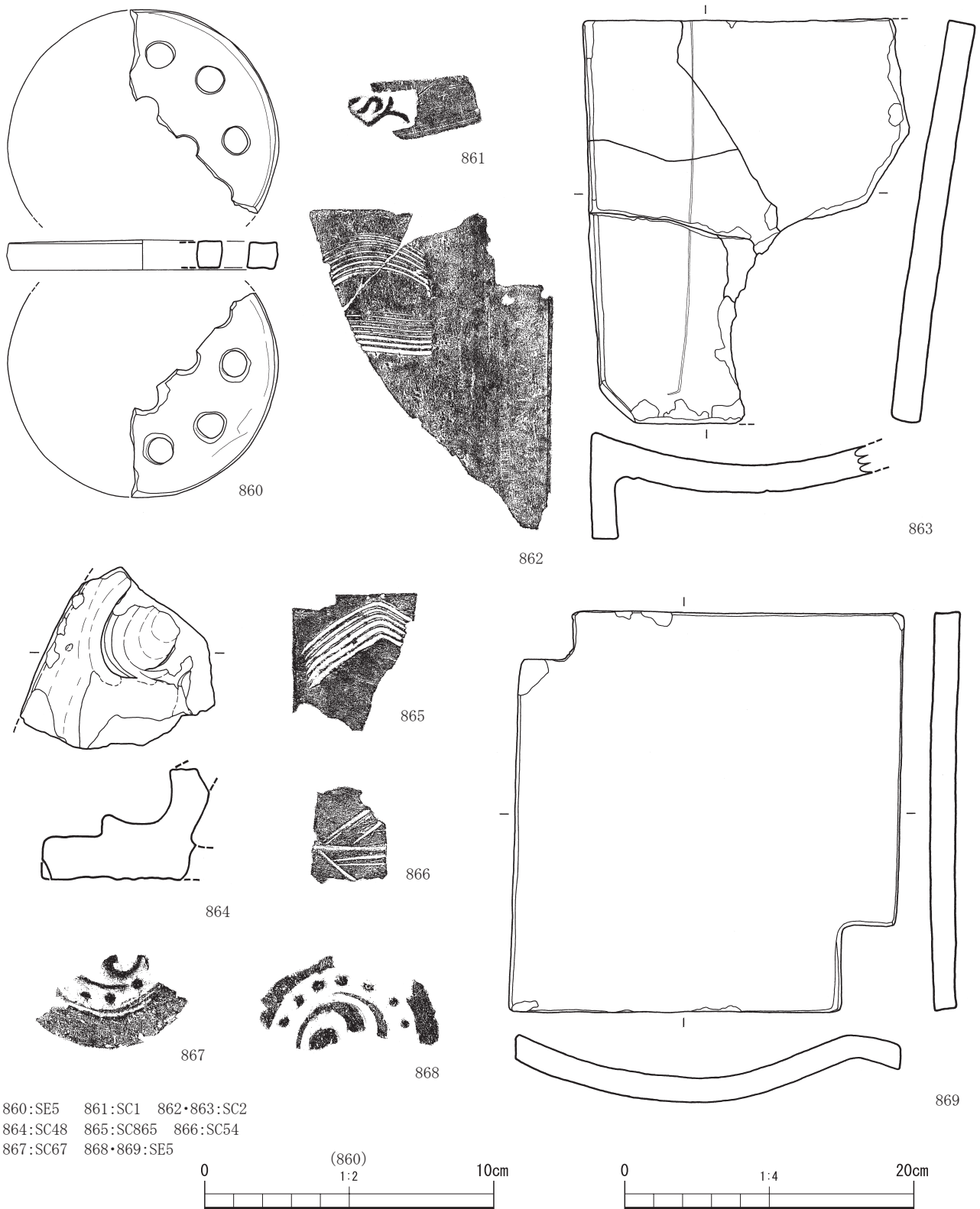
836~839:SE5 840:SH772  
 841:SH239 842:SH203  
 843:SH619 844:SH848  
 845:SH571 846:SH529  
 847:SH2130

第144図 郡司氏溝状遺構5、柱穴出土陶磁器実測図 (S=1/3・1/4)



848・849:SC12 850:SC18 851:SC58 852:SC59  
 853・854:SC160 855・856:SC33  
 857:SC56 858:SH276 859:SH844

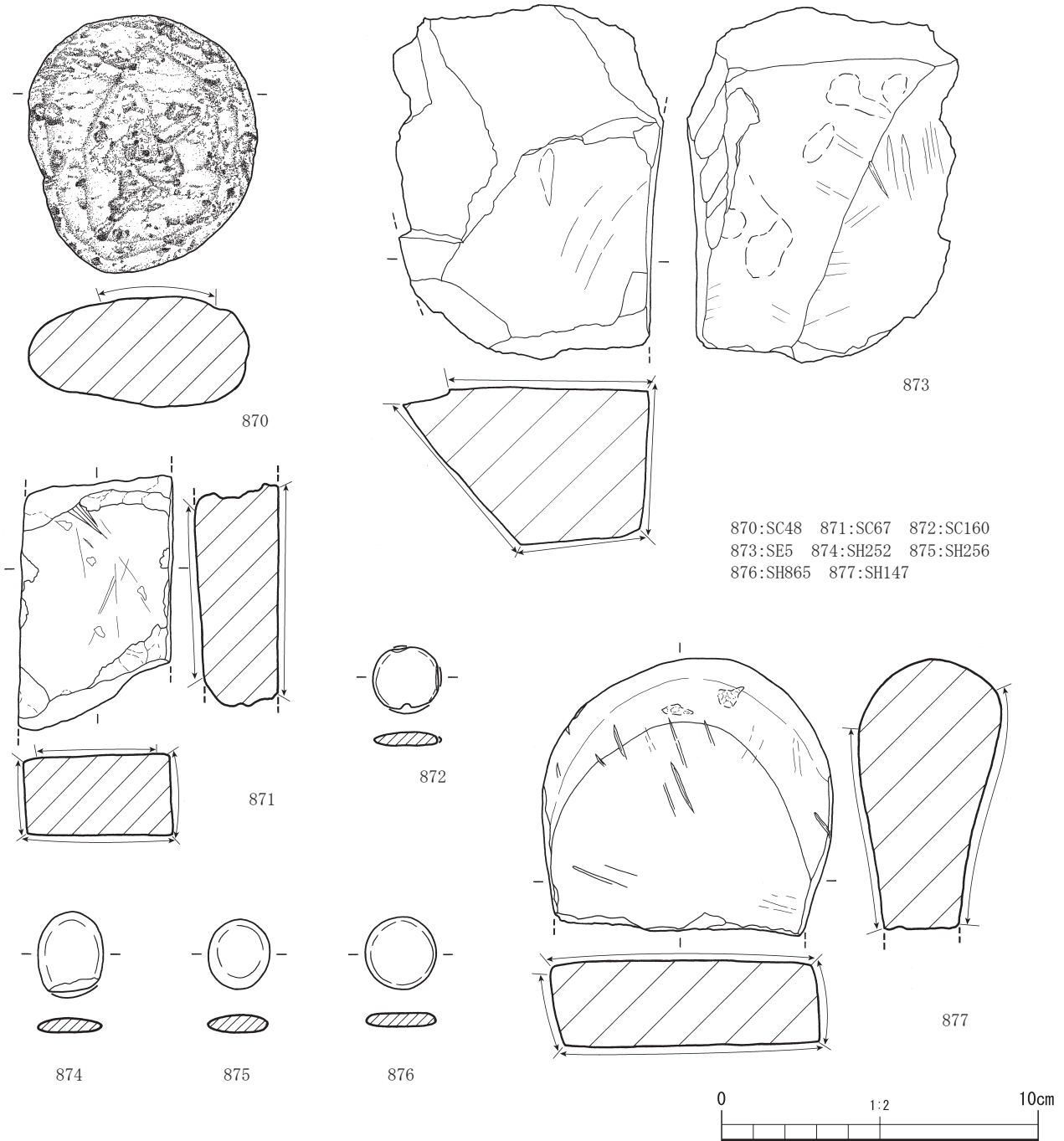
第145図 郡司氏土坑12・18・36・56・58・59・160、柱穴出土土器、土製品実測図 (S=1/2・1/3・1/4)



860:SE5 861:SC1 862・863:SC2  
 864:SC48 865:SC865 866:SC54  
 867:SC67 868・869:SE5

第146図 郡司氏溝状遺構5、廃棄土坑1・2・48、土坑12・59・67出土土製品、瓦実測図 (S=1/2・1/4)

862 は平瓦で楢描き文が見られる。863 は袖瓦である。864 は廃棄土坑 48 から出土した鬼瓦である。865 は土坑 12 から出土した平瓦で楢描き文が見られる。866 は土坑 59 から出土した瓦片で焼成後の線刻が見られる。867 は土坑 67 から出土した軒丸瓦である。868・869 は溝状遺構 5 の出土遺物である。868 は軒丸瓦で、869 は完形の平瓦である。



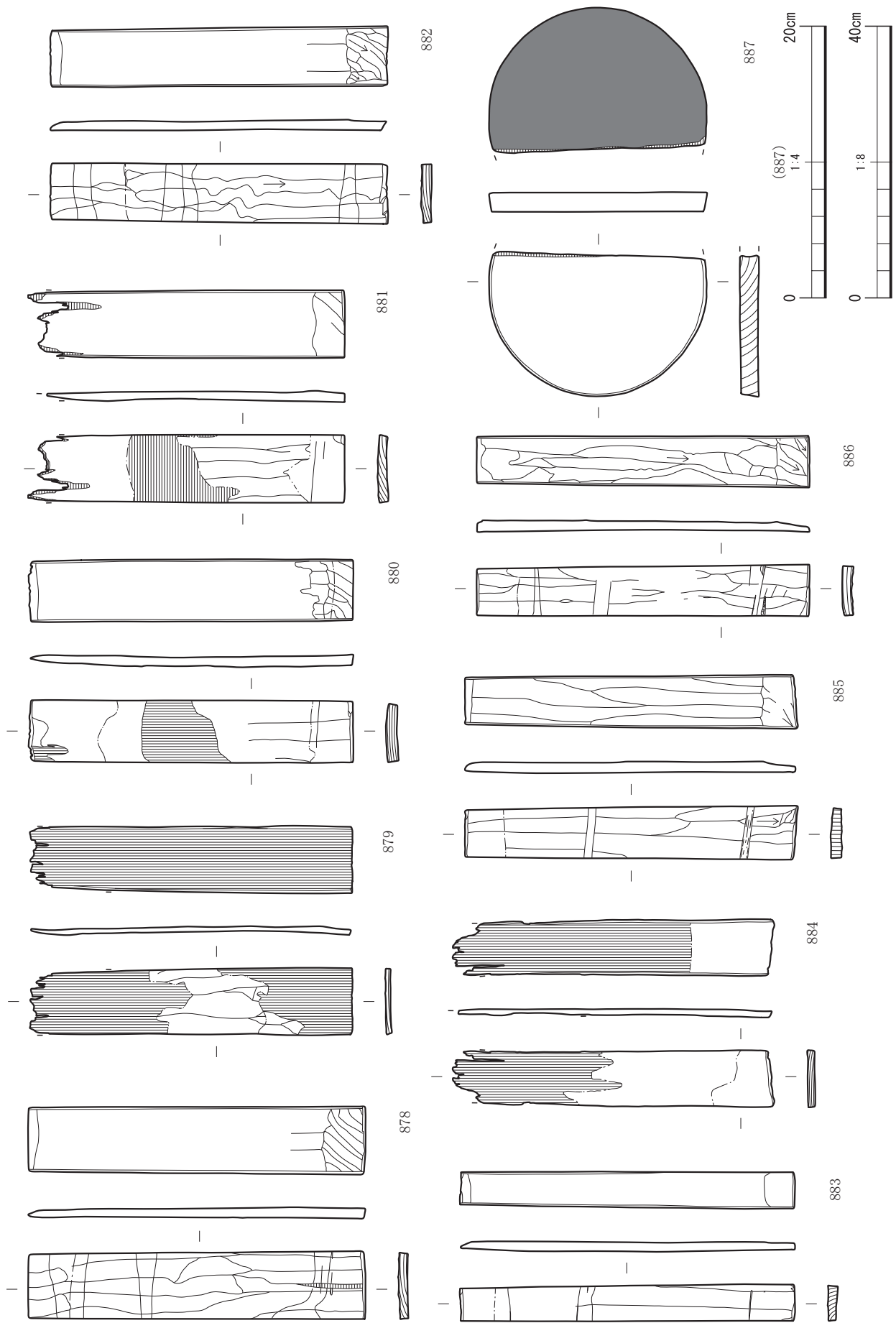
第147図 郡司氏廃棄土坑48、土坑67・160、溝状遺構5、柱穴出土石製品実測図 (S=1/2)

#### 第4項 石製品 (第147図、第16表)

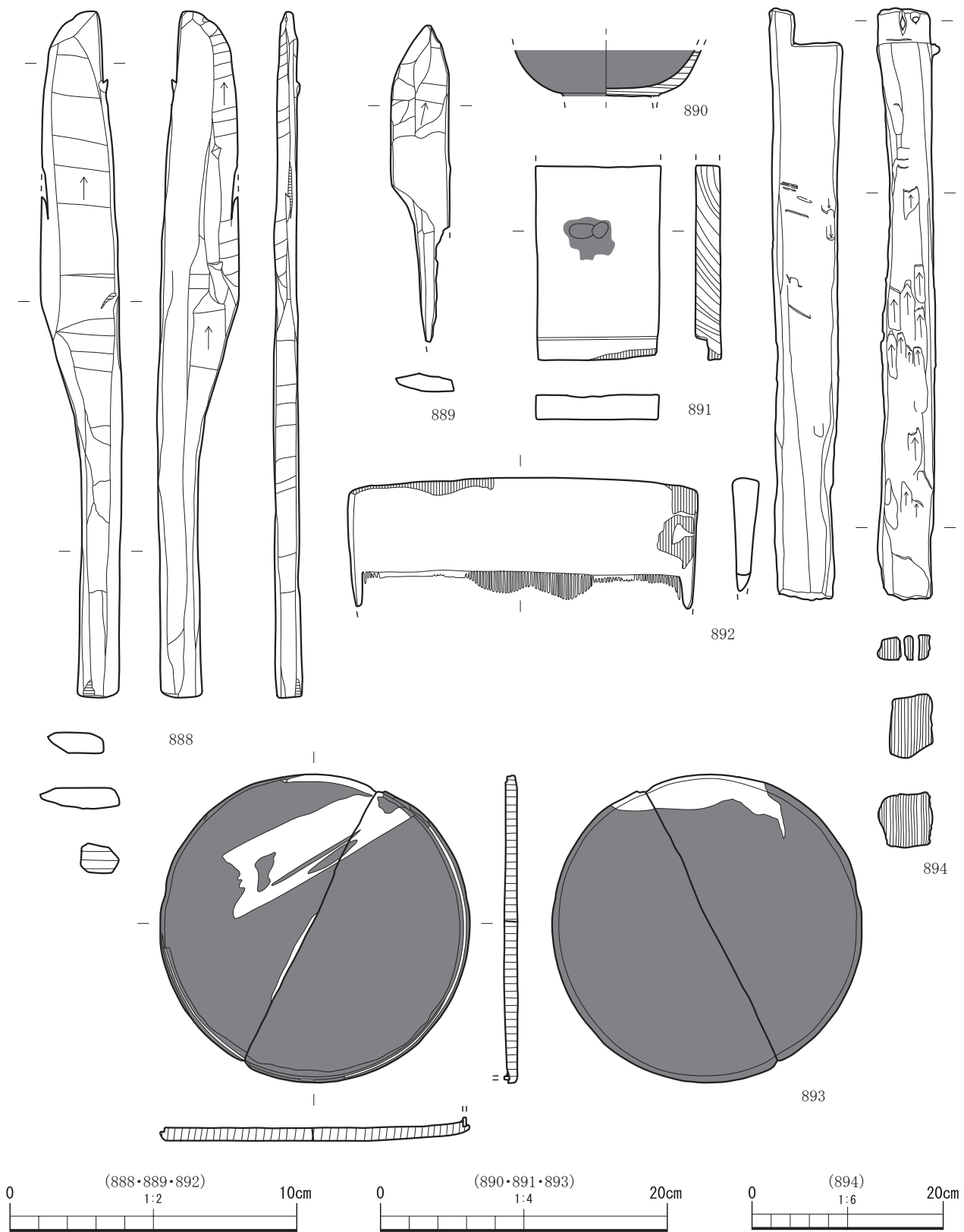
870は廃棄土坑48から出土した軽石製品である。871は土坑67から出土した砥石である。872は土坑160から出土した碁石である。873は溝状遺構5から出土した砥石である。874～877は郡司氏敷地内で検出された柱穴から出土したもので、874～876は碁石で、877は砥石である。

#### 第5項 木製品 (第148図～第150図、第18表～第19表)

878～886は井戸51の井戸枠の板材である。887は土坑31から出土した円形の丸板で漆が塗布されている。888～895は土坑67の出土遺物である。888は刀子状のヘラである。889は

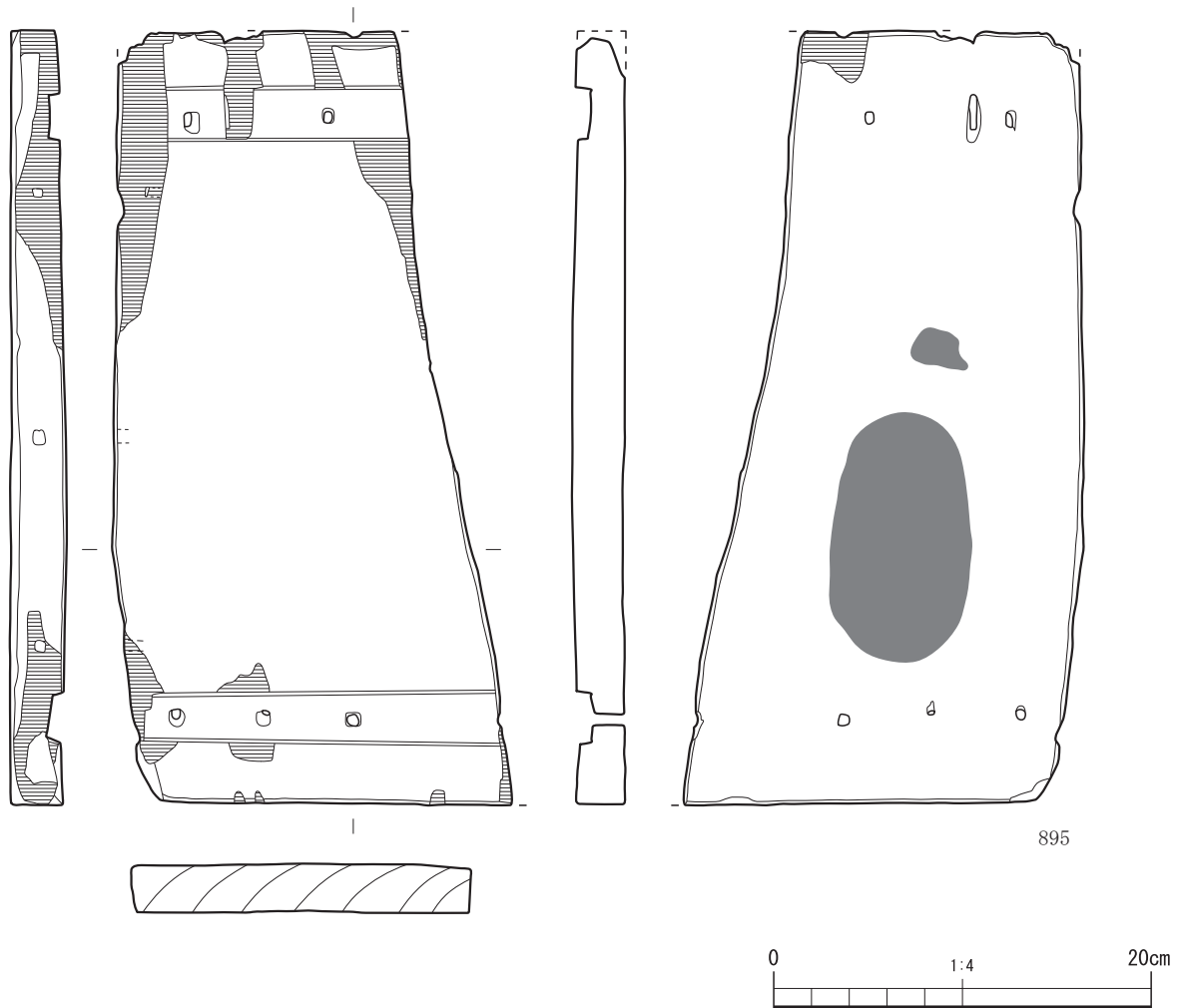


第148図 郡司氏井戸51、土坑31出土木製品実測図 (S=1/4・1/8)



第149図 郡司氏土坑67出土木製品実測図① (S=1/2・1/4・1/6)

888 よりもさらに小さな刀子状のへらである。890 は漆塗りの椀である。891 は加工木材の一部で、焦げ跡が見られる。892 は櫛である。893 は漆が塗布されており盆と考えられる。894 は柱の一部であろうか、上部に穿孔が見られる。895 は膳で焦げ跡が見られる。



第150図 郡司氏土坑67出土木製品実測図② (S=1/4)

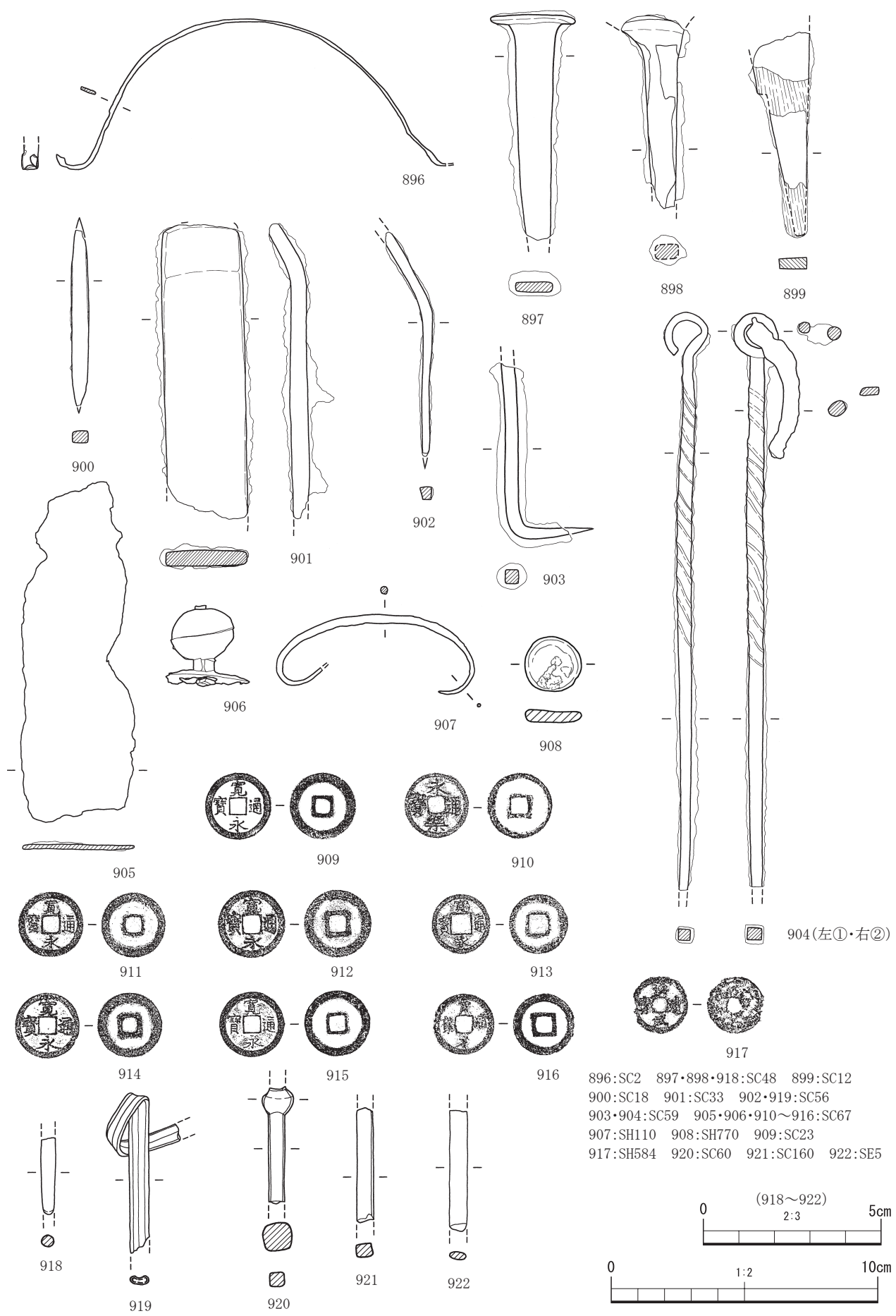
#### 第6項 金属製品 (第151図、第20表～第21表)

896は廃棄土坑2から出土した土瓶等の青銅製の上手である。897・898は廃棄土坑48から出土した釘である。899は土坑12から出土した刃子の基部である。900は土坑18から出土した合釘である。901は土坑33から出土した板状鉄製品で鋸の可能性もある。902は土坑56、903は土坑59から出土した釘である。904は土坑59から出土した火箸である。上部には螺旋状のひねりが見られる。905は薄い板状の鉄製品、906は銅製の蓋の飾りで土坑67から出土している。907・908は柱穴から出土した。907は銅製の吊り金具である。908は円板状の鉛製品である。

909～917は銅銭である。909は土坑23、909～916は土坑67、917は柱穴から出土した。916は永楽通宝で、917は洪武通宝である。

#### 第7項 ガラス製品 (第151図、第22表)

918～922は簪である。918は廃棄土坑48、919は土坑56、920は土坑60、921は土坑160、922は溝状遺構5から出土している。919は中空で作られている。



896:SC2 897・898・918:SC48 899:SC12  
 900:SC18 901:SC33 902・919:SC56  
 903・904:SC59 905・906・910~916:SC67  
 907:SH110 908:SH770 909:SC23  
 917:SH584 920:SC60 921:SC160 922:SE5

第151図 郡司氏敷地内出土金属製品、ガラス製品実測図 (S=1/2・2/3)



## 第IV章 その他の調査成果について

### 第1節 城下町形成以前の遺構について

#### 第1項 溝状遺構 83 について (第 152 図)

廃棄土坑 26・28・82 に切られていることや遺構埋土が明らかに他の溝状遺構と異なっており、出土遺物も 16 世紀～17 世紀初頭のものばかり出土したことから、城下町形成以前の遺構と判断された。調査区の中央よりやや北西側に位置し、溝状遺構 5・6 と方線はおおむね同じである。幅は 3.8m～1.5m を呈し、検出面からの深さは深いところで 0.87m を測る。床面は狭く幅がない上に著しく蛇行している。立ち上がりは城外を向く南東側より二ノ丸のある北西側の方が急角度である。北東部は立ち上がりが緩やかで床面の幅も広がっていた。

#### 第2項 溝状遺構 83 の出土遺物について (第 153 図～第 155 図、第 10 表)

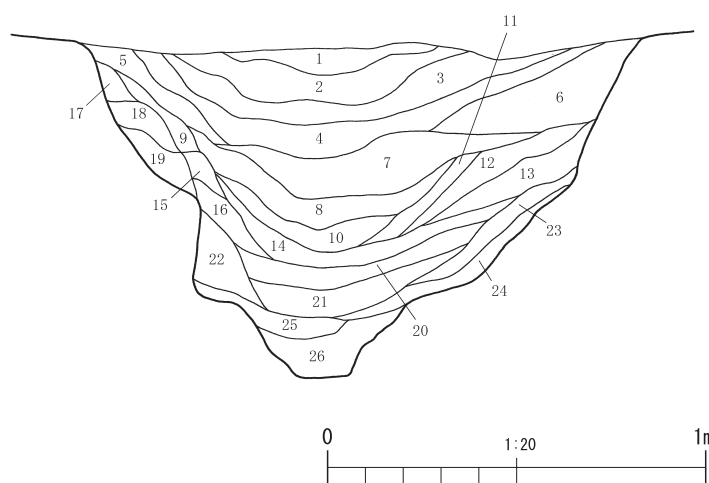
923～944 は陶磁器である。923 は灰釉碗である。926 は天目碗である。928 は景德鎮窯で魚文が見られる。929 は蓮子碗である。930 は漳州窯で碁筭底を呈する。931 は外面と見込に龍文が見られ、饅頭心の底部を持つ。933 は見込に寿文が見られ、碁筭底を呈する。934 は内面には鉄絵が見られ、胴部と口縁部の境目に段を持つ。935 は筒形碗である。938 は白磁の端反皿である。939 は青磁皿である。942・943 は備前の播鉢である。945 は円形の土製品で、946 は土錘である。947～950 は朝鮮半島の造瓦技術の系譜を引くとされる瓦である。951・952 は砥石である。953～958 は木製品である。957 は杭である。959 は棒状の人形である。960 は鉄鏃である。961 は銅製の洪武通宝である。

#### 第3項 建物跡について (第 4 図)

本来は各柱穴から出土した遺物を検討して建物の時期を決定すべきであり、その作業が十分にできていないので問題があるが、近世の屋敷境と考えられる溝状遺構 5・6 と主軸がそろわないものや渋谷氏や郡司氏の建物等と切り合い関係があるものなどを城下町形成以前のものと考えて本項で報告する。

建物 9～15 は渋谷氏敷地内にある。建物 9 は主軸方向は N-48°-E で桁行 7 間 13.1m、梁行 2 間 3.6m を測る。建物 10 は渋谷氏建物 1 の北東側と重なる。主軸方向は N-54°-E で桁行 5 間 9.7m、梁行 2 間 5.2m を測る。建物 11 は渋谷氏建物 1 の南西側と重なる。主軸方向は N-54°-E で桁行 5 間 9.7m、梁行 2 間 5.2m を測る。建物 12 は主軸方向が N-58°-E で桁行 5 間 5m、梁行 2 間 2m を測る。建物 13 は池状遺構 73 や土坑 34・54・91・146 と重なる。主軸方向は N-52°-E で北東側が調査区外へと続くが、現状で桁行 9 間 15m 以上、梁行 2 間 4.5m を測る。建物 14 は渋谷氏建物 1 と 2 の間にあり、主軸方向が N-36°-W で桁行 3 間 6m、梁行 3 間 5m を測る。建物 15 は渋谷氏建物 3 と重なる。主軸方向は N-35°-W で桁行 3 間 6m、梁行 3 間 5.2m を測る。

建物 16～18 は渋谷氏と郡司氏の屋敷境付近にある。建物 16 は溝状遺構 6 と重なる。主軸方向は N-61°-E で桁行 5 間 8.7m、梁行 6.9m を測る。建物 17・18 は溝状遺構 5.6 と重なる。建物 17 は主軸方向 N-35°-W 桁行 3 間 11.9m、梁行 3 間 6m を測る。建物 18 は主軸方向は N-68°-E で桁



## 土層注記

- 1: 褐灰色シルト層 (Hue7.5YR4/1)  
地山の黒色粘土を含む。炭化物を少量含む。
- 2: 褐灰色シルト質土層 (Hue10YR4/1)  
地山の黒色粘土を含む。炭化物を少量含む。
- 3: 灰黄褐色シルト質土層 (Hue10YR5/2)。
- 4: 褐灰色粘土層 (Hue10YR5/1)  
地山の黄褐色土を少量含む。
- 5: 灰黄褐色砂質土層 (Hue10YR5/2)  
地山の黒色粘土ブロックを少量含む。
- 6: 灰黄シルト質土層 (Hue2.5Y6/2)  
地山の黒色粘土ブロック、黄褐色土を少量含む。
- 7: 灰黄褐色シルト質土層 (Hue10YR5/2)。
- 8: 褐灰色砂質土層 (Hue10YR4/1)  
地山の黄褐色土を少量含む。

- 9: 灰黄褐色シルト質土層 (Hue10YR5/2)。10: 灰色砂質土層 (Hue5Y4/1)。11: 黄灰色粘土層 (Hue2.5YR4/1)。  
12: 灰黄褐色砂質土層 (Hue10YR5/2) 地山の黄褐色土を少量含む。  
13: 黄灰色粘土層 (Hue10YR5/1) 地山の黒色粘土を含む。炭化物を少量含む。14: 黄灰色粘土層 (Hue2.5YR4/1) 木質を含む。  
15: 黄灰色粘土層 (Hue7.5Y4/1)。16: 灰色粘土層 (Hue5Y4/1)。17: 褐灰色粘質土層 (Hue10YR4/1)。  
18: 灰黄褐色シルト層 (Hue10YR5/2)。19: 褐灰色シルト層 (Hue10YR4/1) 地山の黒色粘土を含む。20: 灰色粘土層 (Hue5Y4/1)。  
21: 灰色粘土層 (Hue5Y4/1) 青灰色の砂を含む。22: 灰色粘土層 (Hue10Y4/1) 青灰色の砂を少量含む。  
23: 灰色粘質土層 (Hue5Y4/1) 炭化物を少量含む。24: 灰色粘質土層 (Hue5Y4/1) 炭化物、木質を多量に含む。  
25: 緑灰色シルト層 (Hue7.5GY5/1) 青灰色の砂を多量に含む。26: 緑灰色砂礫層 (Hue7.5GY5/1) 青灰色の砂を多量に含む。

第152図 溝状遺構83土層断面図 (S=1/20)

行4間8.6m、梁行3間7.1mを測る。

建物19・20は郡司氏敷地内にあり、郡司氏建物5と7・8の間に位置する。建物19は主軸方向はN-61°-Eで桁行3間5.9m 梁行2間3.4mを測る。建物20は主軸方向はN-63°-Eで桁行3間7m 梁行2間5.2mを測る。

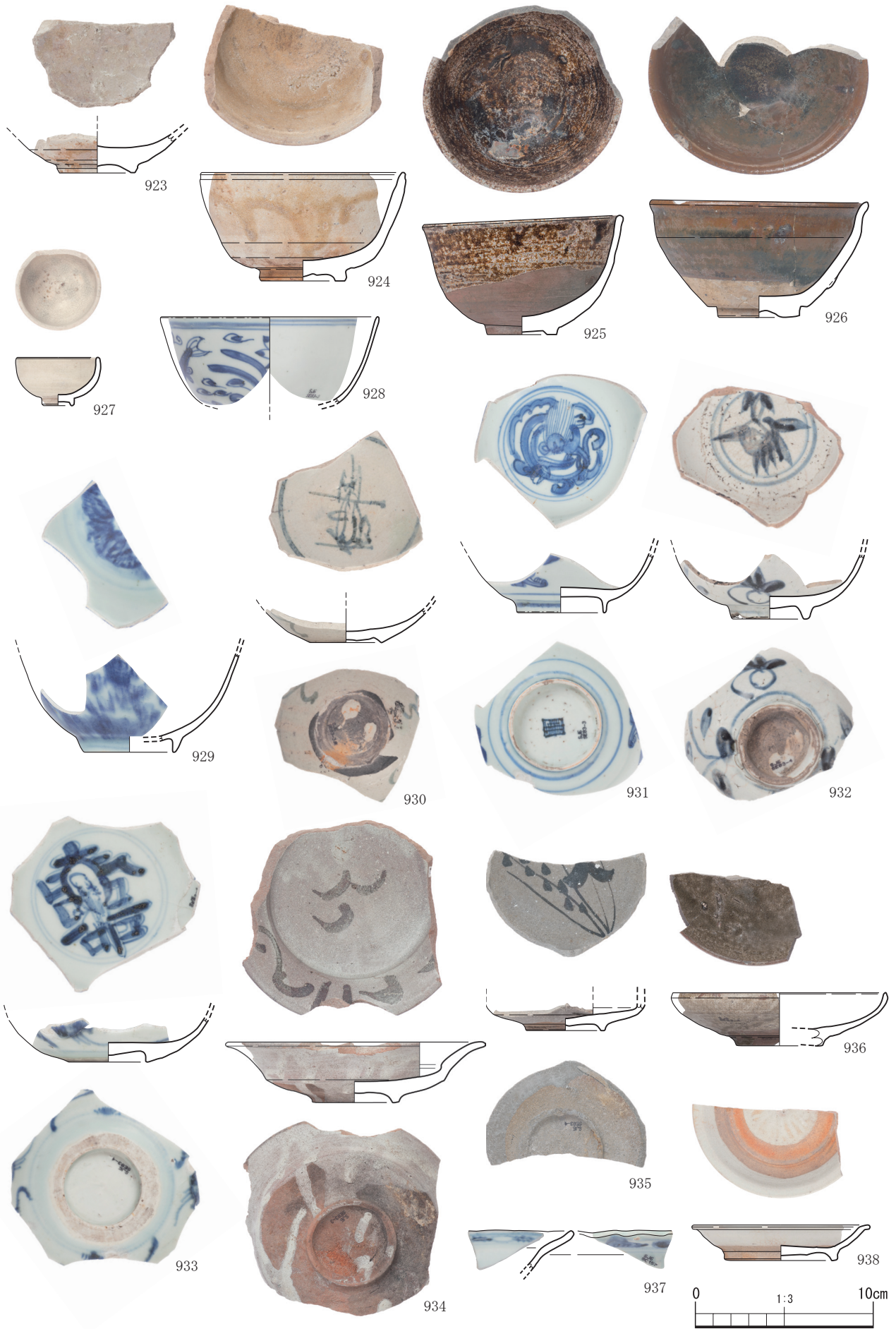
## 第2節 遺構外遺物について (第156図・第157図)

## 第1項 遺構検出層からの出土遺物について (第156図)

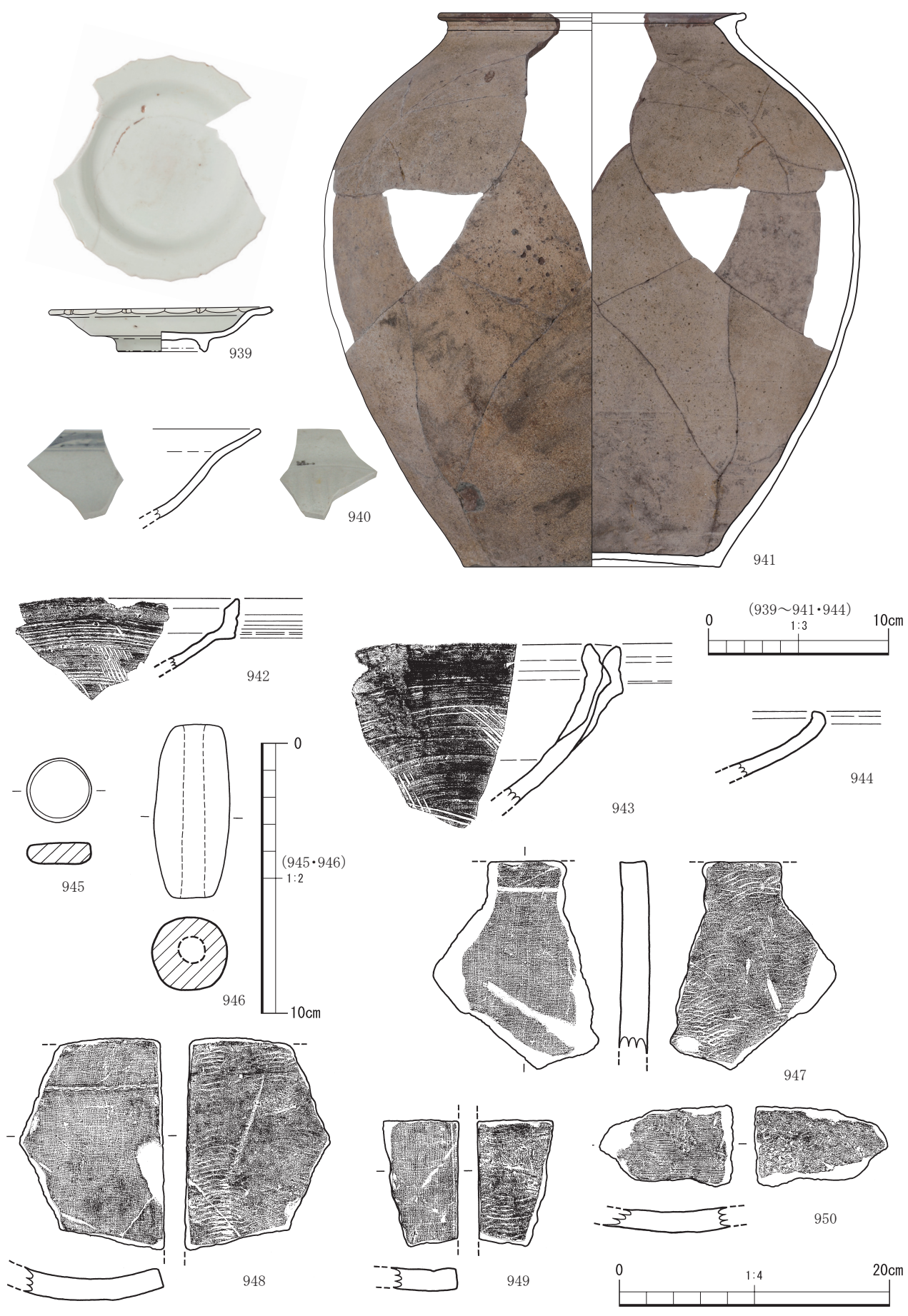
本調査区では遺構検出層である黄灰色土中から弥生時代から中世にかけての遺物が出土しており、渋谷氏・郡司氏の敷地内の遺構内からも同時期の遺物が出土している。962は弥生土器片で刻目突帯が見られる。963～966は古墳時代の土師器で、963・964は壺、965・966は高坏である。967～970は古代の須恵器の坏である。967の高台内には「×」のヘラ記号が見られる。971は土師質の焜炉である。972は頁岩製の石鏃である。973は砂岩製の剥片である。

## 第2項 採集遺物について (第157図)

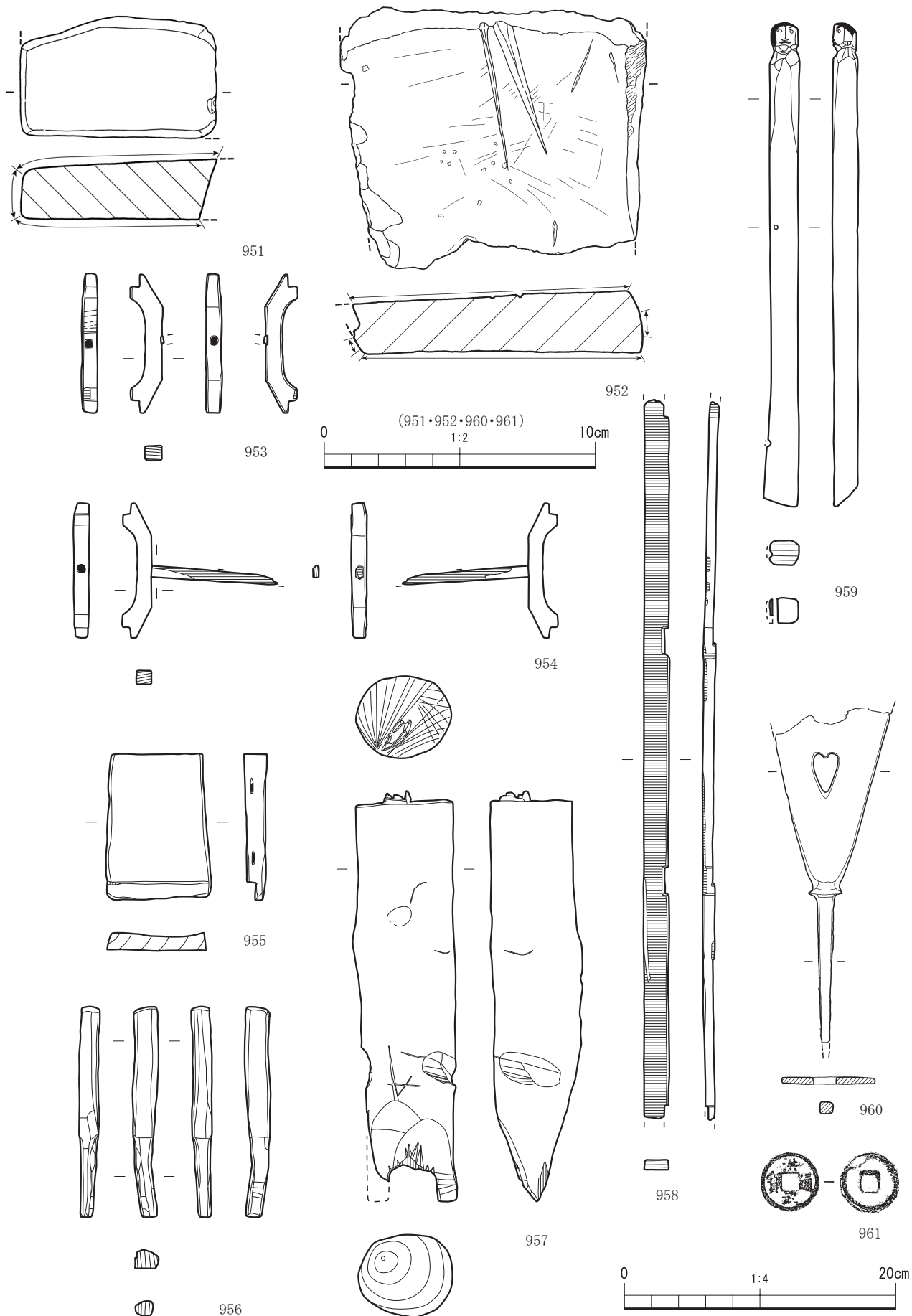
本調査期間中に採集された主な遺物について報告する。974は四つ目土錘である。975は箱庭道具で建物の屋根の部材である。976は硯である。977は円形の木製品で、格子状に黒色が塗られている。978は軒丸瓦である。979は軒平瓦で楡描き文が見られる。



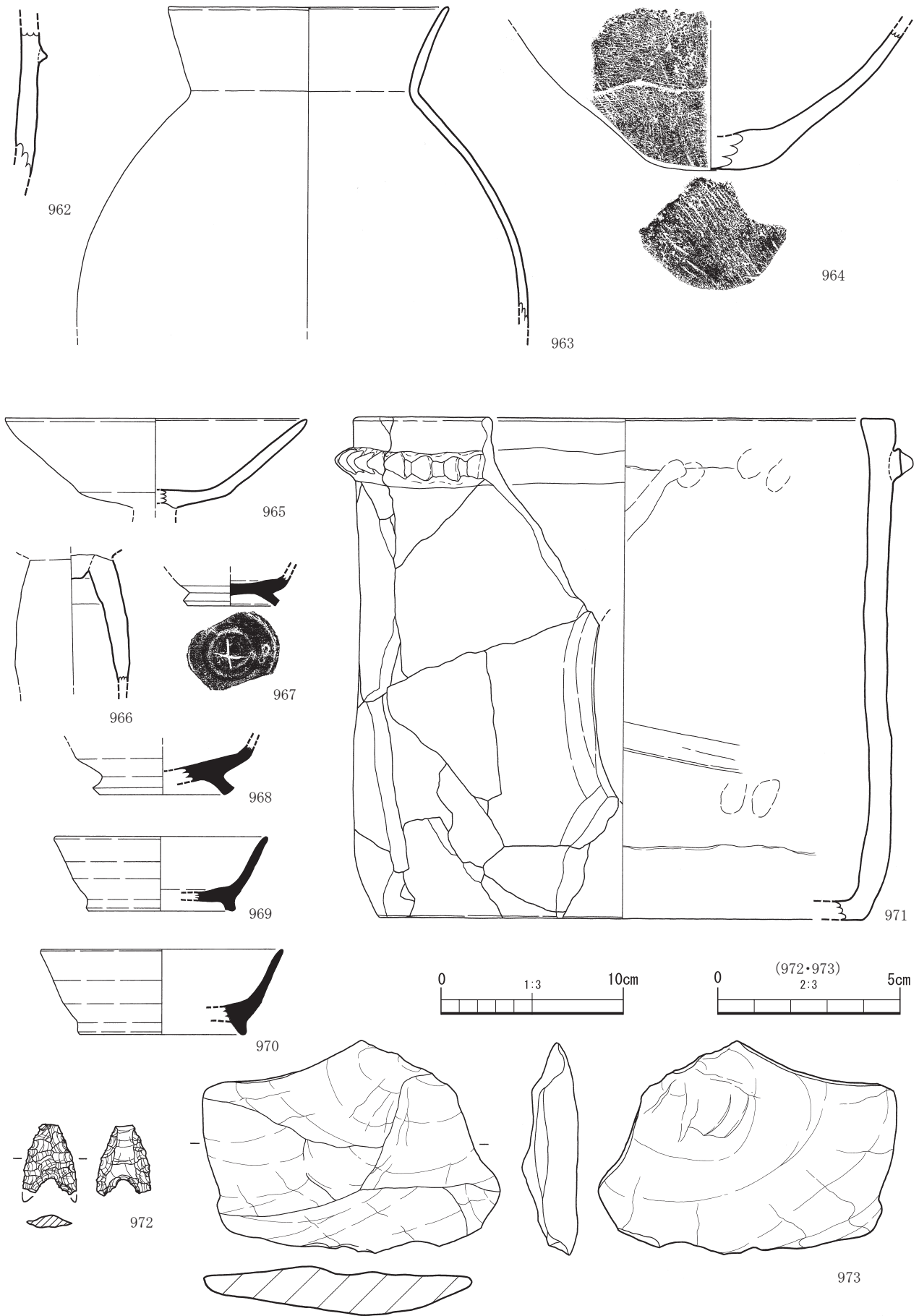
第153図 溝状遺構83出土陶磁器実測図 (S=1/3)



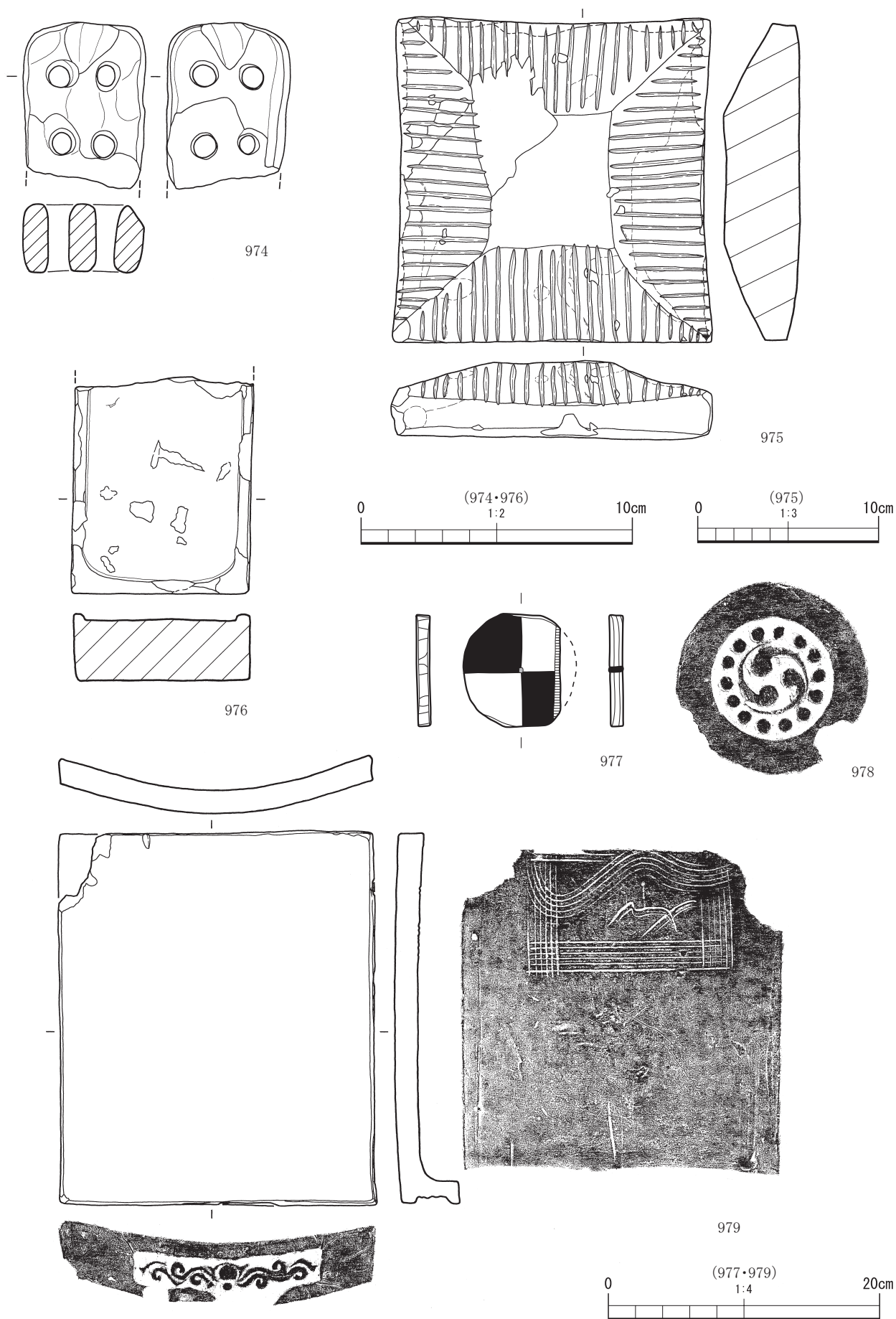
第154図 溝状遺構83出土陶磁器、土製品、瓦実測図 (S=1/2・1/3・1/4)



第155図 溝状遺構83出土石製品、木製品、金属製品実測図 (S=1/2・1/4)



第156図 中世以前の遺物実測図 (S=1/3・2/3)



第157図 採集土製品、石製品、木製品、瓦実測図 (S=1/2・1/3・1/4)

第1表:陶磁器観察表①

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P33 第43図	1	SF16	青磁	碗	11.4	4.3	7.3	肥前	1630-40	高台無釉、内面口縁 まで青磁	158
	2	SF16	青磁	碗	-	(5.7)	-	明代	16c前後	焼成不良	157
	3	SF16	陶器	皿	12.3	5.1	3	肥前	1610-40	砂目積溝縁皿	159
	4	SF16	陶器	鉢?	-	(8)	-	福岡	17c前半	藁灰釉	156
	5	SF16	陶器	大皿	(31.2)	-	-	肥前	18c中-末		155
	6	SF70	染付	碗	-	3.9	-	肥前(有田)	18c前半		445
	7	SF70	染付	碗蓋	-	-	-	肥前	19c前半		440
	8	SF70	陶器	碗	(9.9)	3.9	6	関西系	18c後半	小杉碗	438
	9	SF70	陶器	小碗	-	3.8	-	萩	18c後-19c	藁灰	443
	10	SF70	陶器	小坏	(6.4)	(2.8)	4.3	萩	18c後-幕末		444
	11	SF70	陶器	腰折碗	(9)	(3.9)	4.7	肥前	18c前半	京焼風の流れ	447
	12	SF70	陶器	腰折碗	-	(3.5)	-	肥前	18c前半	京焼風の流れ	449
	13	SF70	磁器	ミチュウ皿	5	2.6	1.2	肥前	18c	型押し成形	1062
	14	SF70	陶器	皿	(12.2)	3.6	4.1	関西系	18c後-19c初		446
	15	SF70	染付	皿	-	(7.5)	-	肥前(有田)	18c前半	銘「大明成化年製」	442
	16	SF70	陶器	片口鉢	(17)	-	-	関西系	江戸後期		439
	17	SF70	陶器	土瓶蓋	(7.3)	-	3.5	南九州	18c-19c		448
	18	SF70	陶器	徳利	-	(8.7)	-	瀬戸美濃	18c		441
P34 第44図	19	SF70	陶器	火鉢?	-	-	-	瀬戸美濃	18c-幕末	緑釉、内面鉄泥、環付 獣面	450
	20	SF70	陶器	播鉢	-	-	-	九州	18c-19c	肥前以外の産地	1032
	21	SF70	陶器	播鉢	-	-	-	九州	18c-19c		1031
	22	SF100	陶器	碗	-	(5.4)	-	肥前	1660-80		163
	23	SF100	陶器	播鉢	-	(12.1)	-	備前	15c-16c		1037
	24	SF100	陶器	大皿	-	(12)	-	肥前	1590-1610年 代	胎土目積	161
	25	SZ73	陶器	呉器手碗	-	(4.7)	-	肥前	1630-17c第3 四半期	全面施釉	249
	26	SZ73	陶器	腰折碗	9.5	3.8	4.8	肥前	18c前半	京焼風の流れ、二彩 装飾	250
	27	SZ73	陶器	皿	(12.2)	4.6	4.5	肥前	1670-90	京焼風陶器、呉須絵 山水文	248
	28	SZ73	陶器	鉢	-	(9.1)	-	肥前	17c後半	三島手、砂胎土目積	252
29	SZ73	陶器	土瓶	-	4.8	-	関西系	18c後-幕末	急須か	1076	
P35 第45図	30	SZ73	陶器	甕	-	21.4	-	沖繩	17c末-18c	荒焼	479
	31	SC26	白磁	小碗	(8.6)	4	4.9	肥前	18c前		1058
	32	SC26	染付	碗	-	4.5	-	-	17c		170
	33	SC26	陶器	碗	(7.3)	3	4.2	薩摩	18c	白薩摩、千鳥印	171
	34	SC26	染付	皿	(26.2)	(16)	5	肥前(有田)	1690-1700	コンニャク印判と手 描き	173
	35	SC26	陶器	碗	10.6	4.1	4.4	薩摩	-		175
	36	SC26	白磁	紅皿	(4)	(1.2)	1.6	肥前	18c	型押し成形	1057
	37	SC26	染付	仏飯具	-	4.5	-	肥前	17c	砂目積	172
	38	SC26	陶器	播鉢	-	-	-	九州か	17c後-18c		1023
	39	SC28	陶器	碗	-	-	-	薩摩	17c後-18c		133
	40	SC28	染付	碗	-	4.2	-	肥前(有田)	1660-70	銘「大明成化年製」	465
	41	SC28	染付	皿	(14.4)	(7.6)	3.5	肥前(有田)	1660-70		469
	42	SC28	陶器	灯明皿	(10.4)	(4.5)	2.2	-	-	柿釉、軟質系陶器	463
	43	SC28	陶器	播鉢	-	(21.3)	-	信楽か	19cか	鉢か	1026
	44	SC28	陶器	播鉢	-	-	-	備前系	16c-17c		1024
	45	SC28	陶器	播鉢	-	8.6	-	肥前	17c後		1015
	P36 第46図	46	SC110	染付	端反碗	10.6	4.3	5.7	肥前	1820-60	SE78と接合
47		SC110	陶器	碗	-	4.25	-	肥前	17c前		107
48		SC110	陶器	碗	-	3.85	-	肥前	1610-40		270
49		SC110	染付	広東碗	(11.2)	6.5	6.8	肥前系	1780-1810		110
50		SC110	白磁	碗	8.8	3.7	5.1	肥前系	18c後-19c前		1065
51		SC110	染付	筒形碗	7.2	3.7	5.7	肥前系	1780-1790	コンニャク印判	97
52		SC110	陶器	碗	(8.4)	2.8	4.4	関西系	18c後半		109
53		SC110	陶器	碗	(8.4)	2.5	4.5	関西系	18c後半	小杉碗	111
54		SC110	色絵	碗	9	3	5.5	関西系	18c後半		105
55		SC110	陶器	端反碗	8.6	2.9	4.6	関西系	19c初-幕末		106
56		SC110	染付	端反碗	10.55	4.2	6	薩摩	1820-60	苗代川か	265
57		SC110	染付	広東碗蓋	(9.1)	5.3	2.55	肥前	1780-1840		96
58		SC110	染付	端反碗蓋	(8.7)	3.6	3	肥前系	1820-60	砥部焼か	100
59		SC110	染付	端反碗蓋	(8.65)	(3.5)	2.65	瀬戸美濃	1820-60		98
60		SC110	染付	端反碗蓋	9.05	3.5	2.9	肥前	1820-60		99
61		SC110	白磁	紅皿	4	(1.5)	1.3	肥前系	江戸後期	型押し成形、口縁上 部無釉	1066
62		SC110	染付	小坏	5.7	3.1	2.2	肥前	18c	紅皿、笹文	268



第2表:陶磁器観察表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号	
					口径	底径	器高					
P36 第46図	63	SC110	染付	皿	12	4.05	3.6	肥前波佐見系	18c後半		102	
	64	SC110	染付	手塩皿	(10.55)	(5.1)	2.8	肥前	18c後半		266	
P37 第47図	65	SC110	染付	皿	13.75	2.95	7.1	肥前波佐見系	18c後半	コンニャク印判	271	
	66	SC110	陶器	皿	11.6	4	3.7	関西系	18c		108	
	67	SC110	陶器	皿	(12.75)	3.2	2	薩摩か	17c-18c		264	
	68	SC110	陶器	皿	(7.9)	(3)?	1.4	備前	18c-19c	型押し成形	267	
	69	SC110	染付	鉢	(15)	(8.2)	4.6	肥前	19c初-幕末		101	
	70	SC110	陶器	小瓶	-	3.9	-	薩摩	18c-幕末	油壺か	263	
	71	SC110	陶器	灯火具	4.9	3.8	3.9	関西系	江戸後期	カンテラ	104	
	72	SC110	陶器	土瓶	-	5.85	-	関西系	19c		258	
	73	SC110	陶器	土瓶	(6.8)	(6.7)	10	関西系	19c	三つ足	259	
	74	SC110	白薩摩	土瓶	(6.4)	(5.7)	9.7	薩摩	18c後-19c前	注ぎ口の穴3つ	260	
	75	SC110	陶器	土瓶蓋	(4.8)	(5.8)	1.7	関西系	19c	受け部径(8cm)	262	
76	SC110	染付	レンジ	長(9.8)	幅3.3	5.5	肥前系	19c初-幕末	型押し成形	103		
77	SC110	染付	レンジ	長10.9	幅4.2	5.65	瀬戸美濃	19c後半	深い部分陽刻	269		
P38 第48図	78	SC110	陶器	甕	-	-	-	備前	16c-17c	SF70とSC161と接合	478	
	79	SC110	陶器	播鉢	-	-	-	堺系か	18c頃		1041	
	80	SC110	陶器	播鉢	-	-	-	堺か	18c-19c		1038	
	81	SC110	陶器	播鉢	(32.7)	(14.3)	12.25	堺	18c-幕末		1040	
	82	SC144	染付	碗	(10.8)	-	-	-	-		424	
	83	SC144	染付	猪口	(7.0)	2.9	3.5	-	-		425	
	84	SC150	染付	碗	-	3.7	-	肥前系	1820-60		82	
	85	SC150	染付	小碗	(7.65)	2.95	4.4	肥前	18c前半		92	
	86	SC150	染付	広東碗蓋	(10)	(5.4)	2.7	肥前系	1820-40	薄手、ダミ筆による	78	
	87	SC150	染付	広東碗蓋	9.1	(6.1)	2.6	肥前系	1820-40		81	
	88	SC150	白磁	小坏	-	2.4	-	肥前	17c中頃		1068	
89	SC150	白磁	小坏	(7.1)	2.75	3.7	肥前系	18c		1069		
P39 第49図	90	SC150	陶器	皿	(11.7)	(4.1)	3.7	関西系	18c		87	
	91	SC150	染付	蓋付鉢	(11.4)	(6.1)	6.9	肥前	18c後半		79	
	92	SC150	磁器	瓶	(7.9)	-	-	肥前	18c第2、第3 四半期	型押し成形、置物の 可能性あり	80	
	93	SC150	青磁	仏花瓶	(10.75)	-	-	肥前	17c末-18c前	取っ手付き	303	
	94	SC150	陶器	瓶	-	(5.1)	-	肥前	18c	仏花器か	302	
	95	SC150	陶器	植木鉢	(32.45)	-	-	薩摩	18c-幕末		304	
	96	SC150	陶器	植木鉢	(32)	(20.65)	(24)	薩摩か	18c-幕末	口縁部外面にヒダ文 様	305	
	97	SC84	陶器	小坏	3.8	0.9	1.9	関西系	江戸後期	玩具か	168	
	98	SC84	陶器	蓋	5.6	-	1.3	関西系	19c	受け部径7.2cm	164	
	99	SC84	染付	段重蓋	(12)	-	-	肥前	18c	受け部径(13.2cm)	162	
	100	SC85	陶器	碗	(8.35)	-	-	関西系	18c後-幕末	白薩摩か	169	
	101	SC85	陶器	碗	(8.4)	3.65	6.5	関西系	18c		166	
	102	SC85	陶器	皿	(11.9)	3.9	3.5	関西系	18c	鉄絵あり	167	
P40 第50図	103	SC115	陶器	植木鉢	-	23.4	-	肥前(唐津)	17c-18c前		493	
	104	SC8	陶器	小碗	(4)	1.6	2.8	関西系	18c	玩具か	391	
	105	SC8	磁器	仏飯器	(7.55)	4.2	(5.85)	肥前	17c末-18c前		1056	
	106	SC34	磁器	碗	(10.3)	(3.8)	4.7	肥前	18c	SC54と接合、氷裂文	256	
	107	SC34	陶器	碗	-	(3.5)	-	肥前	18c前半	京焼風	455	
	108	SC34	陶器	碗	(9.7)	4.8	5.9	肥前	18c	鉄釉、中灰釉	255	
	109	SC34	陶器	碗	9.4	2.8	6.2	関西系	18c	高台内漆塗布(修理 痕)	436	
	110	SC34	染付	蓋もの	(14.5)	(10.1)	6.3	肥前(有田)	18c前半	花唐草	458	
	111	SC34	白磁	湯飲み碗	(7.7)	3.9	5.4	肥前	18c		1059	
	112	SC34	陶磁	小坏	7.1	3.2	3.7	-	-	渋谷氏埋立土内と接 合	251	
	113	SC34	染付	小碗	8.2	3.0	3.8	肥前系	18c中-末		457	
	114	SC34	染付	紅皿	7.4	3.0	3.8	肥前	18c	笹文	454	
	P41 第51図	115	SC34	染付	碗蓋	(15)	-	5.1	肥前(有田)	1690-1700	高台内二重圏線、コ ンニャク印判、受け 部径(17cm)	435
		116	SC34	染付	皿	(13.5)	7.8	2.9	肥前(有田)	1660-70	墨弾き、高台内圏線	461
117		SC34	陶器	皿	-	(4.3)	-	肥前	18c前半	内野山	460	
118		SC34	染付	皿	(27.1)	(15.7)	5.5	肥前(有田)	1690-1730		434	
119		SC34	陶器	皿	(12.1)	3.7	4	関西系	18c		459	
120		SC34	陶器	腰折碗	(8.6)	(3.3)	4.6	肥前	18c前半		451	
121		SC34	染付	仏飯器	-	4	-	肥前	19c-幕末		453	
122	SC34	陶器	袋物	-	4.5	-	関西系	18c頃	軟性陶器	452		

第3表:陶磁器観察表③

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P41 第51図	123	SC34	磁器	髹盥	(11.6)	(11.35)	2.8	肥前(有田)	17c末-18c初	鉄泥、釘彫り、口縁部 重ね焼痕、内面透明 釉	456
	124	SC34	陶器	甕	36.8	-	-	肥前	17c中-末	SF70と接合、鉄釉と 刷毛目	139
P42 第52図	125	SC34	陶器	甕	(29.5)	-	-	薩摩か	17c後-18c初	渋谷氏埋立土と接 合、釘彫りと貼付菊 文様	257
	126	SC34	陶器	鉢	(18.0)	(12.6)	12.0	-	-	-	1088
	127	SC34	陶器	鉢	(46.4)	(27.1)	19.2	薩摩か	18c-19c前	底部のみ無釉	485
	128	SC34	陶器	鍋	(16.2)	8	8.1	関西系	18c-19c前	SC54と接合、柿釉、手 付底無釉、足あり	253
	129	SC35	陶器	碗	-	4.3	-	肥前	17c前半	-	177
	130	SC35	陶器	碗	(12.9)	(4.2)	5.7	肥前	18c頃	全面施釉	174
	131	SC35	染付	皿	-	(7.8)	-	-	-	-	176
	132	SC35	青磁?	皿	(7.5)	(5)	1.1	肥前	18c	型打ち成形	178
	133	SC35	陶器	鉢	-	(8.1)	-	-	-	-	179
134	SC35	陶器	播鉢	-	-	-	堺系	17c後-18c	-	1028	
P43 第53図	135	SC46	陶器	碗	-	5.6	-	肥前	17c後	柿釉	420
	136	SC46	染付	皿	-	(5.2)	-	肥前	1630-40	型打ち成形、半菊花 文、初期伊万里	421
	137	SC46	陶磁	瓶	6.5	-	-	-	-	-	419
	138	SC54	陶器	碗	9.1	3.3	5.4	-	-	-	232
	139	SC54	陶器	腰折碗	(9.9)	3.4	5.2	-	-	-	233
	140	SC54	白磁	碗	(8.1)	3.4	4.1	福建省徳化 窯	18c	-	1060
	141	SC54	染付	小坏	(8.3)	4.0	5.8	-	-	-	231
	142	SC54	陶磁	紅皿	(4.05)	1.6	1.5	-	-	-	1061
	143	SC54	染付	皿	(9.7)	5.3	2.2	-	-	-	236
	144	SC54	染付	皿	(11.9)	4.5	4.0	-	-	SC34とSE6と接合	254
	145	SC54	染付	蓋	13.3	-	-	-	-	受け部径14.7cm	234
	146	SC91	陶器	播鉢	-	-	-	備前	16c頃	-	1036
	147	SC93	陶器	皿	-	3.4	-	肥前	18c前半	墨書「や二十」	181
	148	SC93	染付	皿	(11.7)	(5.9)	2.5	関西系	-	-	184
	149	SC116	染付	小坏	(6.1)	2.6	2.2	肥前	18c中-後	紅皿	134
	150	SC116	陶器	皿	(12.2)	(3.7)	4.5	関西系	18c	-	468
	151	SC116	陶器	皿	(7.85)	(4.8)	2.5	備前	18c-19c	-	464
	152	SC121	染付	碗	(9.8)	(3.6)	4.6	肥前	18c前-中	-	382
	153	SC121	色絵	蓋	9.6	4.15	2.6	-	-	-	387
	154	SC121	磁器	小坏	6.4	2.3	3.2	肥前	-	-	385
155	SC121	染付	小坏	6.2	2.6	3.2	肥前	-	砂目あり	383	
156	SC121	磁器	皿	-	(11.2)	-	肥前	18c末-19c初	嬉野か	386	
157	SC121	陶器	蓋	5.2	-	1.8	-	-	受け部径6.5cm	384	
158	SC121	陶器	壺	(21.8)	-	-	-	17c後半	-	381	
P44 第54図	159	SC122	染付	碗	7.9	3.0	4.0	-	-	砂目あり	180
	160	SC122	陶器	碗	-	-	-	-	-	-	182
	161	SC127	陶器	碗	11.6	3.9	4.3	関西系	-	-	94
	162	SC127	陶器	碗	(11.4)	(4)	5.5	薩摩	18c-19c前	白薩摩	1067
	163	SC127	染付	鉢蓋	(7.5)	-	-	-	-	受け部径(8.0)cm	88
	164	SC127	陶磁	仏飯器	-	4.0	-	-	-	-	90
	165	SC127	陶磁	仏飯器	(7.2)	3.4	4.6	-	-	-	89
	166	SC127	陶器	鉢	-	7.9	-	-	-	胎土目積か	91
	167	SC127	炆器	甕	-	-	-	-	-	-	95
	168	SC127	陶器	播鉢	-	13.2	-	瀬戸美濃系	17c-18c前	-	1042
P45 第55図	169	SC131	陶器	播鉢	(32.55)	14	14.6	薩摩	17c後-18c前	SC28とSF73と接合、 貝目あり、焼成不良 (内外無釉)	490
	170	SC138	陶器	皿	-	4.4	-	肥前	慶長年間	鉄絵	185
	171	SC138	陶磁	碗	-	4.2	-	肥前	17c中-1650	高台に赤色?付着	183
	172	SC146	青磁	碗	-	4.3	-	肥前	1630-40	-	416
	173	SC146	染付	碗	(8.2)	3.4	4.8	肥前	1650年代	銘「大明」	418
	174	SC146	青花	碗	(9.2)	-	-	景德鎮	1620-40	明末、祥瑞文様	414
	175	SC146	染付	碗	-	2.6	-	-	-	-	415
	176	SC146	染付	小坏	(5.6)	2.1	4.5	肥前	1630-50?	寿文	413
	177	SC146	染付	皿	9.5	3.9	2.25	肥前	1630-50	-	412
	178	SC146	磁器	鉢	(10.7)	-	-	-	-	-	417
179	SC154	青花	碗	-	(4.5)	-	福建省	16c後半	-	145	
180	SC154	陶器	碗	9.5	3.0	5.5	-	-	墨書あり	140	
181	SC154	白磁	小坏	6.9	2.8	3.9	肥前	17c後半	-	1070	
182	SC154	染付	皿	-	-	-	-	-	-	144	

第4表:陶磁器観察表④

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P45 第55図	183	SC155	陶器	播鉢	(37.1)	(14.2)	(14.6)	在地?	-	刻印あり	1047
	184	SC161	白磁	小碗	8.05	3.35	4.1	肥前系	18c後-19c前		1072
	185	SC161	染付	碗	8.3	3.4	4.8	-	-	手描き五弁花	246
	186	SC161	染付	碗	(9.3)	(4.9)	4.8	-	-		239
	187	SC161	染付	碗	(9.6)	(3.8)	5.7	-	-		238
	188	SC161	染付	碗	(9.6)	-	-	-	-		235
	189	SC161	陶磁	碗	-	4.0	-	-	-		237
	190	SC161	陶磁	碗	(8.85)	2.5	4.8	-	-		245
	191	SC161	陶器	皿	(10.1)	(3.9)	4.3	肥前	-	京焼風陶器、呉須絵 山水文	247
	192	SC161	陶器	皿	(11.9)	4.4	3.3	-	-		243
	193	SC161	陶器	皿	-	(4.6)	-	-	-		241
	194	SC161	陶器	皿	-	-	-	-	-		242
	195	SC161	白磁	小猪口	(4.9)	(2.7)	2.9	肥前	18c中-後		1071
	196	SC161	磁器	仏花瓶	8.1	-	-	-	-		244
P46 第56図	197	SC161	陶器	甕	-	(10.1)	-	肥前	-	砂目積	240
	198	SC162	陶器	甕	-	23.1	-	薩摩	17c	底部貝目痕あり	491
P47 第57図	199	SC162	陶器	播鉢	35	14.2	14.9	瀬戸美濃	17c		1043
	200	SC179	染付	猪口	(6.9)	(4)	5.05	肥前系	18c後-19c前	SC84と接合	165
	201	SC179	陶器	皿	(11.1)	4.4	4.4	肥前	1690年前後	京焼風のながれ	422
	202	SC179	色絵	碗	12.35	3.9	4.35	関西系	-	SC84と接合	160
	203	SC179	青花	皿	-	(6.9)	-	景德鎮	16c後-17c初		423
204	SC186	陶器	播鉢	(28.8)	(11.6)	12.6	関西丹波	16c末-17c	SE6と接合	1016	
P48 第58図	205	SE6	陶器	呉器手碗	-	4.1	-	肥前系	17c後-18c初	全面施釉	2
	206	SE6	陶器	呉器手碗	-	4.4	-	肥前	17c後半		7
	207	SE6	陶器	呉器手碗	-	5	-	肥前	17c		12
	208	SE6	染付	端反碗	(11.7)	(5.1)	(6.1)	肥前	1780-1840	鷺見込文	343
	209	SE6	染付	端反碗	(11)	3.9	6	肥前	1820-60	よろけ縞、焼継あり	77
	210	SE6	染付	端反碗	9.2	3.5	5.3	肥前系	1820-60	焼継有り	342
	211	SE6	染付	端反碗	10.5	4.1	6	肥前系	1820-60	焼継有り	344
	212	SE6	染付	端反碗	(10.4)	(4)	6	肥前	1820-60		339
	213	SE6	染付	端反碗	9.9	3.7	6	肥前系	1820-60	素描	345
	214	SE6	染付	筒形碗	(8.3)	(4.1)	5.6	肥前系	1780-1810	薩摩焼か	359
	215	SE6	染付	望料碗	11.4	4.4	6	肥前(有田)	1780-1820	262とセットか	74
	216	SE6	染付	小碗	7.6	3	4	肥前系	1770-1810		355
	217	SE6	染付	碗	9.9	3.5	5.3	肥前	18c前半	コンニャク印判	370
	218	SE6	染付	端反碗	(10.4)	4.4	5.65	有田	1820-60	259とセットか	75
219	SE6	染付	碗	9.7	4	5.2	肥前波佐見 系	18c後半	銘「大明年製」くずれ	366	
220	SE6	染付	碗	9.5	3.5	6.4	肥前系	江戸後期	在地か、焼継あり	340	
221	SE6	染付	碗	11.2	4	5.6	肥前系	1820-60		368	
P49 第59図	222	SE6	陶磁	碗	(11.2)	4.2	5.8	肥前系	-	SE78と接合、くらわ んか碗	367
	223	SE6	染付	端反碗	11.6	4.5	4.9	肥前波佐見 系	19c前半	草花文	369
	224	SE6	染付	端反碗	9.9	-	-	肥前系	1820-60	丸文	346
	225	SE6	染付	端反碗	(9.3)	3.9	5.6	肥前系	1820-60	宝珠文、焼継あり	347
	226	SE6	陶器	碗	-	3.9	-	肥前	18c前-中	嬉野内野山、両面透 明釉	26
	227	SE6	陶器	碗	-	4.2	-	肥前	17c前半	鉄釉	23
	228	SE6	陶器	碗	-	4.2	-	肥前	17c後半	内野山、銅緑釉	19
	229	SE6	陶器	腰折碗	(8.7)	3.6	4.7	肥前	17c前半		3
	230	SE6	陶器	腰折碗	(9.3)	4	5	肥前	18c前半	京焼風の流れ	16
	231	SE6	染付	碗	(8.1)	2.9	3.9	肥前系	1770-1810	菊花氷裂文	354
	232	SE6	染付	茶飲碗	7.1	3.5	6	肥前系	1820-60		341
	233	SE6	染付	小碗	(7.5)	4	6.6	肥前系	1820-60		365
	234	SE6	染付	筒形小碗	(7.6)	3.9	5.8	肥前系	1780-1810		362
	235	SE6	染付	碗	(7.9)	(5.8)	6.9	肥前(有田)	19c初-幕末	SE5と接合	363
	236	SE6	染付	小碗	(8)	(3.1)	6.8	肥前	1820-60	亀山焼	361
	237	SE6	陶器	小碗	(8.6)	3.1	4.4	関西系	19c		6
	238	SE6	陶器	小碗	8.7	2.7	4.6	関西系	19c	在地か	9
	239	SE6	陶器	小碗	(9.3)	3.0	4.7	関西系	19c		10
	240	SE6	陶器	碗	-	(5.4)	-	関西系	18c-19c		152
241	SE6	陶器	碗	(8.3)	2.6	4.7	関西系	19c前半	足付ハ目跡	4	
242	SE6	陶器	碗	(8.4)	(2.9)	4.5	関西系	18c後半	小杉碗	5	
243	SE6	陶器	小碗	(9.1)	3.3	5.6	関西系	18c後半		11	
244	SE6	色絵	小碗	(9.0)	3.0	5.3	関西系	18c後半		42	
245	SE6	色絵	皿	(12.3)	4.3	4.8	関西系	18c		36	
P50 第60図	246	SE6	陶器	碗	(12)	3.9	4.6	関西系	18c		14
	247	SE6	陶器	茶飲碗	(8)	4.4	5.8	関西系	18c後		41
	248	SE6	染付	広東碗	(10.1)	(4.9)	5.8	肥前系	1780-19c前		358

第5表:陶磁器観察表⑤

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P50 第60図	249	SE6	陶器	碗	(11.7)	(5)	6.8	薩摩	17c後-18c		126
	250	SE6	陶器	碗	(12.2)	-	-	薩摩	17c後-18c	白象嵌、堅野か	151
	251	SE6	陶器	碗	(7.9)	5.5	(2.4)	薩摩	18c-幕末	白薩摩、全面施釉、盪付釉剥ぎ	357
	252	SE6	陶器	天目碗	-	3.7	-	瀬戸美濃	16c-17c		21
	253	SE6	陶器	碗	(9.8)	(3.3)	4.3	福岡?	17c前	焼成不良	18
	254	SE6	磁器	小碗	(8.6)	(3)	4.3	中国か	19c初-幕末	景德鎮か、外面瑠璃釉、内面透明釉	360
	255	SE6	陶器	小碗	(6.8)	-	-	九州	19c	イチチン掛け	364
	256	SE6	白磁	碗	(7.9)	3.4	4.2	福建省徳化窯	18-19c前		1054
	257	SE6	染付	端反碗蓋	9.3	3.8	2.9	肥前系	1820-60	よろけ縞、焼継あり	68
	258	SE6	染付	端反碗蓋	9.1	3.4	2.5	肥前系	1820-60		69
	259	SE6	染付	端反碗蓋	(9.2)	3.7	2.8	肥前	1820-60	218とセットか	84
260	SE6	染付	碗蓋	9.5	3.8	3	有田	1820-60	有亀	85	
P51 第61図	261	SE6	青磁染付	碗蓋	(10.2)	3.7	3.2	肥前系	18c後半		50
	262	SE6	染付	望料碗蓋	(10.4)	4.6	3.1	肥前(有田)	1780-1820	215とセット	83
	263	SE6	染付	端反碗蓋	(8.9)	3.6	3.1	肥前系	1820-60	砥部焼か	73
	264	SE6	染付	端反碗蓋	8.45	3.5	2.9	肥前	1820-60		67
	265	SE6	染付	碗蓋	9.1	3.4	2.7	肥前	幕末	寿文	72
	266	SE6	染付	碗蓋	9.1	3.5	2.6	瀬戸美濃	18c中~末		71
	267	SE6	染付	端反碗蓋	9.3	3.7	3.05	瀬戸美濃	1820-60	銘「太花年制」、焼継あり	86
	268	SE6	磁器	小坏	5	3.55	2.4	肥前	19c頃	型押し成形、鳥の餌入れか?	48
	269	SE6	染付	小坏	(5.7)	2.2	4.5	肥前(有田)	1650-60	銘「大明」	45
	270	SE6	染付	小坏	(6.2)	2.4	3.9	肥前	17c後	蘭文様(簡単、粗製)	40
	271	SE6	白磁	小坏	6.4	2.4	3.1	肥前	18c		43
	272	SE6	染付	小坏	(7.6)	2.9	3.8	肥前	18c		44
	273	SE6	白磁	小坏	(6.5)	3.15	4.6	肥前	17c後半		1052
	274	SE6	色絵	小坏	(6.4)	(2.4)	3.5	肥前	18c末-19c	千鳥か、輪郭を墨	47
	275	SE6	染付	段重	(11.8)	(9)	5.3	肥前	1780-19c		356
	276	SE6	陶器	段重	(11.4)	(10.1)	4	関西系	18c後半-19c	呉須と鉄釉による松竹梅文	24
	277	SE6	染付	段重蓋	8.45	-	2.9	肥前(有田)	19c初-幕末	化粧道具入れの可能性あり、受け口径9.3cm	348
278	SE6	染付	段重蓋	(11.6)	-	3.6	肥前(有田)	18c末-19c初	受け口径(13cm)	351	
P52 第62図	279	SE6	陶器	皿	11.8	3.8	4	肥前	1590-1610	溝縁皿、胎土目	28
	280	SE6	陶器	皿	(12)	(4.4)	3.1	肥前	1590-1610	灰釉、胎土目積、皮鯨	29
	281	SE6	陶器	皿	(21.1)	-	-	肥前	1670-90	京焼風、高台蛇の目釉剥ぎ、呉須絵山水文	27
	282	SE6	青磁	皿	(23.6)	(12.5)	3.6	肥前	17c後半	嬉野あたりか、高台裏、鉄泥を塗る	147
	283	SE6	染付	皿	(12.1)	3.3	3.4	肥前波佐見系	17c末-18前		53
	284	SE6	陶器	皿	(12.2)	(4.4)	3.6	肥前	18c前半	SE69と接合、嬉野内野山、内面銅緑釉、外面透明釉	25
	285	SE6	染付	皿	(17.8)	(12.5)	4.2	肥前	18c前半	舟形、糸切細工	62
	286	SE6	陶器	皿	(12.3)	4.25	4.5	肥前	18c前半	京焼風、目跡(足付ハマ痕)	34
	287	SE6	染付	皿	(15.3)	8.2	4.6	肥前	19c初-幕末	蛇の目凹形高台、盪付に7掛け塗布	55
	288	SE6	染付	皿	14.9	8.6	4.1	肥前	江戸後期	氷裂文、SE71と接合	49
	289	SE6	染付	皿	14.1	7.9	3.8	肥前	18c第2、3四半期	渦福、手描き五弁花	65
P53 第63図	290	SE6	染付	皿	13.3	7.5	3.3	肥前波佐見系	18c後半	粗雑、酸化気味、渦福、コンニャク印判五弁花	66
	291	SE6	染付	皿	(13.5)	8	3.9	肥前波佐見系	18c後半	渦福、コンニャク印判五弁花	76
	292	SE6	染付	八寸皿	(19.4)	10.2	4.2	肥前波佐見系	18c後半	SC161と接合	1
	293	SE6	染付	手塩皿	6.5	3.4	1.9	肥前	1780-90	糸切細工、竹文様、折松葉、高台に雷文	63
	294	SE6	染付	手塩皿	(10.3)	(6)	2.2	肥前	1780-1860	型打ち成形	58
	295	SE6	染付	手塩皿	10.1	5.6	2.2	肥前	18c前半	有田の可能性あり	57

第6表:陶磁器観察表⑥

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P53 第63図	296	SE6	白磁	手塩皿	(8.1)	5	1.9	肥前	1780-1860	口紅装飾、型押し成形、アルケ付着	52
	297	SE6	染付	紅皿	6.8	2.5	2.6	肥前	18c後半	笹文	46
	298	SE6	染付	長皿	9.75	5.8	3	肥前	18c後半頃	有田の可能性あり、銘「富貴長春」、蛸唐草	56
	299	SE6	染付	大皿	-	(15.8)	-	肥前(有田)	18c末-19c前	ハリ支え、型打ち成形	20
	300	SE6	陶器	皿	11.9	3.6	4.4	関西系	18c		13
	301	SE6	陶器	皿	11.4	3.4	4.7	関西系	18c		8
	302	SE6	色絵	皿	(12.3)	4.1	4.3	関西系	18c後-19c初		39
P54 第64図	303	SE6	色絵	皿	(12.1)	4.1	4.3	関西系	18c	青色あり	35
	304	SE6	色絵	皿	(12.6)	4.0	4.2	関西系	18c後-19c初	釉に青みが強い	38
	305	SE6	陶磁	皿	(11.8)	3.7	4.6	-	-		15
	306	SE6	陶器	灯明皿	(9.7)	(4.5)	1.85	関西系	18c-19c	柿釉、軟質性陶器	32
	307	SE6	陶器	皿	-	4.65	-	薩摩	18c	糸切り底	30
	308	SE6	陶器	皿	(19.8)	(12)	4.2	瀬戸美濃	17c後-18c	全面施釉、量付釉剥ぎ	31
	309	SE6	陶器	灰釉皿	(12)	-	-	瀬戸美濃	16c後半		22
	310	SE6	陶器	手塩皿	8.5	5	1.2	備前か	18c-19c		51
	311	SE6	陶器	袋物	-	(7)	-	福岡か	17c-18c		33
	312	SE6	陶器	角皿	-	-	(3)	九州?	17c-18cか	鉄釉	37
	313	SE6	磁器	猪口	(7.4)	(5.2)	6	肥前	18c前-中		1055
	314	SE6	磁器	猪口	(4.9)	2.4	3.7	肥前系	18c末-幕末	薩摩(平佐系か)の可能性あり	1053
	315	SE6	染付	蓋付鉢	12.3	5.6	8	肥前	江戸後期		350
P55 第65図	316	SE6	陶器	片口鉢	-	8.95	-	瀬戸美濃	17c-18c	墨書「鳥枝氏」、高台周囲にも墨書あり	128
	317	SE6	陶器	片口鉢	(19)	(9)	11.7	瀬戸美濃	18c-19c	ハマ痕	334
	318	SE6	陶器	鉢	(17.7)	-	-	薩摩	江戸後期	SC82と接合、内面白化粧→飛びかたけ→鉄釉	141
	319	SE6	青磁	香炉?	(9.6)	(7)	6.4	肥前	18c後-19c前		123
	320	SE6	色絵	火入れ	(10.5)	-	-	関西系	18c-19c	香炉か	119
	321	SE6	青磁	火入	(11.2)	(10.2)	8.8	肥前	江戸後期		332
	322	SE6	青磁	灰落	(6.5)	(6.2)	7.6	肥前	18c	使用痕あり	125
	323	SE6	陶器	花瓶	(30)	-	-	肥前	17c末-18c前	銅緑釉	481
324	SE6	染付	花入	(16.6)	-	-	肥前か	18c後-幕末	呉須ダミ→透明釉	127	
325	SE6	陶器	花入	-	10.5	-	瀬戸美濃か	近世		333	
P56 第66図	326	SE6	染付	仏飯器	-	(3.45)	-	肥前	18c	底部無釉、コンニャク印判	124
	327	SE6	磁器	仏飯器	(7.4)	4.2	5.3	肥前	18c		117
	328	SE6	染付	仏飯器	6.2	3.4	5.9	肥前	18c前-中葉		116
	329	SE6	染付	仏飯器	(7.6)	3.8	5	肥前	17c末-18c前		120
	330	SE6	陶器	仏飯器	-	4.0	-	薩摩か	18c	鉄絵	122
	331	SE6	陶器	土瓶	8.4	-	-	関西系	18c後-幕末	SE81と接合、在地の可能性あり	150
	332	SE6	陶器	土瓶	(6.2)	(5.3)	10	薩摩	18c-19c前	白薩摩、注ぎ口三つ孔	192
	333	SE6	陶器	土瓶	(6.4)	-	-	薩摩	18c-19c	注ぎ口二つ孔	193
	334	SE6	陶器	土瓶	(6.05)	(4.6)	8.6	薩摩	江戸後期		198
	335	SE6	陶器	土瓶蓋	4.9	-	-	薩摩	18c-19c	白薩摩、受け部径7.4cm	189
	336	SE6	陶器	小壺	-	3.4	-	薩摩	18c-19c	からから	188
	337	SE6	染付	瓶	-	3.8	-	肥前波佐見	18c末-幕末	若松文様	17
	338	SE6	染付	神酒瓶	-	-	-	肥前系	19c初-幕末	蛸唐草	190
	339	SE6	陶器	酒徳利	-	(10.5)	-	薩摩か	江戸後期	SE81と接合	483
	P57 第67図	340	SE6	陶器	ぺこかん	2.4	5.5	16.4	備前	18-19c	
341		SE6	陶器	酒徳利	3.45	-	-	九州	19c		191
342		SE6	陶器	蓋	3.3	-	-	関西系	19c	受け部径4.75cm	61
343		SE6	陶器	蓋	6.7	-	2.9	関西系	江戸後期	受け部径(8.8cm)	353
344		SE6	陶器	蓋	(7.8)	-	-	関西系	江戸後期	受け部径(9.5cm)	352
345		SE6	陶器	蓋	3.4	-	1	関西系	19c	内面無釉	59
346		SE6	陶器	蓋	3.5	-	1.3	関西系	19c	受け部径4.7cm	60
347		SE6	陶器	蓋	4.2	-	1.3	関西系	19c	受け部径5.7cm	54
348		SE6	陶器	蓋	11.5	-	-	肥前	18c末-幕末	サビ釉、受け部径12.5cm	349
349		SE6	陶器	二彩甕	(29)	13.75	29.8	肥前(唐津)	17c後-18c初	中に砂目あり	480
350		SE6	陶器	袋物	-	(6.8)	-	肥前	18c後半	嬉野内野山、白化粧土	153

第7表:陶磁器観察表⑦

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P57 第67図	351	SE6	陶器	袋物	-	(9.5)	-	関西系	18c-19c	鉄釉	336
	352	SE6	陶器	袋物	-	(8.9)	-	薩摩	18c-19c	内外無釉	154
P58 第68図	353	SE6	陶器	壺	(8.7)	-	-	瀬戸美濃か	18c後-19c	灰釉	121
	354	SE6	陶器	袋物	-	(10.5)	-	瀬戸美濃	17c-18c	徳利か、釉掻き落とし(内面と外面下)	335
	355	SE6	陶器	壺	-	7.7	-	九州	17c	貝目あり、鉄釉、内面鉄泥	337
	356	SE6	陶器	壺蓋	(6.9)	-	3.5	薩摩	18c-19c	受け部径(10.6cm)	194
	357	SE6	陶器	香炉?	-	-	-	薩摩か	17c-18c	透かしあり	113
	358	SE6	陶器	甕	(17.7)	-	-	薩摩	17c	耳付	338
	359	SE6	陶器	甕	(27)	-	-	福岡か	18c-19c頃		114
	360	SE6	陶器	甕?	-	(16)	-	九州	17c後-18c	SC110と接合、内面藁灰釉、福岡か薩摩か、底無釉	482
P59 第69図	361	SE6	陶器	甕	-	-	-	備前	16c-17c		112
	362	SE6	陶器	甕	(24.1)	15.7	29.7	丹波、島根か	江戸後期	SC106と接合、全面施釉、内面底部に胎土目	484
P60 第70図	363	SE6	陶器	甕	-	(19.1)	-	琉球か	17c後半	荒焼か	486
	364	SE6	陶器	行平鍋	(13.3)	(5.6)	8.2	関西系	19c		148
	365	SE6	陶器	鍋	(16.4)	(7)	6.65	関西系	19c	鉄釉	149
	366	SE6	陶器	鍋	(8.9)	5	4.7	薩摩	江戸後期	糸切り底、口縁部釉剥ぎ	196
	367	SE6	陶器	行平鍋蓋	13.2	-	-	関西系	19c	受け部径15.1cm	142
	368	SE6	陶器	植木鉢	-	(26.0)	-	-	-		1080
	369	SE6	陶器	鉢	(50.4)	-	-	南九州	18c-19c		487
P61 第71図	370	SE6	陶器	大鉢	-	-	-	肥前か薩摩	17c後-18c	SE5とSC94と接合、獣面(貼付文様)、植木鉢か	477
	371	SE6	陶器	播鉢	-	(9)	-	肥前	17c	高台あり	1005
	372	SE6	陶器	播鉢	-	(7.6)	-	肥前	17c前-中	糸切底	1006
	373	SE6	陶器	播鉢	(19.4)	(7.8)	5.65	瀬戸美濃	17c前後	鉄泥	1011
	374	SE6	陶器	播鉢	-	-	-	備前	17c		1013
	375	SE6	陶器	播鉢	-	(13)	-	備前	15c-16c		1018
	376	SE6	陶器	播鉢	(22.1)	(10.8)	8.1	堺系	18c-19c		1019
	377	SE6	陶器	播鉢	(25.2)	(13.2)	8.65	堺系	18c前後		1012
	378	SE6	陶器	播鉢	-	-	-	九州	18c前後		1004
	379	SE6	陶器	播鉢	-	-	-	九州	18c前半		1017
P62 第72図	380	SE6	陶器	播鉢	(29.3)	-	-	九州	17c	福岡か	1009
	381	SE6	陶器	播鉢	(26)	-	-	九州か	18c前後	堺の可能性あり	1007
	382	SE6	陶器	播鉢	(25.1)	-	-	九州	18c-19c		1008
	383	SE6	陶器	播鉢	(32)	-	-	九州	18c前後		1010
	384	SH299	陶器	腰折碗	(9.7)	3.6	5.3	関西系	18c		379
	385	SH299	陶器	鉢	-	(10.9)	-	肥前	-		378
	386	SH1803	陶器	呉器手碗	(11.1)	4.5	7.1	肥前	17c後半		221
	387	SH1777	磁器	碗	(12.15)	(4.7)	4.5	-	-		229
	388	SH1473	陶磁	碗	(9.4)	-	-	-	-		228
	389	SH944	磁器	碗	-	3.7	-	薩摩	-	白薩摩、千鳥印	373
	390	SH1074	陶器	碗	-	(5.4)	-	-	-		219
	391	SH2145	染付	蓋	(10.3)	(6.1)	2.8	-	-		224
	392	SH1321	染付	碗	7.8	2.45	3.55	-	-	SH1748と接合	216
	393	SH1803	染付	小坏	6	2.6	3.2	肥前	-		222
	394	SH1488	陶器	皿	(11.1)	(4.2)	3.7	肥前	慶長年間	胎土目積	227
	395	SH1240	陶器	皿	(12.65)	(4.7)	2.6	肥前	-	砂目積	213
	396	SH2145	陶器	皿	-	4.2	-	肥前	1600-1610	砂目積	226
	397	SH1536	陶器	皿	12.2	4	3.7	肥前	慶長年間	胎土目積	214
	P63 第73図	398	SH996	陶器	皿	(13.4)	4.8	3.7	肥前	1610-30	砂目積
399		SH990	陶器	皿	(13.4)	4.4	4.3	肥前	1610-30	砂目積	211
400		SH2010	陶器	皿	(12.3)	(4.2)	3.55	-	-		220
401		SH1130	染付	皿	(13.5)	8.4	2.9	肥前(有田)	1690-1700	コンニャク印判	212
402		SH967	染付	皿	14.5	7.9	3.2	肥前(有田)	1660-70	SH989と接合	371
403		SH1308	色絵	皿	11.8	3.7	4.3	関西系	-		215
404		SH1074	青磁	皿	(13.45)	(6.2)	(4.1)	景德鎮	16c末-17c初		217
405		SH1473	色絵	火入?	(4.9)	6.15	7.6	関西系	-		230
406		SH2145	陶磁	甕	(22.1)	-	-	-	-		225
407		SH308	青磁	皿	(8.6)	3.7	2.5	福建省	16c後-17c初	墨書「白」、明末	377
P94 第103図	653	SC80	染付	小碗	(6.7)	(3.6)	6.2	肥前	1820-60	鶏文	275
	654	SC80	白磁	碗	8.8	3.7	5.9	肥前系	18c後-19c前		1063
	655	SC80	染付	碗	(11)	(4.4)	5	肥前(波佐見)	18c後半	丸文、見込蛇の目釉はぎ	313

第8表:陶磁器観察表⑧

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P94 第103図	656	SC80	陶器	小碗	(8.6)	2.5	4.55	関西系	18c後半	小杉碗	310
	657	SC80	染付	猪口	(4.95)	2.7	4.5	肥前	18c後半	網干し文	276
	658	SC80	染付	皿	-	(15.95)	-	肥前(有田)	18c末-幕末	ハリ支え	309
	659	SC80	陶器	皿	(10.8)	3.1	3.95	関西系	18c	見込ハマ痕	273
	660	SC80	染付	端反碗蓋	9.65	3.85	2.9	肥前	1820-60	有亀	278
	661	SC80	陶器	皿	8.9	4.1	2.5	在地か?	19c	イッチン掛け	279
	662	SC80	磁器	足付皿	(19.9)	-	3.5	薩摩か	17c後半-18c	SC110と接合、底部蛇の目釉剥ぎか	306
	663	SC80	陶器	向付鉢	-	-	3.7	織部	1590-17c初	布目痕、底無釉、本来脚付	314
	664	SC80	染付	蓋付鉢	(14.8)	(8.3)	8.2	肥前	18c前-中		277
	665	SC80	染付	仏飯器	-	3.8	-	肥前系	17c後-18c		272
	666	SC80	染付	仏飯器	(7.1)	3.6	6.4	肥前	18c	SF70と接合	437
	667	SC80	陶器	徳利	-	(7)	-	関西系	19c		312
668	SC80	陶器	徳利	3.8	-	-	関西系	19c		311	
669	SC80	染付	レンゲ	5.4	3.3	-	肥前	18c末-19前		274	
P95 第104図	670	SC80	陶器	水甕	(36)	(23)	17.6	瀬戸美濃	江戸後期	高台無釉、内面胎土目	281
	671	SC80	陶器	甕	(30.8)	-	-	肥前(武雄)	17c後-18c	二彩	280
	672	SC80	陶器	大甕	-	-	-	備前	16c-17c		307
P96 第105図	673	SC80	陶器	大鉢	(63.5)	-	-	琉球	18c-幕末	SC184とSE6と接合、植木関係の用途か	492
	674	SC80	陶器	甕	-	(12.4)	-	九州	19c	福岡か	308
	675	SC80	陶器	播鉢	32.2	14.6	11.7	堺系	18c前後	九州系か	1020
	676	SC80	陶器	播鉢	-	-	-	堺系	18c頃		1048
	677	SC80	陶器	播鉢	(36.1)	-	-	九州か	18c前後		1033
P97 第106図	678	SC82	染付	碗	(7.95)	2.4	4.3	-	-		296
	679	SC82	染付	茶飲碗	(7.95)	2.95	5	肥前	1820-60		297
	680	SC82	染付	筒形碗	(6.8)	(3.4)	5.1	肥前系	1780-1810	コンニャク印判	299
	681	SC82	陶器	端反碗	(8.5)	2.6	4.7	関西系	19c前半		301
	682	SC82	染付	端反碗	(8.9)	-	-	瀬戸美濃	-		295
	683	SC82	染付	端反碗蓋	(9.4)	(3.85)	2.9	肥前	1820-60	よろけ縞文	298
	684	SC82	陶器	灯明皿	7	2.5	1.35	関西系	18c-19c	柿釉、軟性陶器	294
	685	SC82	陶器	皿	(9.75)	(3.75)	2.2	薩摩か	17c-18c		300
	686	SC82	白磁	紅皿	4.7	2.2	0.85	肥前系	江戸後期	型押し成形	1074
	687	SC82	陶器	播鉢	-	-	-	九州か	18c-19c		1034
	688	SC82	陶器	播鉢	-	-	-	九州か	18c前後		1035
P104 第116図	728	SC178	陶器	甕	(21.6)	18.6	29.1	薩摩か	江戸後期	SC110とSC82と接合、内面無釉、5点胎土目(砂目か)	489
	729	SC184	白磁	碗	(8)	(3.8)	4.3	福建省徳化窯	18c-19c前	釉に青みあり、型押し成形	1075
	730	SC184	白磁	足付皿	(14.1)	8.4	2.9	肥前(有田)	1780-90	型押し成形、柿右衛門窯	1073
	731	SC184	陶器	土瓶	-	7.1	-	関西系	19c	SC110と接合	261
P118 第138図	747	SC1	染付	皿	12.7	7.3	3.9	肥前系	18c後半	コンニャク印判、渦福	462
	748	SC1	染付	皿	10.3	6.2	2.5	肥前	19c初-幕末	畳付釉剥ぎ、墨弾き	470
	749	SC2	染付	碗	(9.7)	4.1	5	肥前	18c後半	コンニャク印判	285
	750	SC2	染付	碗	(9.9)	3.9	5.1	肥前波佐見系	18c後半		290
	751	SC2	染付	碗	-	3.75	-	肥前	19c-幕末		284
	752	SC2	染付	碗	-	(3.0)	-	肥前系	1820-60		282
	753	SC2	陶器	碗	-	4.5	-	薩摩	18c-19c前	白薩摩、千鳥印	289
	754	SC2	色絵	碗	(11)	-	-	瀬戸美濃	1820-60	焼継ぎあり	286
	755	SC2	染付	碗	(8.85)	3.3	4.9	瀬戸美濃	幕末		283
	756	SC2	陶器	碗	(11.8)	5.7	5.6	南九州	江戸後期		293
	757	SC2	染付	端反碗蓋	8.9	3.5	2.7	肥前系	1820-60	砥部焼か	287
	758	SC2	染付	端反碗蓋	(10.6)	(4.0)	3.5	-	-		288
	759	SC2	色絵	段重	(12.1)	(7.1)	5.1	肥前	江戸後期	高台脇無釉、アルケ付着、畳付釉剥ぎ、砂付着	292
	760	SC2	陶器	徳利	-	7.6	-	薩摩か	江戸後期	底部無釉(平底)内面無釉、砂付着	291
	761	SC46	染付	小広東碗	10.3	3.7	4.9	肥前か	1770-1810	見込源氏香文	137
	762	SC48	染付	碗	(10.3)	4	4.9	肥前系	18c後半	網目文	406
	763	SC48	陶器	碗	-	(4.1)	-	瀬戸美濃	18c中葉-末		405
764	SC48	陶器	小碗	(9)	3.5	4.6	萩	18c中葉-末		411	
765	SC48	染付	広東碗蓋	9.6	-	3.1	肥前	1780-1810		410	

第9表:陶磁器観察表⑨

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P119 第139図	766	SC48	染付	段重	(10.3)	(6.9)	4.4	肥前	18c末-19c前		400
	767	SC48	磁器	皿	(14.7)	7.9	3.6	景德鎮	16c第4四半 期-17c初	銘「富貴佳器」、明代	475
	768	SC48	陶器	蓋	(9.6)	-	-	関西系	18c頃	受け部径(11.6cm)	409
	769	SC48	陶器	蓋	(13.9)	(3.7)	2.8	関西系	19c	口縁部釉はぎ取り	408
	770	SC48	陶器	蓋	2.9	-	1.6	薩摩か	18c-19c	糸切り痕、つまみな し、受け部径6.2cm	407
	771	SC48	陶器	蓋	4.1	-	3	薩摩	江戸後期	サメ肌釉、受け部径 (5.9cm)	404
	772	SC48	青磁	火入	(8.4)	(7.6)	6.4	肥前	18c		397
	773	SC48	陶器	小型壺	(10)	-	-	薩摩	18c-幕末		403
	774	SC48	陶器	植木鉢	-	(14)	-	瀬戸美濃	18c後-幕末	中央に穴	401
	775	SC48	陶器	植木鉢	(36.1)	-	-	薩摩か	18c-幕末	焼しめ	476
	776	SC48	陶器	壺	(33.3)	(16.8)	26.4	九州	17c-18c	鉄系の釉	474
777	SC48	陶器	搦鉢	-	-	-	堺	18c-幕末		1044	
P120 第140図	778	SC48	陶器	搦鉢	30.4	-	-	九州	18c頃		1045
	779	SC48	陶器	搦鉢	-	(15.6)	-	堺系	17c後-18c		1046
	780	SC12	陶器	搦鉢	-	-	-	九州	18c-19c		1022
	781	SC12	陶器	搦鉢	(26.4)	-	-	九州	17c後-18c		1021
	782	SC23	染付	小碗	(7.6)	2.9	3.5	-	-		390
	783	SC27	染付	小碗	7	2.8	3.45	-	-		135
	784	SC27	陶器	小碗	(8.8)	2.9	5.1	-	-		138
	785	SC27	陶器	碗	-	4.55	-	-	-		136
	786	SC33	青花	小坏	-	2.4	-	中国	18c-19c	掻きとり、清朝磁器	131
	787	SC33	染付	小丸碗	8.6	3.2	5.7	肥前	1780-90	コンニャク印判五弁 花	129
	788	SC33	陶器	把手付碗	8.9	5.3	3.8	関西系	18c頃	鳥のエサ入れか、砥 部焼か	130
	789	SC33	陶器	錢甕	12.5	5.8	13	瀬戸美濃	18c-19c	底部糸切底、重ね痕 あり	132
	790	SC56	染付	蓋	(6.4)	-	(2.4)	-	-	受け部径(7.8cm)	398
	791	SC56	陶器	鉢	(14.1)	(8.7)	7.5	薩摩	-	継ぎ目、底部溶着痕、 胎土目	399
	792	SC57	染付	小坏	(5.8)	(2.4)	2.4	-	-		389
793	SC57	染付	端反碗蓋	9	3.4	3	-	-		388	
P121 第141図	794	SC58	色絵	碗	(8.4)	(2.9)	(5.5)	関西系	-		428
	795	SC58	染付	碗	-	(4.3)	-	-	18c前半	渦福	431
	796	SC58	陶器	碗	-	4.3	-	-	17c		429
	797	SC58	染付	碗	(6.6)	2.9	4.4	-	18c前半		432
	798	SC58	陶器	蓋	(10.3)	-	2.2	薩摩	18c	白薩摩、修理痕あり、 受け部径(11.7cm)	433
	799	SC58	陶器	搦鉢	-	-	-	備前	16c頃		1029
	800	SC59	染付	猪口	-	4.0	-	-	-		426
	801	SC59	陶器	小坏	(4.4)	1.7	2.7	関西系	-		427
	802	SC59	陶器	碗	(8.9)	3.1	5.4	-	-		430
	803	SC67	陶器	碗	(12.3)	4	5.4	肥前	18c	底部砂付着、全面施 釉	392
	804	SC67	陶器	碗	(8.9)	3.3	5.4	関西	18c後半	小杉碗	394
	805	SC67	陶器	瓶	2.3	-	-	備前	18c-19c	布袋酒瓶	393
	806	SC67	染付	小坏	(6.7)	2.7	4.6	肥前	18c後半	コンニャク印判	402
	807	SC67	陶器	搦鉢	-	-	-	九州	江戸後期		1030
	808	SC67	青磁	燭台	-	7.7	-	明	15c		396
	809	SC67	陶器	鉢	(34.6)	-	-	肥前	-		395
	810	SC98	染付	丸碗	11.9	4.85	5.9	肥前	18c後半	丸文、見込蛇の目釉 はぎ	186
811	SC80	磁器	仏飯器	-	4.5	-	肥前	17c末-18c		1064	
812	SC160	陶器	碗	-	4.6	-	-	-		471	
813	SC160	陶器	碗	(9.0)	(3.1)	4.9	-	-		473	
814	SC160	陶器	碗	-	4.6	-	薩摩	-		467	
815	SC160	染付	小坏	(6.4)	(3.6)	4.5	-	-		472	
816	SC160	陶器	灯明皿	-	(4.3)	-	関西系	-		466	
P122 第142図	817	SE5	染付	端反碗	11.3	4.3	5.5	肥前	1820-60		202
	818	SE5	色絵	碗	-	3.7	-	肥前(有田)	江戸後期		197
	819	SE5	染付	小碗	8.4	3.2	4.2	瀬戸美濃	幕末	焼継ぎあり	199
	820	SE5	染付	小碗	(9)	3.7	4.8	瀬戸美濃	幕末	焼継ぎあり	203
	821	SE5	陶器	せんじ碗	(9.9)	4.1	4.9	瀬戸美濃	18c		205
	822	SE5	染付	端反碗蓋	9.1	(3.8)	2.5	肥前系	1820-60		70
	823	SE5	磁器	小杯	(6.2)	(2.6)	2.8	肥前	19c前-中		1049



第10表: 陶磁器観察表⑩

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			産地	時期	備考	実測 番号
					口径	底径	器高				
P122 第142図	824	SE5	陶器	小杯	-	2.1	-	肥前か	17c	円盤か	204
	825	SE5	染付	皿	14.5	8.4	4.6	肥前	1820-60		206
	826	SE5	染付	皿	(14.5)	9.4	4.8	肥前	1780-1820		200
	827	SE5	陶器	小皿	8.6	4.8	1.4	備前	18c-19c	薄手、焼締め、型押し 成形、布痕	64
	828	SE5	陶器	灯明皿	(11.7)	(4.1)	2.5	関西系	江戸後期	信楽か	201
	829	SE5	陶磁	紅皿	4.6	1.5	1.6	肥前	18c末-幕末	型押し成形	1051
	830	SE5	陶磁	薬入	(3.8)	(4)	1.35	肥前	江戸後期	合子、薬合(身)	1050
	831	SE5	陶器	徳利	-	(5)	-	備前	18-19c		207
	832	SE5	陶器	火入	(12.2)	(11.8)	6.15	南九州	18-19c	外面鉄系釉、内面底 部無釉	208
	833	SE5	陶器	仏火器?				肥前	17c後-18c初		118
	834	SE5	陶器	土瓶蓋	6.55	-	2.8	薩摩	19c	受け部径8.85cm	187
	835	SE5	陶器	土瓶	-	8.3	-	関西系	19c		209
P123 第143図	836	SE5	陶器	壺・甕?	(27)	-	-	福岡?	19c	SE6とSC94と接合	143
	837	SE5	陶器	搦鉢	-	-	-	瀬戸美濃	16c		1001
	838	SE5	陶器	搦鉢	(31.0)	-	-	堺	18c		1002
	839	SE5	陶器	搦鉢	(25.4)	(13.8)	8.9	九州	18-19c		1003
	840	SH772	陶器	端反碗	(9.3)	4.7	6.0	-	-		374
	841	SH239	青花	碗	(12.8)	4.8	6.1	漳州窯	16c後半		380
	842	SH203	染付	広東碗蓋	(9.3)	5.0	2.9	肥前	1780-1820		210
	843	SH619	陶器	皿	(12.8)	4	3.8	肥前	1590-1610	胎土目積	376
	844	SH858	陶器	皿	(8.4)	4.3	1.3	-	-		218
	845	SH571	染付	猪口	(8.2)	4.3	5.9	肥前	18c前半	SH593と接合	375
846	SH529	陶磁	蓋	5.8	-	1.6	-	-	受け部径7.6cm	372	
847	SH2130	陶器	搦鉢	-	(15.8)	-	九州	18c前後		1014	
P133 第152図	923	SE83	陶器	碗	-	4.25	-	肥前	1580-1610	灰釉碗	317
	924	SE83	陶器	碗	(11.3)	4.7	6.1	肥前か	1580-1610		320
	925	SE83	陶器	碗	10.95	3.9	6.5	薩摩か	17c初頭	苗代川か	319
	926	SE83	陶器	天目碗	12.2	4.6	6.5	瀬戸美濃	16c		322
	927	SE83	陶器	小碗	4.6	1.7	2.7	瀬戸美濃	近世		315
	928	SE83	青花	碗	(12.15)	-	-	景德鎮	16c後半	魚文	328
	929	SE83	青花	蓮子碗	-	(5)	-	景德鎮	16c前-中	花卉文	329
	930	SE83	青花	碁笥底碗	-	4	-	福建省	16c後半	寿文、高台内無釉	326
	931	SE83	青花	碗	-	4.8	-	景德鎮	16c後半	饅頭心の見込、龍文	330
	932	SE83	青花	碗	-	4.3	-	福建省	16c後半	高台内無釉	331
	933	SE83	青花	碁笥底碗	-	4.4	-	景德鎮	16c	寿重鎮文	327
	934	SE83	陶器	皿	(14.3)	4.8	3.4	肥前	1590-1610	鳥文	318
	935	SE83	陶器	碗	-	4.4	-	肥前	1590-1610	鉄絵	321
	936	SE83	陶器	小皿	(11.9)	(4.8)	2.95	肥前	1590-1610年 代	灰釉	316
	937	SE83	青花	皿	-	-	-	景德鎮	16c		146
	938	SE83	白磁	皿	(9.85)	6.2	2	福建省	16c後半	見込蛇の目、高台内 無釉	323
	P134 第153図	939	SE83	青磁	皿	12.15	4.8	2.4	福建省か	16c後半	
940		SE83	青花	皿	-	-	-	中国	16c後半	景德鎮か、福建省の 可能性もあり	324
941		SE83	陶器	甕	(22.4)	19	41	薩摩	江戸初期	口縁上部のみ無釉、 焼成不良、串木野あ たりか?、貝目	488
942		SE83	陶器	搦鉢	-	-	-	備前	-		1084
943		SE83	陶器	搦鉢	-	-	-	備前	-		1085
944		SE83	陶器	搦鉢	-	-	-	-	-		1083

第11表: 土器観察表⑪

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元			色調		備考	実測 番号
					口径	底径	器高	外面	内面		
P64 第74図	408	SF16	土師器	灯明皿	-	6.2	-	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		1143
	409	SF70	土師器	灰吹	-	(10.0)	-	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/1	「深草菱吉」印 あり	1156
	410	SF70	土器	焙烙	(30.0)	(51.4)	-	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	SC48と接合	1179
	411	SZ73	土器	焙烙	-	-	-	にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR5/4		1175
	412	SC28	土器	火鉢	-	-	-	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい黄橙10YR6/3		1027
	413	SC110	土器	不明	-	-	-	浅黄橙10YR8/4	にぶい橙7.5YR7/3		1162
	414	SC110	土器	火鉢	-	-	-	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/4		1163
	415	SC110	瓦質	火鉢?	-	(19.2)	-	黄灰2.5YR5/1	にぶい黄橙10YR6/4	18c-19c	1039
	416	SC110	土器	焙烙	-	-	-	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		1165

第12表: 土器観察表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ): 復元			色調		備考	実測 番号
					口径	底径	器高	外面	内面		
P64 第74図	417	SC110	土器	焙烙	(28.1)	-	-	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙7.5YR8/4		1164
	418	SC110	土器	焙烙	長 (15.4)	幅 (8.15)	厚3.6	にぶい橙10YR7/3	にぶい橙10YR7/3	ごま煎り器	1161
	419	SC151	土器	火鉢	(36.5)	-	-	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/6	SC155とSE6接 合	1139
P65 第75図	420	SC8	土器	灯明皿	(9.6)	(4.5)	1.9	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		1141
	421	SC34	土師器	皿	-	(6.8)	-	褐灰7.5YR4/1	にぶい橙7.5YR7/3		1147
	422	SC34	土師器	灯明皿	(10.9)	(5.7)	2.4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		1148
	423	SC54	土師器	皿	(10.2)	6.4	2.0	浅黄橙10YR8/3	灰白10YR8/2		1151
	424	SC54	土師器	皿	-	5.05	-	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		1152
	425	SC54	土師器	灯明皿	(12.5)	(5.0)	2.4	橙5YR7/6	浅黄橙10YR8/3		1153
	426	SC54	土師器	焙烙	-	-	-	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい橙7.5YR6/4	外面スス付着	1150
	427	SC91	土師器	皿	(8.4)	5.5	1.4	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		1159
	428	SC91	土師器	皿	(9.1)	5.1	1.4	灰白10YR8/2	灰白10YR8/1		1158
	429	SC91	土師器	皿	-	5.6	-	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙10YR8/3		1160
	430	SC121	土師器	皿	7.35	3.9	1.3	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	墨書「中」	1166
	431	SC121	土師器	皿	7.4	3.95	1.2	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	墨書「中」	1167
	432	SC127	瓦質	鉢	-	-	4.4	暗灰N3/0	灰N4/0		1090
	433	SC127	瓦質	鉢	-	-	5.6	暗灰N3/0	灰N5/0		1089
	434	SC127	土器	焙烙	(29.3)	(31.2)	-	にぶい黄橙7.5YR5/4	にぶい黄橙10YR7/3		1170
	435	SC127	瓦質	羽釜	(8.9)	-	-	黄灰2.5Y5/1	褐灰7.5YR5/1	スス付着	1091
	436	SC127	瓦質	植木鉢	31.2	-	-	灰白N7/0	灰黄褐10YR5/2		1328
	437	SC146	土師器	皿	(10.1)	(5.9)	1.9	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		1171
	438	SC161	土器	火鉢	-	-	-	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい赤褐5YR5/4		1174
	439	SE6	土師器	灯明皿	(8.6)	(4.0)	1.6	灰白2.5Y8/2	灰白10YR8/2		1124
	440	SE6	土師器	皿	(8.0)	(4.6)	1.1	橙7.5Y6/6	橙7.5Y6/6		1125
	441	SE6	土師器	灯明皿	(9.5)	(4.8)	1.1	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		1129
	442	SE6	瓦質	蓋	8.3	-	1.7	暗灰N3/0	暗灰N3/0		1081
	443	SE6	土器	火入	-	(10.2)	-	淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3		1126
	444	SE6	土器	焜炉	(22.9)	-	-	暗灰N3/0	灰N4/0		115
	445	SE6	瓦質	火鉢	-	(20.0)	-	灰N4/0	灰N5/0		1082
	P66 第76図	446	SE6	土器	火鉢	-	(18.3)	-	橙5YR7/6	橙5YR6/6	
447		SE6	土器	七輪	-	(16.2)	-	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい橙7.5YR6/4		1094
448		SE6	土器	焙烙	-	-	-	灰黄褐10YR5/2	にぶい黄橙10YR7/3		1128
449		SE6	土器	焙烙	-	-	-	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4		1122
450		SE6	土器	焙烙	(31.4)	(32.9)	-	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR6/3		1131
451		SE6	土器	焙烙	28.4	29.6	-	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	穿孔は3ヶ所	1130
452		SE6	土器	焙烙	(29.6)	-	-	にぶい黄橙10YR7/4	灰白10YR8/2	多量のスス付 着	1140
453		SE6	瓦質	羽釜	(9.4)	-	-	灰白5Y7/1	灰白2.5Y7/1	少量スス付着	1078
454		SE6	瓦質	鉢	-	-	-	オリーブ黒7.5Y3/1	オリーブ黒7.5Y3/1		1077
455		SE6	瓦質	鉢	(26.0)	-	-	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1		1079
456	SH921	瓦質	火鉢	(24.4)	(22.1)	(11.6)			3~4の脚が付 く	1331	
P97 第106図	689	SC80	土器	焙烙	(31.6)	-	-	褐灰10YR4/1	にぶい黄橙10YR6/4		1157
	690	SC80	土器	焙烙	31.2	32.5	-	灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙10YR7/4	SC110と接合	1180
	691	SC82	瓦質	火鉢	-	-	-	暗灰N3/1	暗灰N3/1		1330
P100 第110図	709	渋谷氏 埋立土	瓦質	火鉢?	-	-	(11.3)	暗灰N3/0	灰N4/0		1092
P104 第117図	732	SC173	瓦質	植木鉢	-	-	-	灰白N7/0	灰N4/0		1275
P124 第144図	848	SC12	土器	大壺	-	(21.4)	-	橙5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/6		1142
	849	SC12	土器	大壺	-	-	-	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3	SC2と接合	1178
	850	SC18	土器	焙烙	長 (10.95)	幅 10.9	厚 (1.35)	灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙10YR6/3	スス付着、内面 赤色顔料、ごま 煎り器	1144
	851	SC58	土器	羽釜	-	-	-	にぶい褐7.5YR6/3	灰赤7.5YR5/2		1154
	852	SC59	土器	焙烙	20.9	6.4	3.15	にぶい橙5YR6/3	にぶい褐7.5YR5/3	スス付着、ごま 煎り器	1155
	853	SC160	土器	羽釜	-	-	-	明褐灰7.5YR7/1	灰褐5YR4/2		1172
	854	SC160	土器	焙烙	-	-	-	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR7/3		1173
P136 第156図	962	SE6	弥生土 器	甕	-	-	-	にぶい黄橙10YR6/3	灰白10YR8/2		1121
	963	地山	土師器	壺	15.3	-	-	淡黄橙2.5Y8/3	黄灰2.5Y6/1		1138
	964	地山	土師器	壺	-	(2.8)	-	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		1137
	965	SH1552	土師器	高坏	(16.5)	-	-	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		1136
	966	SE6	土師器	高坏	-	-	-	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		1127
	967	SE6	須恵器	坏	-	(4.8)	-	灰7.5Y5/1	灰10Y5/1	底部にヘラ記 号あり	1132
	968	SE6	須恵器	坏	-	(6.7)	-	灰N5/0	灰N6/0		1133
	969	地山	須恵器	坏	(11.5)	(7.9)	4.1	灰N5/0	灰N5/0		1135
	970	SH643	須恵器	坏	(13.1)	(9.0)	4.6	灰N6/	灰N7/		1134
971	地山	土器	焜炉?	(29.4)	(26.6)	(27.3)	灰白5YR8/2	褐7.5YR4/3		1177	

第13表:土製品計測分類表

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	法量cm ( ):復元・残存				備考	実測 番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
P67 第77図	457	SF70	人形	(3.4)	3.4	2.45	(14.57)		1103
	458	SZ73	不明土製品	(8.5)	5.2	1.9	121	砥石への転用か	1276
	459	SZ73	箱庭道具	7.2	8.3	3.75	105.8		1108
	460	SC34	人形	(6.2)	6.0	3.8	(75.62)	ミニチュア	1146
	461	SC34	コンロ部品?	8.55	5.75	4.6	(100)	七輪のパーツか	1086+1087
	462	SE6	おはじき	1.9	2.1	0.7	2.58		1120
	463	SE6	土製品	6.15	2.9	2.5	46.6	犬形	1106
	464	SE6	人形	(6.5)	(5.1)	6.7	(64.36)		1099
	465	SE6	人形	(12.65)	(7.8)	11.35	170		佐人形7
P68 第78図	466	SE6	人形	(3.4)	(4.15)	3.35	(27.78)	手	1096
	467	SE6	人形	49.2	32.8	21.2	-	挿し首	佐人形6
P69 第79図	468	SE6	人形	33.3	20.7	13.9	-		佐人形2
	469	SE6	人形	28.0	17.8	10.9	-		佐人形3
	470	SE6	人形	27.0	26.0	14.2	-	挿し首	佐人形1
P70 第80図	471	SE6	人形	35.6	20.5	18.5	-	挿し首	佐人形5
	472	SE6	人形	37.1	18.2	13.3	-	挿し手、挿し首	佐人形4
	473	SE6	土製品	(3.8)	(2.1)	4.3	(26.21)	玩具か	1097
	474	SE6	乗燭	(5.3)	2.35	1.65	14.5		1098
	475	SE6	乗燭	5.3	5.3	1.3	40.74		1123
	476	SH1136	土錘	(2.8)	2.0	2.05	(9.02)	穿孔径0.4cm	1115
	477	SH1136	土錘	5.0	2.0	0.8	18.81	穿孔径0.4cm	1116
	478	SH1397	土錘	4.8	2.35	2.25	24.84	穿孔径0.5cm	1117
	479	SH1652	土錘	5.4	1.7	1.8	13.88	穿孔径0.9cm	1118
	480	SH1778	土製品	(5.7)	3.3	3.0	(43.32)	龍形	1110
P100 第110図	710	渋谷氏 埋立土	水滴	6.5	6.4	4.5	(78.63)	備前系、18c-幕末	1112
P104 第117図	733	SC184	土製品	-	5.45	1.35	(19.85)	乗燭か	1104
P124 第145図	855	SC33	乗燭	(10.7)	3.8	3.85	(128)		1145
	856	SC33	人形	(3.35)	2.55	1.85	(11.88)	天神様?	1101
	857	SC56	土製品	4.45	(3.1)	2.9	(11.72)	亀形	1102
	858	SH276	徳利?	3.3	2.3	1.25	(7.49)	徳利の飾り部分か	1109
	859	SH844	人形	(4.25)	3.8	1.4	(9.44)		1105
P125 第146図	860	SE5	さな	径14.1		1.5	(106.2)		1093
P134 第154図	945	SE83	おはじき	2.25	2.4	0.8	5.25		1113
	946	SE83	土錘	6.45	2.8	2.7	51.08		1114
P137 第157図	974	表採	土錘	6.1	4.6	2.7	70.31	四つ目	1119
	975	表採	箱庭道具	18.1	17.8	4.3	1550		1111

第14表:石製品計測分類表①

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	材質	法量cm ( ):復元・残存				備考	実測 番号
					長さ	幅	厚さ	重量		
P74 第84図	524	SF16	砥石	堆積岩	(9.65)	3.25	2.55	(85.0)		1199
	525	SF70	硯	頁岩	(6.95)	5.6	(1.0)	(44.13)		1208
	526	SC26	砥石	凝灰岩	(3.1)	(4.15)	0.5	(9.0)		1200
	527	SC110	砥石	頁岩	(10.55)	(5.3)	2.7	(239.0)		1215
	528	SC110	砥石	砂岩	(18.35)	6.25	4.35	(793.0)		1214
	529	SC110	砥石	凝灰岩	6.75	(5.05)	0.7	(35.0)		1216
	530	SC84	砥石	頁岩	(3.7)	4.15	5.5	(12.62)		1212
	531	SC34	基石	頁岩	2.2	2.1	0.4	2.79		1202
	532	SC34	火打ち石	石英	4.8	5.3	2.1	47.1		1201
	533	SC54	基石	頁岩	2.15	2.15	0.35	2.63		1205
	534	SC88	火打ち石	チャート	4.35	3.5	0.85	10.95		1213
	535	SC127	硯	堆積岩	(4.2)	(2.45)	0.8	(11.05)	高島石か	1218
	536	SC127	砥石	凝灰岩	6.1	(5.0)	1.6	(68.0)		1217
	537	SH1527	火打ち石	チャート	2.2	2.3	1.2	4.4		1236
	P75 第85図	538	SE6	硯	凝灰岩	(4.3)	5.45	2.1	(70.0)	天草石か
539		SE6	硯	堆積岩	(7.15)	6.9	1.85	(125.0)	高島石か	1187
540		SE6	硯	頁岩	14.0	(4.95)	1.25	(109.0)	葉状の線刻あり	1196~ 1198
541		SE6	硯	凝灰岩	(12.0)	7.2	2.1	(262.0)	天草石か	1107
542		SE6	砥石	堆積岩	11.05	6.7	3.1	301.0		1189
543		SE6	砥石	凝灰岩	(4.95)	5.1	1.45	(57.0)		1186
544		SE6	砥石	凝灰岩	(6.05)	5.3	5.4	(295.0)	天草石か	1188
545		SE6	砥石	凝灰岩	(9.35)	8.8	5.1	(439.0)	天草石か	1190
546		SE6	基石	頁岩	2.25	2.15	0.35	2.72		1185
547		SE6	基石	頁岩	2.0	1.7	0.3	1.79		1183
548	SE6	磨製石器?	頁岩	(5.4)	(4.15)	(0.3)	(8.0)		1194	

第15表:石製品計測分類表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	材質	法量cm ( ):復元・残存				備考	実測 番号
					長さ	幅	厚さ	重量		
P76 第86図	549	SE6	砥石	砂岩	25.25	12.75	8.35	5120.0		1192
	550	SE81	砥石	砂岩	(17.6)	9.2	7.4	(1253.0)		1182
P77 第87図	551	SH1282	硯	頁岩	(5.1)	(4.15)	1.7	(45.15)		1233
	552	SH1461	砥石	堆積岩	11.2	(10.1)	4.1	(477.0)		1235
	553	SH1074	基石	頁岩	2.1	1.95	0.75	4.67		1230
	554	SH1262	基石	頁岩	2.2	2.2	0.5	3.83		1232
	555	SH2072	基石	石英	1.7	1.5	0.9	3.24		1239
	556	SH969	不明石製品	軽石	3.15	2.7	1.0	1.72		1229
	557	SH1952	軽石製品	軽石	8.8	8.2	4.1	102.23		1238
	558	SH1094	宝篋印塔?	凝灰岩	(23.7)	(11.9)		3000	礎石として使用、相 輪か	1263
	559	SH2025	五輪塔	凝灰岩	(28.9)	(30.0)	13.1	8200	礎石として使用、火 輪	1265
	560	SH1703	石臼	砂岩	(径27.9)		12.4	7600	礎石として使用	1264
P97 第107図	692	SC80	石製品	軽石	6.4	5.2	1.9	15.23		1209
	693	SC82	砥石	頁岩	(3.25)	5.2	0.4	(13.98)		1211
P100 第110図	713	渋谷氏 埋立土	石製品	砂岩	2.7	2.2	1.0	7.29		1240
P126 第147図	870	SC48	石製品	軽石	8.2	7.3	3.5	66.0		1204
	871	SC67	砥石	凝灰岩	(8.05)	4.9	2.65	(167.0)	天草石か	1207
	872	SC160	基石	(頁岩)	2.0	2.1	0.5	2.85		1220
	873	SE5	砥石	堆積岩	11.2	(8.6)	5.0	(615.0)		1181
	874	SH252	基石	凝灰岩	2.55	2.05	0.5	4.44		1225
	875	SH256	基石	頁岩	2.2	1.9	0.6	4.19		1226
	876	SH865	基石	頁岩	2.3	2.3	0.5	3.72		1228
	877	SH147	砥石	砂岩	(8.8)	9.2	4.6	(491.0)		1224
P135 第155図	951	SE83	砥石	砂岩	(7.3)	4.6	2.3	141		1223
	952	SE83	砥石	堆積岩	(9.7)	12.3	2.4	391		1222
P136 第156図	972	表採	石鏝	頁岩	1.9	1	0.3	0.72	樋状剥離有	1242
	973	表採	剥片	砂岩	5.9	8.3	1.6	69.2		1241
P137 第157図	976	表採	硯	凝灰岩	(8.0)	6.7	2.5	(237.0)	天草石か	1243

第16表:木製品計測分類表①

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	材質	法量cm ( ):復元・残存			備考	実測 番号
					長さ	幅	厚さ		
P78 第88図	561	SF16	脚板	コウヤマキ	10.4	22.9	0.6		木53
	562	SF16	縦板	コウヤマキ	(49.4)	7.4	1.9	井戸枠部材	木82
	563	SF16	縦板	コウヤマキ	(53.4)	7.7	1.7	井戸枠部材	木83
	564	SF16	縦板	コウヤマキ	(67.2)	7.9	1.4	井戸枠部材	木84
	565	SF16	縦板	コウヤマキ	(70.5)	8.3	1.7	井戸枠部材	木85
	566	SF16	縦板	コウヤマキ	(74.1)	8.5	1.9	井戸枠部材	木86
	567	SF16	縦板	コウヤマキ	(73.8)	6.2	1.3	井戸枠部材	木87
P79 第89図	568	SF16	縦板	コウヤマキ	84.8	8.6	1.5	井戸枠部材	木88
	569	SF16	縦板	コウヤマキ	73.7	7.6	1.7	井戸枠部材	木89
	570	SF16	縦板	コウヤマキ	73.6	10.9	1.9	井戸枠部材	木90
	571	SF16	縦板	コウヤマキ	74.0	11.7	2.3	井戸枠部材	木91
	572	SF16	縦板	コウヤマキ	74.4	8.8	2.0	井戸枠部材	木92
	573	SF16	縦板	コウヤマキ	85.0	7.9	1.5	井戸枠部材	木110
P80 第90図	574	SF70	栓?	-	5.3	2.9	1.8		木1
	575	SF70	丸板	スギ	(37.5)	(17.3)	3.1	組み合わせ式、釘有	木55
	576	SF70	縦板	スギ	103.5	12.3	2.6	井戸枠部材	木60
P81 第91図	577	SF70	縦板	スギ	104.9	14.0	2.6	井戸枠部材	木61
	578	SF70	縦板	スギ	104.0	13.6	2.6	井戸枠部材	木64
	579	SF70	縦板	スギ	105.1	14.7	3.1	井戸枠部材	木79
	580	SF70	縦板	スギ	104.5	14.5	2.7	井戸枠部材	木93
P82 第92図	581	SF70	縦板	スギ	104.1	14.9	2.7	井戸枠部材	木94
	582	SF70	縦板	スギ	139.8	13.1	2.7	井戸枠部材	木98
	583	SF70	縦板	スギ	104.6	14.3	2.7	井戸枠部材	木99
	584	SF70	縦板	スギ	104.3	14.5	2.6	井戸枠部材	木100
P83 第93図	585	SF70	縦板	スギ	103.5	13.4	2.6	井戸枠部材	木102
	586	SF70	縦板	スギ	104.5	13.9	2.8	井戸枠部材	木103
	587	SF70	縦板	スギ	104.6	14.5	2.6	井戸枠部材	木104
	588	SF70	縦板	スギ	104.6	13.9	2.7	井戸枠部材	木105
P84 第94図	589	SF70	縦板	スギ	104.9	13.4	2.5	井戸枠部材	木106
	590	SF70	縦板	スギ	104.0	15.7	3.0	井戸枠部材	木107
	591	SF70	縦板	スギ	104.2	14.8	2.7	井戸枠部材	木108
	592	SF70	縦板	スギ	104.6	14.0	2.6	井戸枠部材	木109

第17表:木製品計測分類表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	材質	法量cm ( ):復元・残存			備考	実測 番号
					長さ	幅	厚さ		
P85 第95図	593	SF100	曲物	-	(4.2)	(11.2)	0.1		木42
	594	SF100	縦板	-	14.6	5.2	1.0		木117
	595	SF100	丸板	スギ	径20.8		1.2	組み合わせ式、桶底板	木97
	596	SF100	縦板	コウヤマキ	(30.4)	10.1	1.6	井戸杵部材	木78
	597	SF100	縦板	コウヤマキ	(30.3)	11.8	1.5	井戸杵部材	木95
	598	SF100	縦板	コウヤマキ	(51.1)	15.4	1.5	井戸杵部材	木75
	599	SF100	縦板	コウヤマキ	50.4	14.5	1.1	井戸杵部材	木74
P86 第96図	600	SF100	縦板	コウヤマキ	51.8	12.0	1.6	井戸杵部材	木71
	601	SF100	縦板	コウヤマキ	(52.0)	10.3	1.1	井戸杵部材	木73
	602	SF100	縦板	コウヤマキ	52.9	7.3	2	井戸杵部材	木76
	603	SF100	縦板	コウヤマキ	52.2	10.3	1.9	井戸杵部材	木77
	604	SF100	縦板	コウヤマキ	37.0	7.5	1.1	井戸杵部材	木72
	605	SF100	縦板	コウヤマキ	37.0	13.4	1.3	井戸杵部材、2枚接合状態、箍付着	木80
P87 第97図	606	SZ73	杭	-	95.0	7.4	7.5	転用品	木118
	607	SC84	丸板	スギ	径73.2		2.0	組み合わせ式、木釘で接合、桶底板	木111 ~114
	608	SC35	加工木材	-	13.6	3.2	0.8	穿孔有り	木16
	609	SC35	加工木材	-	11.6	3.5	0.9	漆塗りか	木19
	610	SC35	加工木材	-	22.5	(3.7)	(3.3)	穿孔有り	木25
	611	SC179	木札	モミ	(16.8)	(3.3)	0.5	墨書「渋谷宇衛門様」	木32
	612	SC179	木札	モミ	(8.2)	(5.7)	0.5	墨書「〇枝五郎衛門」	木33
P88 第98図	613	SC179	舟形木製品	スギ	(15.3)	(4.2)	2.9		木15
	614	SE6	花立	ツガ属	23.2	径14.6		空洞径4.2cm	木115
P98 第108図	615	SE6	板材	マツ属	60.0	18.4	2.7		木101
	694	SC80	箸?	スギ	22.8	径0.6			木11
	695	SC80	加工木材	-	9.3	2.8	2.5		木20
	696	SC80	丸板	-	径11.3		1.1		木2
	697	SC80	楔状木製品	-	11.6	3.0	1.8		木10
	698	SC80	加工木材	-	16.1	2.1	3.0		木38
	699	SC80	建築部材	スギ	15.1	15.3	16.6	柱の一部か	木59
P99 第109図	700	SC80	膳	スギ	(30.7)	(30.4)	0.9		木54
	701	SC80	杭	-	16.7	4.5	3.6		木14
	702	SC80	不明木製品	-	15.6	2.9	1.8	穿孔有り	木5
	703	SC82	下駄?	-	(13.2)	7.5	2.5		木8
P101 第111図	714	渋谷氏埋立土	鎌形木製品	刃部:ヒノキ、柄部:スギ	14.8	10.3	1.9	組み合わせ式	木26
	715	渋谷氏埋立土	引き出し	-	13.7	29.2	0.6	銅製取っ手付	木23
	716	渋谷氏埋立土	下駄	コウヤマキ	23.6	8.9	3.8	脚跡有り	木36
	717	渋谷氏埋立土	丸板	スギ	(径28.6)		1.7		木43
P102 第112図	718	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	49.5	8.1	1.3	桶取っ手部分	木48
	719	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	28.9	7.9	1.2	桶部材	木44
	720	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	27.2	6.9	1.0	桶部材	木51
	721	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	28.2	9.0	1.1	桶部材、2枚接合状態	木49
	722	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	25.1	5.0	1.0	桶部材	木52
	723	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	28.2	4.0	1.1	桶部材	木50
	724	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	27.5	5.0	1.1	桶部材	木45
	725	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	28.1	5.7	1.1	桶部材	木47
P104 第117図	726	渋谷氏埋立土	縦板	コウヤマキ	(13.9)	3.7	1.1	桶部材	木46
	735	SC177	木札	ヒノキ	14	8	0.4	墨書表「〇本〇衛門様 渋谷宇衛門様 五月十五日 (印鑑)」裏魚有り	木37
	736	SC184	木札	ヒノキ	(7.1)	6.5	0.3	墨書「新納八郎 渋谷直」	木30
P105 第118図	737	SC184	木札	ヒノキ	(9.7)	(3.0)	0.1	墨書表「拾壹文」裏「〇文」	木34
	738	SC184	下駄	スギ	(27.5)	8.4	4.5		木29
	739	SC184	下駄	スギ	21.4	(7.3)	3.0	鼻緒付き	木22
	740	SC184	曲物板	スギ	(23.9)	(3.7)	(0.6)	漆塗りか	木39
	741	SC184	丸板	-	(径22.5)		1.0	穿孔有り	木24
	742	SC184	丸板	コウヤマキ	(径15.2)		0.9	漆塗りか	木35
P106 第119図	743	SC184	加工木材	-	(15.2)	9.8	0.7		木40
	744	SC184	加工木材	-	30.3	11.2	7.2		木28
P127 第148図	745	SC184	箸	-	37.0	22.0	-	紐付き	木31
	878	SF51	縦板	コウヤマキ	49.7	10.0	1.6	井戸杵部材	木67
	879	SF51	縦板	コウヤマキ	(47.6)	9.8	(0.9)	井戸杵部材	木70
	880	SF51	縦板	コウヤマキ	47.8	9.2	1.6	井戸杵部材	木69
	881	SF51	縦板	コウヤマキ	(46.6)	10.0	1.6	井戸杵部材	木68
	882	SF51	縦板	コウヤマキ	49.8	8.8	1.6	井戸杵部材	木65
	883	SF51	縦板	コウヤマキ	49.3	5.4	1.5	井戸杵部材	木66
884	SF51	縦板	コウヤマキ	(47.4)	8.4	(1.1)	井戸杵部材	木81	

第18表:木製品計測分類表③

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	材質	法量cm ( ):復元・残存			備考	実測 番号
					長さ	幅	厚さ		
P127 第148図	885	SF51	縦板	コウヤマキ	49.1	8	1.6	井戸杵部材	木63
	886	SF51	縦板	コウヤマキ	49	7.6	1.7	井戸杵部材	木62
	887	SC31	丸板	スギ	(径16.0)		1.4	漆塗りか	木17
P128 第149図	888	SC67	へら	ツガ属	23.9	2.7	1.0		木4
	889	SC67	小刀形製品	マツ属	11.1	2.0	0.6		木3
	890	SC67	椀	-	-	-	-	漆碗	木116
	891	SC67	加工木材	-	(14.6)	8.7	1.7	こげ有り	木9
	892	SC67	櫛	イスノキ	(4.3)	12.2	0.9		木6
	893	SC67	丸板	ヒノキ	(径21.4)		0.9	漆塗り、お盆か	木41
P129 第150図	894	SC67	柱?	-	(57.9)	7.4	6.5		木58
	895	SC67	膳	-	(40.0)	(21.2)	2.8	こげ有り	木57
P135 第155図	953	SE83	加工木材	-	10.2	2.4	1.2	組み合わせ式	木12
	954	SE83	加工木材	加工部位:コウヤマキ、棒部:スギ	9.9	(11.5)	1.1	組み合わせ式	木13
	955	SE83	加工木材	-	10.5	6.7	1.3	組み合わせ式	木7
	956	SE83	棒状加工品	-	15.5	1.9	1.5		木21
	957	SE83	杭	-	29.6	7.7	6.9	切断痕あり	木56
	958	SE83	加工木材	-	(53.0)	1.9	(0.7)		木27
P137 第157図	959	SE83	人形	モミ属	26.7	1.8	1.4		木18
	977	表採?	加工木材	-	(径8.7)		1.0	墨書で模様、独楽か	木96

第19表:金属製品計測分類表①

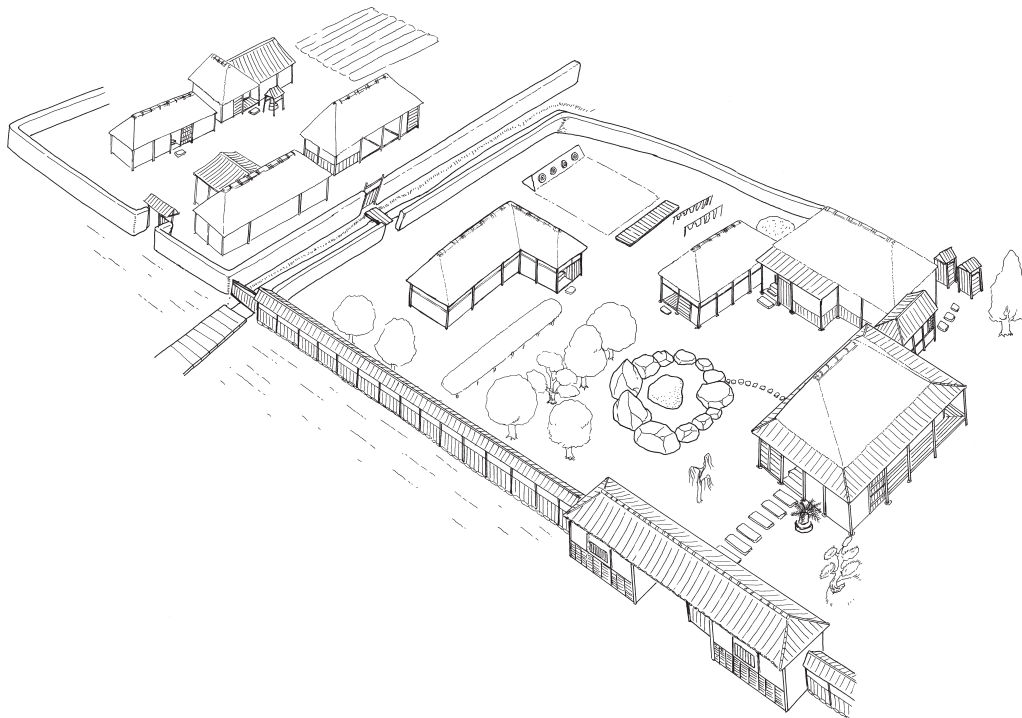
掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	材質	法量 ( ):復元・残存				備考	実測 番号
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
P89 第99図	616	SF70	釘	鉄	(7.6)	(2.2)	0.5	(10.68)		鉄18
	617	SF100	洪武通宝	銅	2.3	0.6	0.15	1.8	加治木銭	銅10
	618	SF100	洪武通宝	銅	-	-	0.12	(0.67)	加治木銭	銅12
	619	SZ73	環状銅製品	銅	2.0	1.9	0.15	1.17		銅20
	620	SC110	飾り金具	銅	12.0	2.4	0.05	10.69		銅24
	621	SC110	簪	銅	(7.2)	0.54	0.13	(2.75)		銅25
	622	SC85	釘	鉄	(5.2)	(3.3)	0.6	(6.18)		鉄3
	623	SC54	灯明具	鉄	11.00	9.7	1.8	52.69		鉄7
	624	SC54	釘	鉄	(6.5)	(0.4)	0.4	(2.74)		鉄19
	625	SC86	釘	鉄	(5.8)	(1.0)	0.4	(6.58)		鉄8
	626	SC92	釘	鉄	(5.0)	(0.6)	0.68	(4.99)		鉄17
	627	SC127	刃物	鉄	(7.5)	(2.8)	1.1	(19.63)		鉄21
	628	SC144	釘	鉄	(5.7)	(1.1)	0.71	(6.19)		鉄13
	629	SC146	不明鉄製品	鉄	(8.15)	(2.4)	(1.5)	(17.54)		鉄31
	630	SC161	釘	鉄	(11.3)	(0.9)	0.5	(10.33)		鉄30
	631	SE6	釘	鉄	(8.0)	0.95	0.8	(9.17)		鉄16
	632	SE6	釘	鉄	6.9	1.05	0.63	4.67		鉄20
	633	SE6	釘	鉄	(6.5)	1.5	1.4	(10.79)		鉄14
	634	SE6	釘	鉄	(6.7)	(1.8)	0.3	(3.08)		鉄9
	635	SE6	蝶番	鉄	5.3	10.4	(2.1)	(86.84)	板状鉄製品	鉄25
	636	SE6	キセル	銅	4.4	高1.65	火皿径1.2	5.02	煙管雁首	銅14
	637	SE6	キセル	銅	4.8	高2.1	火皿径1.25	8.16	煙管雁首	銅15
	638	SE6	キセル	銅	6.2	径1		5.04	煙管吸口	銅17
	639	SE6	キセル	銅	6.87	径1.15		5.74	煙管吸口	銅16
	640	SE6	吊金具	銅	7.3	(8.3)	0.4	(12.47)		銅27
	641	SE6	留金具	銅	3.5	1.8	0.95	(2.99)		銅22
642	SH1149	鎌	鉄	(8.9)	2.75	0.7	(16.23)		鉄28	
643	SH1806	鋸	鉄	(1.3)	(7.55)	0.4	(11.51)		鉄11	
644	SH1853	釘	鉄	(5.2)	(0.87)	0.8	(4.17)		鉄15	
645	SH1230	弾	鉛	1.9	1.8	1.8	27.35		1245	
646	SH1389	不明鉛製品	鉛	1.5	1.5	0.3	4.75		1246	
P99 第109図	704	SC82	簪	銅	15.9	0.8	2.0	4.86		銅26
P102 第112図	727	渋谷氏埋立土	飾り金具	銅	2.6	2.5	1.7	4.25		銅23
P106 第119図	746	SC184	水滴	銅	径3.6		1.3	12.13		銅19
P130 第151図	896	SC2	上手?	銅	5.55	14.65	0.15	4.86		銅28
	897	SC48	釘	鉄	(8.65)	3.2	1.3	(21.85)		鉄4
	898	SC48	釘	鉄	(7.2)	(2.5)	1.4	(14.68)		鉄12
	899	SC12	刃物	鉄	(7.6)	(2.5)	0.5	(13.78)		鉄24
	900	SC18	合釘	鉄	(6.6)	0.7	0.47	(4.14)		鉄23

第20表: 金属製品計測分類表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	材質	法量 ( ):復元				備考	実測 番号
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		
P130 第151図	901	SC33	板状鉄製品	鉄	(11.1)	3.65	24	(47.23)	銚か	鉄2
	902	SC56	釘	鉄	(8.05)	(0.5)	5.5	(4.55)		鉄29
	903	SC59	釘	鉄	(6.9)	(2.8)	5	(14.78)		鉄10
	904	SC59	火箸	鉄	①(21.7)	1.8	6	(27.20)		鉄22
					②(21.5)	2.6	7.5	(31.82)		
	905	SC67	刃物	鉄	12.8	4.4	3.5	24.52		鉄5
	906	SC67	蓋のつまみ	銅	3.1	径3.2		16.55		鉄21
	907	SC110	吊金具	銅	7.5	3.1	2.4	(4.61)		銅29
	908	SH770	鉛製品	鉛	2.0	2.1	4.9	12.71		1227
	909	SC23	寛永通宝	銅	2.5	0.5	1.3	2.94		銅11
	910	SC67	永楽通宝	銅	2.4	0.5	0.8	2.39		銅1
	911	SC67	寛永通宝	銅	2.4	0.5	1.2	3.36		銅7
	912	SC67	寛永通宝	銅	2.5	0.6	1.3	3.17		銅5
	913	SC67	寛永通宝	銅	2.2	0.7	1.0	1.73		銅2
	914	SC67	寛永通宝	銅	2.4	0.5	1.1	2.99		銅3
915	SC67	寛永通宝	銅	2.4	0.5	0.9	3.66		銅4	
916	SC67	寛永通宝	銅	2.3	0.6	1.3	3.13		銅6	
917	SH584	洪武通宝	銅	2.1	0.4	1.3	2.16		銅13	
P135 第155図	960	SE83	鉄鎌	鉄	(12.4)	(4.2)	4.5	(21.1)		鉄1
	961	SE83	洪武通宝	銅	2.2	2.2	1.0	2.01		銅8

第21表: ガラス製品計測分類表

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別	法量cm ( ):復元				備考	実測 番号
				長さ	幅	厚さ	重量		
P90 第100図	647	SF70	かんざし	(7.6)	0.7	0.6	(7.87)		1253
	648	SC110	かんざし	(2.4)	0.6	0.3	(1.18)		1258
	649	SC54	かんざし	(4.7)	0.3	0.3	(0.88)		1250
	650	SC116	かんざし	(3.1)	0.4	0.4	(0.9)		1260
	651	SC116	かんざし?	(3.7)	0.6	0.5	(2.73)		1259
	652	SE6	かんざし	(3.1)	0.6	0.5	(2.27)		1248
P99 第109図	705	SC80	かんざし	(7.2)	0.9	0.8	(8.71)		1254
	706	SC80	かんざし	(3.5)	0.7	0.7	(4.74)		1255
	707	SC82	かんざし	(3.3)	0.9	0.7	(3.45)		1256
	708	SC82	不明	(1.4)	(1.0)	0.4	(0.38)		1257
P130 第151図	918	SC48	かんざし	(2.2)	0.4	0.4	(0.5)		1249
	919	SC56	かんざし	(4.5)	(2.1)	0.3	(1.83)		1251
	920	SC60	かんざし	(3.4)	0.8	0.8	(2.25)		1252
	921	SC160	かんざし	(3.3)	0.5	0.4	(1.9)		1261
	922	SE5	かんざし	(3.4)	0.5	0.2	(1.24)		1247



第158図 渋谷氏・郡司氏屋敷復元想像図 (金丸武司 画)

## 第V章 佐土原城跡第6次発掘調査における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

### I. 自然科学分析の概要

佐土原城跡第6次発掘調査では、トイレ遺構（厠）の可能性が考えられる遺構が検出された。ここでは、遺構の性格（トイレ遺構の確認）、当時の植生と環境、および植物利用に関する情報を得る目的で、トイレ遺構分析（寄生虫卵分析、花粉分析、種実同定）を行った。

試料は、SC84（埋土3層、埋土4層、埋土下層）、SC85（埋土1層、埋土2層）、SC115（埋土最下層）から採取された計6点である。試料の詳細を分析結果図に示す。なお、SC84の埋土下層については種実同定のみの分析である。

### II. トイレ遺構分析

#### 1. はじめに

糞便の堆積物は、寄生虫卵組成や密度、花粉群集組成、種実群集組成において特異性を示し、その特徴からトイレ遺構を識別することができる。また、その遺体群集や食物残渣から食物を直接的に探ることも可能である。

#### 2. 寄生虫卵分析

##### (1) 原理

人や動物などに寄生する寄生虫の卵殻は、花粉と同様の条件下で堆積物中に残存しており、人の居住域では寄生虫卵による汚染度が高くなる。寄生虫卵分析を用いて、トイレ遺構の確認や人糞施肥の有無の確認が可能であり、寄生虫卵の種類から、摂取された食物の種類や、そこに生息していた動物種を推定することも可能である。

##### (2) 方法

寄生虫卵の分離抽出は、微化石分析法を基本にして、以下の手順で行った。

- 1) サンプルを採量
- 2) 脱イオン水を加えて攪拌
- 3) 篩別および沈澱法により大きな砂粒や木片等を除去
- 4) 25%フッ化水素酸を加えて30分静置（2～3度混和）
- 5) 遠心分離（1500rpm、2分間）による水洗の後にサンプルを2分割
- 6) 片方にアセトリシス処理を施す
- 7) 両方のサンプルを染色後、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

##### (3) 結果

検出された寄生虫卵は、回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫類卵、不明虫卵の5分類群である。分析結果を表1に示し、1cm<sup>3</sup>中の寄生虫卵数を図1に示す。また、検出された分類群について



て顕微鏡写真を示す。以下に出現した寄生虫卵の特徴を示す。

#### 1) 回虫 *Ascaris lumbricoides*

回虫はヒト特有の寄生虫であり、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられる。卵の大きさはおよそ  $80 \times 60 \mu\text{m}$  と比較的大きな虫卵で、楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。卵には受精卵と不受精卵があり、遺跡の堆積物の分析では堆積年数や薬品処理のため、受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。

#### 2) 鞭虫 *Trichuris trichiura*

鞭虫はヒト特有の寄生虫であり、世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。卵の大きさは  $50 \times 30 \mu\text{m}$  で、レモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、3～6週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。

#### 3) 肝吸虫 *Clonorchis sinensis*

肝吸虫はアジア地域に広く分布し、とくに中国、日本、ベトナム、韓国に多い。日本では岡山県南部、琵琶湖沿岸、八郎潟、利根川流域などが流行地として知られている。卵の大きさはおよそ  $30 \times 16 \mu\text{m}$  で、なすび型で一端に陣笠状の小蓋を有する。卵殻の表面には亀甲状の模様が認められる。糞便とともに外界に出た虫卵は、水中で第1中間宿主のマメタニシに食べられ、セルカリアになり水中に遊出し、第2中間宿主のモツゴ、モロコ、コイ、フナ、タナゴに侵入してメタセルカリアとなり、魚肉とともにヒトや他の哺乳類に摂取され感染する。

#### 4) 異形吸虫類 *Metagonimus - Heterophyes*

異形吸虫類（横川吸虫を含む）は日本各地でみられ、横川吸虫はとくにアユの豊富な河川や湖の周辺に濃厚である。国外では、台湾をはじめ中国、朝鮮半島、東南アジアなどに分布する。有害異形吸虫は瀬戸内海沿岸をはじめ海に近い地域にかなり広く見られる。卵の大きさはおよそ  $27 \times 17 \mu\text{m}$  で、短楕円形または卵形、一端に小蓋を有するが、卵殻との境がほとんど突出せずスムーズである。卵殻表面は平滑で紋理はみられない。横川吸虫ではアユ、有害異形吸虫ではボラなどの魚肉とともにヒトや他の哺乳類に摂取され感染する。遺跡においては、小蓋がとれたり堆積環境や薬品処理などにより横川吸虫卵と有害異形吸虫卵の区別がつきにくいいため、異形吸虫類とする。

#### 5) 不明虫卵 *Unknown eggs*

卵の大きさは鞭虫卵大で淡黄色、卵殻は薄く一端に小蓋がある。

### (4) 寄生虫卵群集の特徴 (図1)

#### 1) SC84

埋土4層（最下層）では、回虫卵が  $1\text{cm}^3$  あたり 6,500個と高密度で検出され、鞭虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫類卵、不明卵も認められた。寄生虫卵の密度は  $6,600\text{個}/\text{cm}^3$  とかなり高い値である。ここで検出された回虫卵は保存状態が極めて良好で、卵表面のタンパク膜の観察も容易であり、その厚さや規則性で受精卵と不受精卵の鑑別ができる個体もある。また、均一無構造の胆汁色素に染まった糞便成分や海藻とみられる消化残渣が認められた。

埋土3層では、回虫卵が  $600\text{個}/\text{cm}^3$  と比較的低い密度で量出され、鞭虫卵、異形吸虫類卵

も認められた。寄生虫卵の密度は 640 個/cm<sup>3</sup> と比較的低い値である。ここで検出された回虫卵は、タンパク膜が比較的薄いものが多く、受精卵とみなすよりも表面が分解されたと考えられるものが多い。

#### 2) SC85

埋土 2 層（最下層）および埋土 1 層では、回虫卵が 100 個/cm<sup>3</sup> 前後と低い密度で検出された。なお、明らかな消化残渣は認められなかった。

#### 3) SC115

埋土最下層では、寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。

### 3. 花粉分析

#### (1) 原理

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの有機質遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

#### (2) 方法

寄生虫卵分析でアセトリシス処理を施した沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラートを作成した。検鏡は、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

#### (3) 結果

##### 1) 分類群

検出された分類群は、樹木花粉 24、樹木花粉と草本花粉を含むもの 3、草本花粉 25、シダ植物孢子 2 形態の計 54 である。分析結果を表 2 に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した（図 2）。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記載する。

##### 〔樹木花粉〕

マキ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属-マテバシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、アカメガシワ、サンショウ属、ブドウ属、ノブドウ、ツバキ属、ハイノキ属、エゴノキ属、モクセイ科

##### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科

##### 〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ユリ科、ネギ属、タデ属サナエタデ節、

ソバ属、アカザ科ーヒユ科、スベリヒユ属、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ノアズキ属、アリノトウグサ属ーフサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、ナス科、ゴマ、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

## 2) 花粉群集の特徴 (図 2)

### ① SC84

埋土 3 層と埋土 4 層 (最下層) では、おおむね同様の結果であり、草本花粉の占める割合が樹木花粉よりも高い。草本花粉では、イネ科 (イネ属型を含む) が優勢で、次いでアカザ科ーヒユ科、アブラナ科が多く、ヨモギ属、セリ亜科、ソバ属、ゴマなどが伴われる。樹木花粉では、マツ属複維管束亜属が優勢で、次いでコナラ属アカガシ亜属、シイ属ーマテバシイ属が多く、スギ、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。

### ② SC85

埋土 1 層と埋土 2 層 (最下層) では、おおむね同様の結果であり、SC84 の結果とも類似している。草本花粉では、イネ科 (イネ属型を含む) が優勢で、次いでアカザ科ーヒユ科、アブラナ科が多く、ヨモギ属、セリ亜科、ソバ属などが伴われる。樹木花粉では、マツ属複維管束亜属が優勢で、次いでコナラ属アカガシ亜属、シイ属ーマテバシイ属が多く、スギ、コナラ属コナラ亜属、クリなどが伴われる。

### ③ SC115

埋土最下層では、マツ属複維管束亜属、クリ、イネ科などが検出されたが、いずれも少量である。

## 4. 種実同定

### (1) 原理

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内などに残存している場合がある。堆積物や遺構埋土などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や植物利用の実態を明らかにすることができる。

### (2) 方法

以下の手順で、種実の抽出と同定を行った。

- 1) 試料 50cm<sup>3</sup> に水を加えて泥化
- 2) 攪拌した後、0.25 mm の篩で水洗選別
- 3) 双眼実体顕微鏡下で検鏡・計数

同定は種実の形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

### (3) 結果

#### 1) 分類群

分析の結果、樹木種実 3、草本種実 5 の計 8 分類群が検出された。分析結果を表 2 に示し、50cm<sup>3</sup> 中の種実数をダイアグラムに示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し、主要な

分類群について写真を示す。

[樹木]

ウメ *Prunus mume* S. et Z. 核(破片)バラ科

茶褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が走る。表面には小孔が散在する。

ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. 種子 ツバキ科 長さ×幅:1.32×1.60 mm

種子は心臓形を呈する。背面は長楕円状・狭3角形状など種々な形がある。どの形もへその方に薄い。へそを中心に楕円形や円形凹点による網目模様が指紋状に広がる。

チシャノキ *Ehretia ovalifolia* Hassk. 核 ムラサキ科 長さ×幅:3.01×2.89 mm

黄褐色で半球形を呈す。表面を1本の溝がめぐり、腹面の下端にへそがあり、背面の表面にはしわが網目状にある。

[草本]

ホタルイ属 *Scirpus* 果実 カヤツリグサ科 長さ×幅:2.17×1.63 mm

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起があり、基部に4~8本の針状の付属物を持つ。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科 長さ×幅:1.16×1.12 mm

黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

ナス *Solanum melongera* L. 種子(完形・破片)ナス科 長さ×幅:3.58×3.79 mm

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだへそがある。表面には網目模様がある。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科 長さ×幅:15.31×3.88 mm

淡褐色~黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。藤下によると小粒種子(雑草メロン型)、中粒種子(マクワウリ・シロウリ型)、大粒種子(モモルディカ型)がある。

カボチャ属 *Cucurbita* 種子(完形・破片) 長さ×幅:12.50×6.82 mm

茶褐色で扁平楕円形を呈し、周縁部はやや肥厚する。肥厚した表面は繊維状である。これらの特徴とやや小型で長いことから、16世紀に伝わったとされるニホンカボチャ *Cucurbita moschata* に類似する。カボチャ属の検出は極めて珍しい。

## 2) 種実群集の特徴(図3)

### ① SC84

埋土3層では、樹木種実のヒサカキが検出された。埋土4層(最下層)では、草本種実のウリ類5、ナス3、アカザ属2、カボチャ属1が検出された。

### ② SC85

埋土1層では、樹木種実のチシャノキ3、草本種実のホタルイ属1が検出された。埋土2層(最下層)では、樹木種実のウメが検出された。

### ③ SC115

埋土最下層では、種実類は検出されなかった。

## 5. 考察

### (1) トイレ遺構の可能性について

#### 1) SC84

糞便の堆積物には、一般的に試料1 cm<sup>3</sup>あたり1,000個以上の寄生虫卵が含まれている(金原ほか, 1992, 金原, 1999)。埋土4層(最下層)では、ヒト特有の回虫卵が6,500個/cm<sup>3</sup>

と高密度で検出され、鞭虫卵、肝吸虫卵、異形吸虫類卵が伴われ、消化残渣も認められた。寄生虫卵の密度は6,600個/cm<sup>3</sup>とかなり高い値である。埋土3層では、寄生虫卵の密度は640個/cm<sup>3</sup>と比較的低く、タンパク膜が薄いものが多いことから、分解を受けたとみなされ、下層または周囲からの汚染の可能性も考えられる。

花粉分析では、栽培植物を含むイネ属型、アブラナ科、ソバ属、ゴマ、および薬用になりトイレ遺構からの検出例が多いアカザ科－ヒユ科が認められ、食生活に由来する花粉が含まれていると考えられる。また、種実同定では埋土4層（最下層）で栽培植物のウリ類、ナス、カボチャ属、および薬用になるアカザ属が検出された。

以上の結果から、埋土4層（最下層）には糞便の堆積物が含まれていると考えられ、SC84はトイレ遺構（便槽）の可能性が高いと判断される。

## 2) SC85

埋土2層（最下層）と埋土1層では、ヒト特有の回虫卵が検出されたが、密度は100個/cm<sup>3</sup>前後と低い値である。寄生虫卵と同様の残存状況を示す花粉は比較的良好に保存されていることから、寄生虫卵のみが分解・消失したことは考えにくい。また、明らかな消化残渣も認められないことから、ここで検出された寄生虫卵については、糞便の堆積物ではなく集落周辺などの人為環境における生活汚染に由来する可能性が考えられる。

花粉分析では、SC84と同様に栽培植物を含むイネ属型、アブラナ科、ソバ属、および薬用になるアカザ科－ヒユ科が認められた。種実類は少なく、栽培植物では埋土2層（最下層）からウメが検出された。

以上の結果から、同遺構の埋土には糞便の堆積物は含まれていなかったと考えられる。SC84とSC85は隣接する遺構であることから、SC84は大使用、SC85は小使用として使い分けられていた可能性も想定される。

## 3) SC115

埋土最下層では、寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。また、花粉はほとんど検出されず、種実類は認められなかった。以上の結果から、同遺構の埋土には糞便の堆積物は含まれていなかったと考えられる。

## (2) 食生活の推定

SC84の埋土4層には、糞便の堆積物が含まれていると考えられることから、同試料の分析結果から当時の食生活の一旦が推定される。寄生虫卵が高密度で検出された回虫および少量が検出された鞭虫は、どちらも中間宿主を必要とせず、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。肝吸虫はコイ科を主に淡水魚を中間宿主として感染し、異形吸虫類（横川吸虫を含む）もコイ科の魚などを補食することによって感染するが、いずれも少量であることから、当時は淡水魚よりも寄生虫に感染しにくい海水魚をより多く食していた可能性が示唆される。

食生活に関係する花粉としては、イネ属型（米）、アブラナ科、ソバ属、ゴマがあり、種実類ではウリ類、ナス、カボチャ属がある。また、花序ないし果実序が薬用になるアカザ属も認められた。アブラナ科は、虫媒花としては不自然に高い出現率であることから、菜の花などの花や花芽の付いた植物体の摂食が示唆される。カボチャ属は、16世紀に伝わったニホンカボチャに類似しており、極めて珍しい出土例である。

### (3) 周囲の植生と環境

当時の調査区周辺は、イネ科植物などの草本類が生育する日当たりの良い環境であったと考えられ、周辺地域には二次林とみられるマツ類（マツ属複維管束亜属：クロマツ・アカマツ）をはじめ、シイ類（シイ属ーマテバシイ属）、カシ類（コナラ属アカガシ亜属）、ナラ類（コナラ属コナラ亜属）、クリ、スギなどが多様に分布していたと推定される。

## Ⅲ. 種実同定

### 1. 試料

試料は、SC84 の埋土下部から採取された1点である。

### 2. 結果

#### (1) 分類群

分析の結果、樹木5、草本9の計14分類群が検出された。分析結果を表3に示し、200cm<sup>3</sup>中の種実数をダイアグラムに示す（図4）。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し、主要な分類群について写真を示す。

#### [樹木]

ヤマモモ *Myrica rubra* S. et Z. 核 ヤマモモ科 長さ×幅：7.60 × 6.77 mm

茶褐色で楕円形を呈し、両端がややとがる。一端にへそがあり、表面は粗い。断面は扁平である。

ヤマグワ *Morus australis* Poir. 種子 クワ科 長さ×幅：1.59 × 1.43 mm

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。

ウメ *Prunus mume* S. et Z. 核（完形・破片）バラ科 長さ×幅：18.91 × 14.34 mm、18.86 × 15.16 mm

茶褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が走る。表面には小孔が散在する。

キイチゴ属 *Rubus* 核 バラ科 長さ×幅：2.06 × 1.10 mm、2.21 × 1.30 mm

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。

ブドウ属 *Vitis* 種子 ブドウ科 長さ×幅：3.75 × 3.45 mm

茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

#### [草本]

ヒエ属 *Echinochloa* 穎 イネ科 長さ×幅：3.06 × 2.27 mm

茶褐色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様がある。

ホタルイ属 *Scirpus* 果実 カヤツリグサ科 長さ×幅：2.04 × 1.59 mm

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起があり、基部に4～8本の針状の付属物を持つ。

カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 果実

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

タデ属 *Polygonum* 果実（破片）タデ科

黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科 長さ×幅：1.12 × 1.21 mm

黒色で光沢があり円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

イヌホウズキ *Solanum nigrum* L. 種子 ナス科

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだヘソがある。表面には網目模様がある。

ナス *Solanum melongera* L. 種子(完形・破片) ナス科 長さ×幅：3.55 × 3.97 mm、3.11 × 3.45 mm

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだヘソがある。表面には網目模様がある。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子(完形・破片) ウリ科 長さ×幅：7.81 × 3.72 mm、8.53 × 3.66 mm

淡褐色～黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。

カボチャ属 *Cucurbita* 種子(完形・破片) 長さ×幅：5.93 × 3.91 mm、6.10 × 3.97 mm

茶褐色で扁平楕円形を呈し、周縁部はやや肥厚する。肥厚した表面は繊維状である。これらの特徴とやや小型で長いことから、16世紀に伝わったとされるニホンカボチャ *Cucurbita moschata* に類似する。カボチャ属の検出は極めて珍しい。

## (2) 種実群集の特徴

分析の結果、樹木種実ではウメ70、キイチゴ属24、ヤマモモ2、ヤマグワ1、ブドウ属1、草本種実ではウリ類118、カボチャ属47、アカザ属24、ナス8、ホタルイ属4、カヤツリグサ科2、ヒエ属1、タデ属1、イヌホウズキ1が検出された。また、魚骨片、昆虫片、蛹片も観察された。

## 3. 考察

検出された種実類の中で、明らかな栽培植物は畑作物のカボチャ属、ウリ類、ナス、および樹木種実のウメである。また、キイチゴ属、ヤマモモ、ヤマグワ、ブドウ属は食用となる樹木種実であり、アカザ属、イヌホウズキは薬用になる有用植物である。

SC84はトイレ遺構と判断されることから(第I章)、これらの種実類の多くは摂食されたものに由来すると考えられる。なお、ウメ、ヤマモモ、カボチャ属は比較的大型であることから、何らかの形で遺構内に投棄された可能性も考えられる。タデ属、ホタルイ属、カヤツリグサ科は雑草であり、周囲に分布していたものが反映されたとみなされる。

## IV. 自然科学分析のまとめ

佐土原城跡第6次発掘調査において、トイレ遺構分析(寄生虫卵分析、花粉分析、種実同定)を行った。その結果、SC84ではヒト特有の寄生虫卵(回虫卵など)が高密度で検出され、消化残渣も認められた。また、食生活に関係する花粉としてはイネ属型(イネ)、ソバ属(ソバ)、ゴマ、アブラナ科があり、種実類ではウリ類、ナス、カボチャ属、キイチゴ属、ヤマモモ、ヤマグワ、ブドウ属がある。さらに、薬用になるアカザ属、イヌホウズキも認められた。

これらの結果から、SC84には糞便の堆積物が含まれていたと考えられ、トイレ遺構(厠)の可能性が高いと判断される。なお、隣接するSC85については、寄生虫卵の密度が低く、糞便の堆積物は含まれていなかったと考えられることから、SC84は大使用、SC85は小使用として使い分けられていた可能性も想定される。

当時の調査区周辺は、イネ科植物などの草本類が生育する日当たりの良い環境であったと考えられ、周辺地域には二次林とみられるマツ類（クロマツ・アカマツ）をはじめ、シイ類、カシ類、ナラ類、クリ、スギなどが多様に分布していたと推定される。

#### 文献

- Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*, 19, p. 231-245.
- 金子清俊・谷口博一 (1987) 線形動物・扁形動物. 医動物学, 新版臨床検査講座, 8, 医歯薬出版, p. 9-55.
- 金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫. 藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊—, 奈良国立文化財研究所, p. 14-15.
- 金原正明 (1999) 寄生虫. 考古学と動物学, 考古学と自然科学, 2, 同成社, p. 151-158.
- 金原正明・金原正子 (1998) 土壌分析とトイレ遺構. トイレ遺構の総合的研究—発掘された古代・中世トイレ遺構の検討—, 平成7～9年度科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告, 奈良国立文化財研究所, p. 294-316.
- 中村純 (1967) 花粉分析. 古今書院, p. 82-102.
- 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 中村純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p. 187-193.
- 中村純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p. 21-30.
- 笠原安夫 (1985) 日本雑草図説, 養賢堂, 494p.
- 笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類. 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p. 131-139.
- 南木睦彦 (1991) 栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通I, 雄山閣出版株式会社, p. 165-174.
- 藤下典之 (1992) 出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について. 考古学ジャーナルNo. 354, ニュー・サイエンス社, p. 7-13.



表1 佐土原城跡第6次発掘調査における寄生虫卵分析・花粉分析結果

分類群	学名	和名	SC84		SC85		SC115
			埋土3層	埋土4層	埋土1層	埋土2層	埋土最下層
Helminth eggs		寄生虫卵					
	Ascaris(lumbricoides)	回虫卵	102	807	8	21	
	Trichuris(trichiura)	鞭虫卵	2	14			
	Clonorchis sinensis	肝吸虫卵		1			
	Metagonimus-Heterophyes	異形吸虫類卵	2	8			
	Unknown eggs	不明虫卵		1			
	Total	計	106	831	8	21	0
Helminth eggs frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料1cm <sup>3</sup> 中の寄生虫卵密度	6.4 ×10 <sup>2</sup>	6.6 ×10 <sup>3</sup>	5.6 ×10	1.3 ×10 <sup>2</sup>	0
Stone cell		石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)
Arboreal pollen		樹木花粉					
	Podocarpus	マキ属	6	1	2	4	
	Tsuga	ツガ属	2	1	2	1	
	Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複雑管束亜属	78	48	101	88	17
	Cryptomeria japonica	スギ	15	8	13	11	2
	Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科					1
	Juglans	クルミ属					1
	Alnus	ハンノキ属			1		1
	Betula	カバノキ属	1	1	1		
	Corylus	ハシバミ属	4	3	3	1	
	Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	3		3	2	1
	Castanea crenata	クリ	7	3	11	9	3
	Castanopsis-Pasania	シイ属-マテバシイ属	22	40	38	20	
	Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	6	7	10	7	1
	Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	38	31	41	33	
	Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	2	1			
	Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	2	1	2	3	
	Mallotus japonicus	アカメガシワ		1			
	Zanthoxylum	サンショウ属			1	1	
	Vitis	ブドウ属		2	2	3	
	Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ		2			
	Camellia	ツバキ属	2			3	
	Symplocos	ハイノキ属	1				
	Styrax	エゴノキ属	1				
	Oleaceae	モクセイ科	1				
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉					
	Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	7	7	8	9	1
	Leguminosae	マメ科	4	2	1	3	
	Araliaceae	ウコギ科	1				
Nonarboreal pollen		草本花粉					
	Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属			1		
	Gramineae	イネ科	144	143	120	117	7
	Oryza type	イネ属型	34	45	29	44	1
	Cyperaceae	カヤツリグサ科	5	4	12	4	1
	Liliaceae	ユリ科	1				
	Allium	ネギ属					1
	Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節		1	1	1	
	Fagopyrum	ソバ属	1	2		1	
	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	28	56	16	20	1
	Portulaca oleracea	スベリヒユ属	1				
	Caryophyllaceae	ナデシコ科	2			1	
	Ranunculus	キンボウグ属	1	2		1	
	Cruciferae	アブラナ科	20	38	24	42	1
	Dunbaria	ノアズキ属				1	
	Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属-フサモ属	1				
	Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科		1	2	1	
	Apiioideae	セリ亜科	10	3	5	1	
	Labiatae	シソ科	1				
	Solanaceae	ナス科	1		1		
	Sesamum indicum	ゴマ	1				
	Valerianaceae	オミナエシ科	1				
	Lactuoidaeae	タンポポ亜科	3	4	3	2	1
	Asteroidaeae	キク亜科	2	4	3	7	
	Xanthium	オナモミ属				1	
	Artemisia	ヨモギ属	11	9	3	12	1
Fern spore		シダ植物胞子					
	Monolate type spore	単条溝胞子	15	18	10	8	5
	Trilate type spore	三条溝胞子	23	14	26	18	35
Arboreal pollen		樹木花粉	191	150	231	186	27
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	12	9	9	12	1
Nonarboreal pollen		草本花粉	268	312	220	256	14
Total pollen		花粉総数	471	471	460	454	42
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	6.1 ×10 <sup>3</sup>	6.8 ×10 <sup>3</sup>	6.5 ×10 <sup>3</sup>	6.0 ×10 <sup>3</sup>	2.7 ×10 <sup>2</sup>
Unknown pollen		未同定花粉	13	15	10	11	3
Fern spore		シダ植物胞子	38	32	36	26	40
Charcoal・woods fragments		微細炭化物・微細木片	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)

表2 佐土原城跡第6次発掘調査における種実同定結果

分類群			SC84		SC85		SC115
学名	和名	部位	埋土3層	埋土4層	埋土1層	埋土2層	埋土最下層
Arbor 樹木							
<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核 (破片)				1	
<i>Eurya japonica</i> Thunb.	ヒサカキ	種子	1				
<i>Ehretia ovalifolia</i> Hassk.	チシヤノキ	核			3		
Herb 草本							
<i>Scirpus</i>	ホタルイ属	果実			1		
<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子		2			
<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子 (破片)		2 1			
<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子 (破片)		3 2			
<i>Cucurbita</i>	カボチャ属	種子		1			
Total	合計		1	11	4	1	0

(50c m<sup>3</sup> 中 0.25mm 篩)

表3 佐土原城跡第6次発掘調査における種実同定結果

分類群			SC84	備考
学名	和名	部位	埋土下部	
Arbor 樹木				魚骨 (+)
<i>Myrica rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	核	2	昆虫片 (+)
<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグワ	種子	1	蛹片 (+)
<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核 (破片)	62 8	
<i>Rubus</i>	キイチゴ属	核	24	
<i>Vitis</i>	ブドウ属	種子	1	
Herb 草本				
<i>Echinochloa</i>	ヒエ属	穎	1	
<i>Scirpus</i>	ホタルイ属	果実	4	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	2	
<i>Polygonum</i>	タデ属	果実 (破片)	1	
<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	24	
<i>Solanum nigrum</i> L.	イヌホウズキ	種子	1	
<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子 (破片)	7 1	
<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子 (破片)	67 51	
<i>Cucurbita</i>	カボチャ属	種子 (破片)	19 28	
Total	合計		304	

(200c m<sup>3</sup> 中 0.25mm 篩)

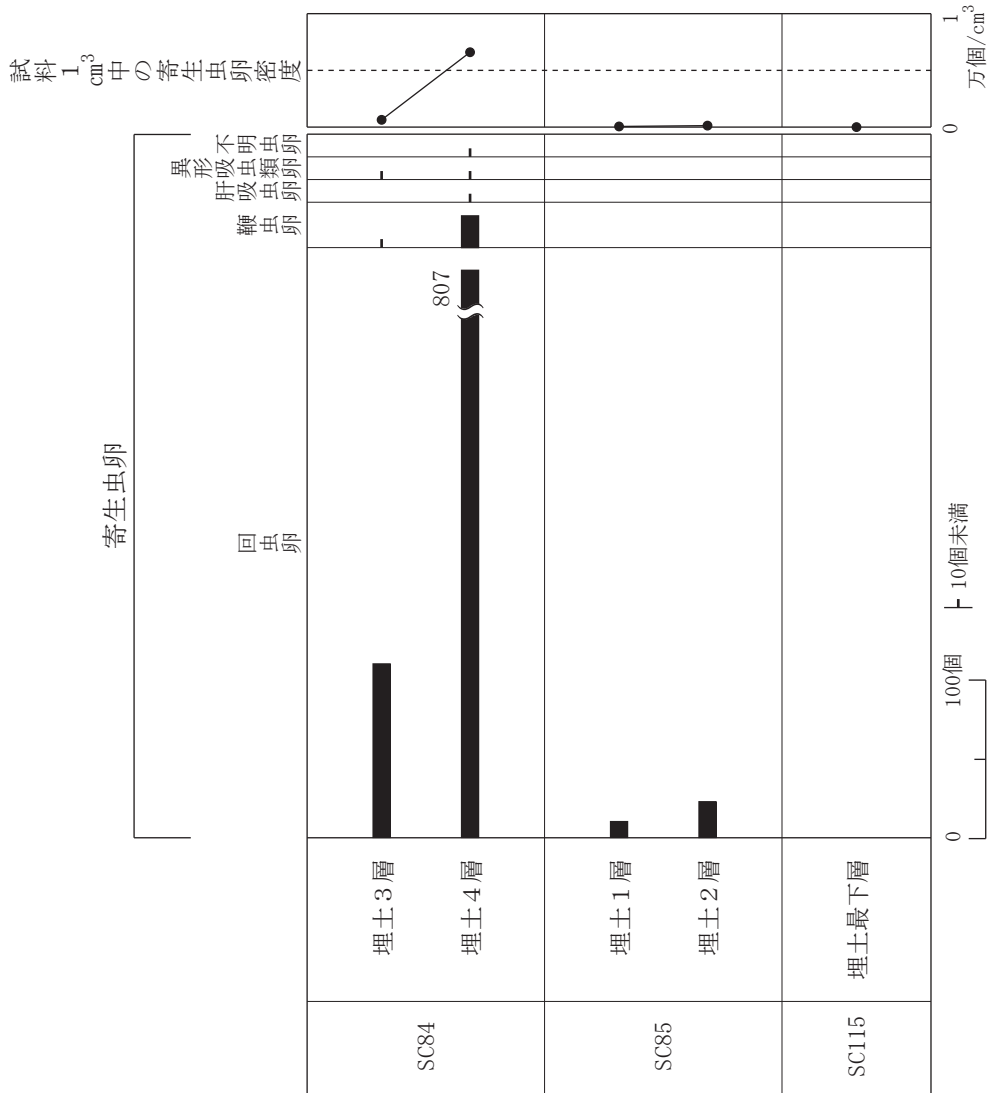


図1 佐土原城跡第6次発掘調査における寄生虫卵ダイアグラム

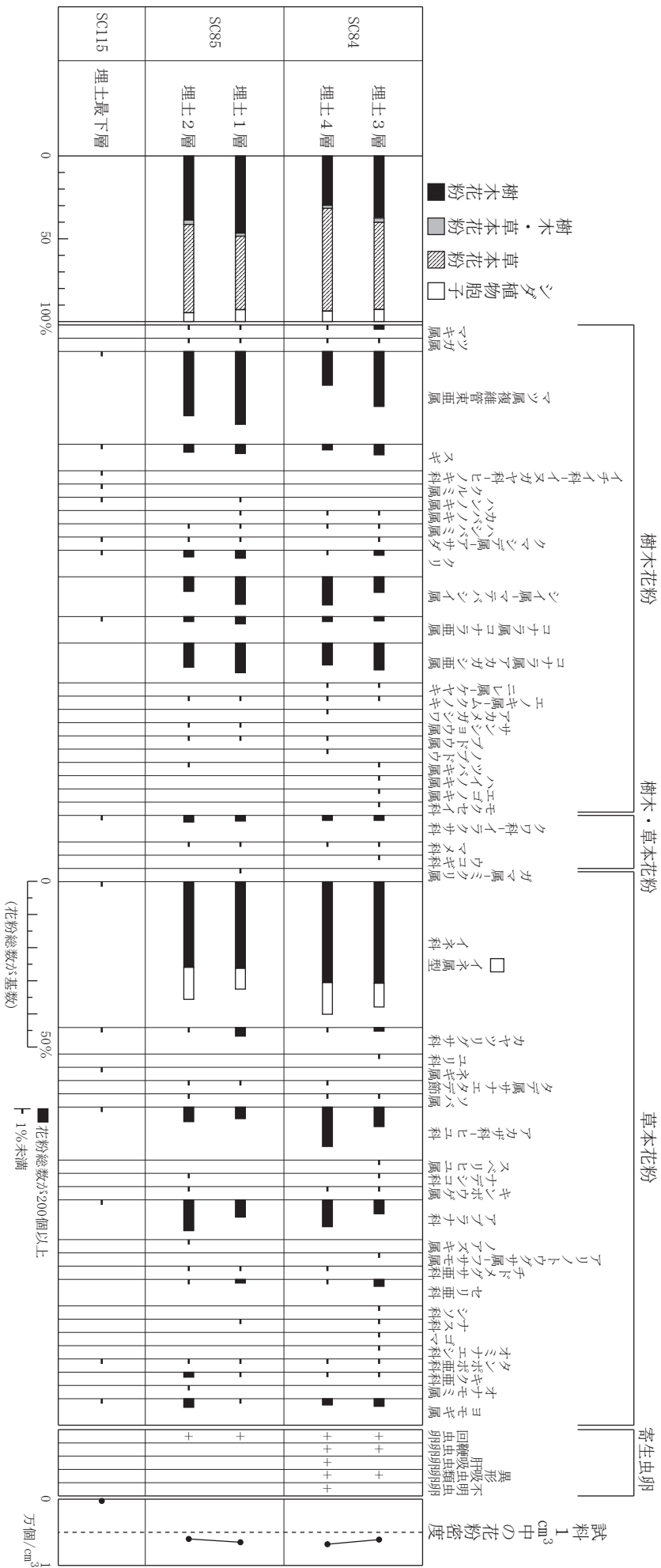


図 2 佐土原城跡第 6 次発掘調査における花粉・寄生虫卵ダイアグラム

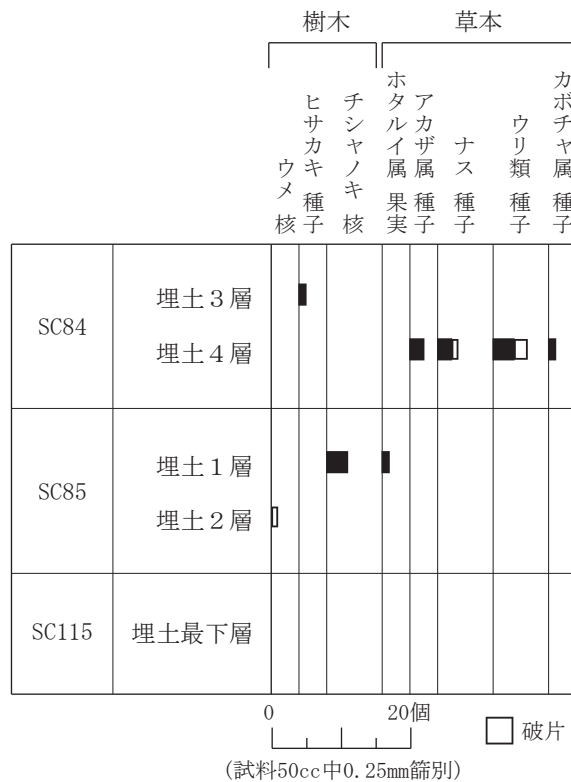


図3 佐土原城跡第6次発掘調査における種実ダイアグラム

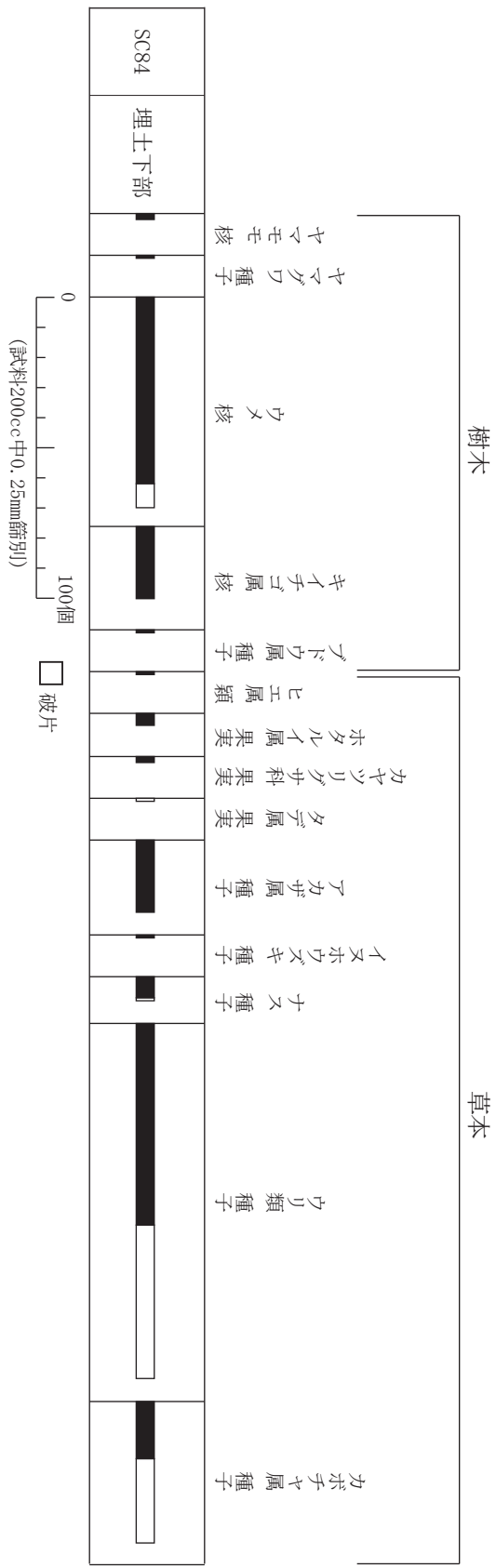


図 4 佐土原城跡第6次発掘調査における種実ダイアグラム



1 回虫卵 (受精卵?)  
(SC84 4層)



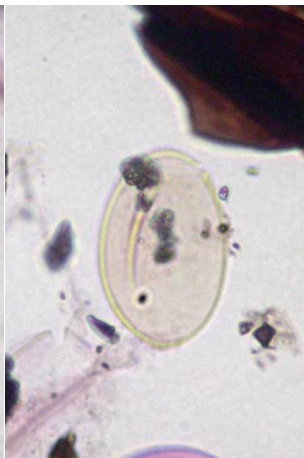
2 回虫卵 (不受精卵?)  
(SC84 4層)



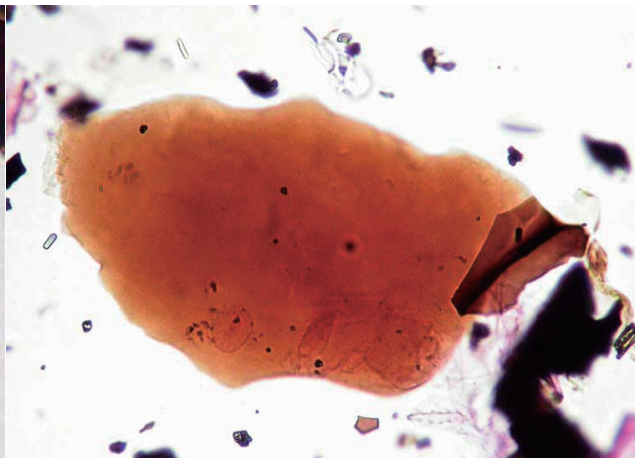
3 鞭虫卵 (SC84 4層)



4 肝吸虫卵  
(SC84 4層)



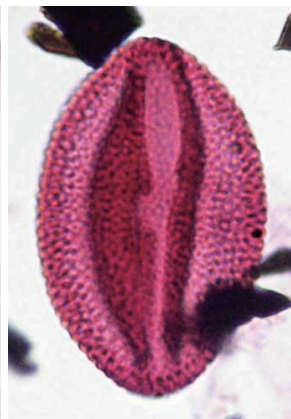
5 異形吸虫類卵  
(SC84 3層)



6 消化残渣? (SC84 4層)



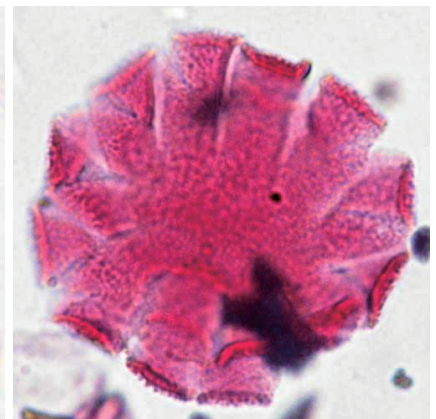
7 イネ属型  
(SC84 4層)



8 ソバ属  
(SC84 4層)



9 ソバ属  
(SC84 4層)



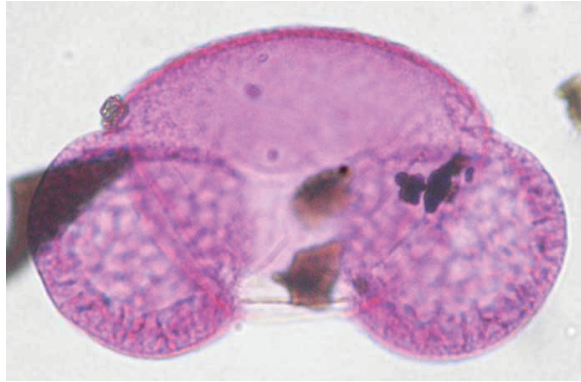
10 ゴマ  
(SC84 3層)

1-5、7-10 — 10 μm、6 — 10 μm

佐土原城跡第6次発掘調査の花粉・寄生虫卵 II



11 マキ属 (SC84 3層)



12 マツ属複維管束亜属 (SC85 1層)



13 スギ (SC84 4層)



14 クマシデ属-アサダ (SC84 3層)



15 クリ (SC84 3層)



16 シイ属-マテバシイ属 (SC84 3層)



17 コナラ属コナラ亜属 (SC84 3層)



18 コナラ属アカガシ亜属 (SC84 4層)



19 クワ科-イラクサ科 (SC84 4層)



20 マメ科 (SC84 3層)



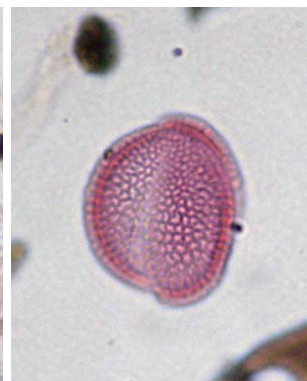
21 イネ科 (SC84 3層)



22 ネギ属 (SC115 最下層)



23 アカザ科-ヒユ科 (SC84 4層)



24 アブラナ科 (SC85 1層)



25 セリ亜科 (SC84 3層)

— 10 μm



佐土原城跡第6次発掘調査の種実 (SC84埋土下部)



1 ヤマモモ核  
— 1.0mm

2 ヤマグワ種子  
— 0.5mm

3 ウメ核  
— 5.0mm

4 ウメ核  
— 5.0mm



5 キイチゴ属核  
— 0.5mm



6 キイチゴ属核  
— 0.5mm



7 ブドウ属種子  
— 1.0mm



8 ヒエ属類  
— 0.5mm



9 ホタルイ属果実  
— 0.5mm



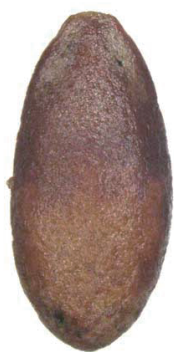
10 アカザ属種子  
— 0.5mm



11 ナス種子  
— 1.0mm



12 ナス種子  
— 1.0mm



13 ウリ類種子  
— 1.0mm



14 ウリ類種子  
— 1.0mm

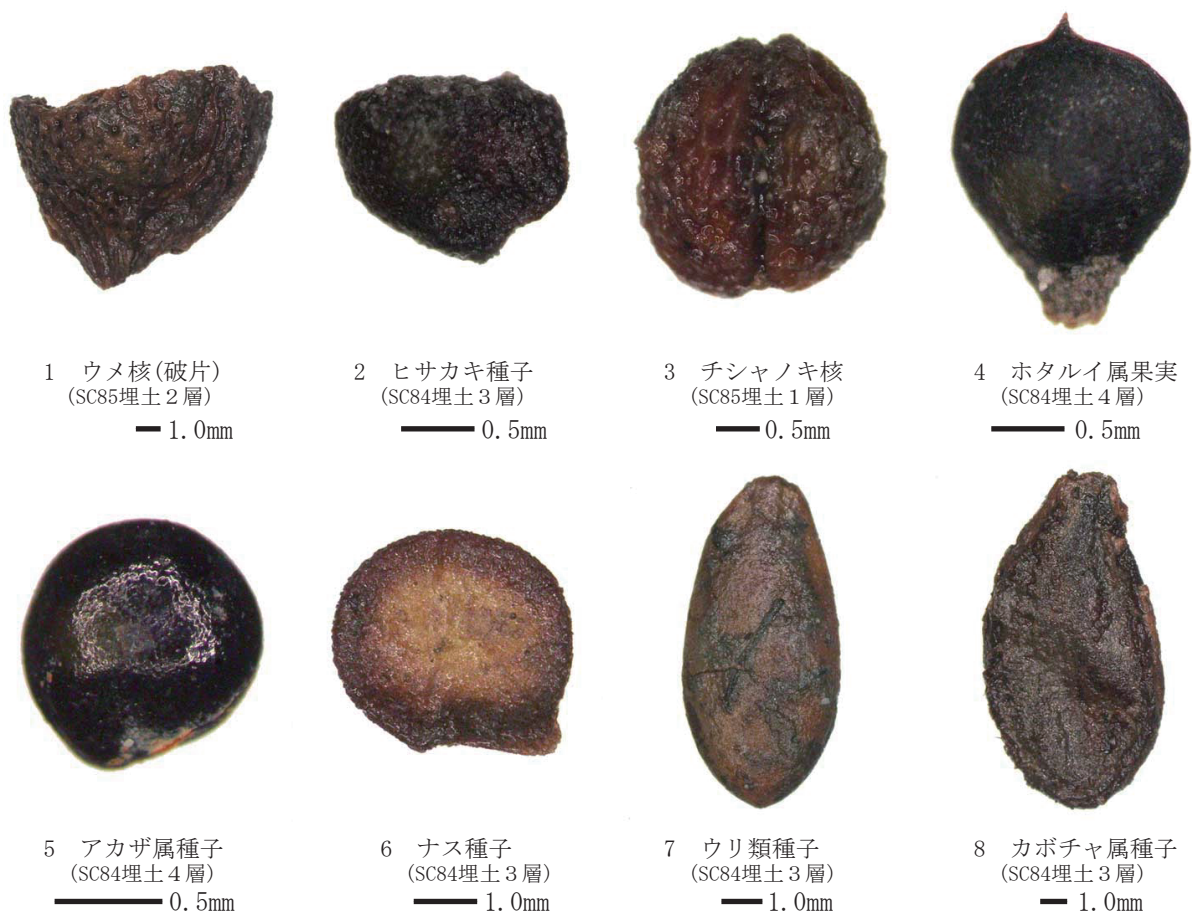


15 カボチャ属種子  
— 1.0mm



16 カボチャ属種子  
— 1.0mm

佐土原城跡第6次発掘調査の種実



## 第Ⅵ章 まとめ

### 第1節 検出遺構と空間利用について（第158図・第159図）

今回検出された屋敷境と考えられる溝状遺構5・6と主軸が並行する建物やその他の遺構の配置状況から渋谷氏及び郡司氏の敷地内の空間利用について概観する。

『佐土原御城下細見之図』の記名の仕方から両家とも調査区の北東方向に敷地内への入り口があったことが想定され、渋谷氏の敷地では門の可能性のある遺構（門21）が検出されている。渋谷氏の敷地の場合、そのあたりから屋敷内に入ると向かって左側に池状遺構73、右側に渋谷氏の主屋と考えられる建物1・2が見られる。建物1・2の奥には厠跡84・85が、南側には井戸70がある。また敷地内の南東部には建物3・4があり、廃棄土坑の類はその奥に掘られている。郡司氏の場合も北東方向想定される入り口から屋敷内に入るとむかって右側に主屋と考えられる建物5・6が、左側には建物7・8がみられ、建物8と隣接する井戸51がある。また廃棄土坑の類は敷地内奥である調査区南西部に多く検出された。

このように入り口を正面に敷地内を見ると主屋は左手、井戸は主屋の南側に存在し、廃棄土坑の類は入り口から遠い位置に存在することなど両氏の敷地内の空間利用には共通点がある。その一方、渋谷氏側では池状遺構が存在し庭園空間が想定されたものの、郡司氏側の今回の調査範囲内では庭園空間を想定させるような遺構が検出されなかったことが相違点である。

### 第2節 木札と『佐土原御城下細見之図』について

前述のとおり、本調査地点は『佐土原御城下細見之図』によると佐土原藩寄合格の「渋谷直記」と騎馬格の「郡司篤之助」の屋敷地となっている。このうち渋谷氏の敷地内と考えられる調査区北西側で検出された土坑179・177・184から出土した木札には「渋谷宇衛門」や「渋谷直」という墨書が見られた。青山幹雄氏の研究資料によると、渋谷直記は佐土原藩寄合格の渋谷氏の8代目当主であり、「渋谷宇衛門」とは渋谷氏の3代及び5～7代の当主が名乗っている名前である。今回の調査において『佐土原御城下細見之図』の記載された名前が出土遺物で確認できたということは注目すべき成果である。

### 第3節 近世の出土遺物について

#### 第1項 薩摩焼について

これまでの佐土原城跡の調査においてあまり出土しなかった薩摩焼がまとまって出土したことは今回の調査成果の中で特に注目すべき点である。これまでは2次調査の播鉢（註4）や第8次調査の碗、土瓶、土瓶蓋、播鉢、鉢の出土例（註5）が知られているだけで高級品といわれる白薩摩や磁器の事例は皆無であった。本調査では豎野系の白薩摩の碗、土瓶、蓋等や象嵌技法が見られる陶器碗、苗代川産と考えられる磁器碗も出土している。なお本調査で出土した白薩摩の碗には「千鳥印」が多く確認される。この「千鳥印」のある白薩摩は近年の研究によると絵付けが施されておらず、いわゆる「御用品」ではなく「商売品」として作られたものと考察されている（註6）。また黒薩摩については碗、土瓶、土瓶蓋、鉢、播鉢、植木鉢、甕、徳利等多くの器種が見られる。これらのうち年代が判明したものに注目すると18世紀以後の資料が

多いような印象を受ける。

前述のようにこれまでの佐土原城の調査では薩摩焼の出土例が少なかったため、佐土原藩ではあまり薩摩焼の流通が活発ではなかったという意見があった(註7)。しかし、本調査区の出土状況はこの意見が当てはまらない事例と言えるのではないだろうか。今後、佐土原藩における薩摩焼の流通について再検討が必要となるだろう。

## 第2項 京焼の色絵陶器について

京焼の色絵陶器は島津宗家に次ぐ家格である鹿児島市垂水・宮之城島津屋敷や、今和泉島津家の屋敷跡である鹿児島市大龍遺跡G地点などの上級武家層の屋敷跡や寺格の高い寺院からの出土が多い傾向が見られるという(註8)。

本調査地点は寄合格、騎馬格という佐土原藩の中では上級武士に位置付けられる屋敷地であり、京焼色絵陶器がまとまって出土している。一方、佐土原城跡第8次調査地である鳴之口の中小姓格の屋敷地ではこれらは一点も出土していない。開発に伴って設定された調査区域であるため、未掘部分のことも考慮に入れる必要はあるが、このような遺物の出土状況は佐土原藩内での家格差を示していることが考えられる。

## 第3項 その他の遺物について

本調査からは第1項・第2項で考察した資料のほかにも多くの陶磁器が出土している。全体を見ると特に肥前系陶磁器の比率が最も高く、関西系陶器がそれに続く。肥前系陶磁器の中には柿右衛門窯の資料や亀山焼、望料碗、瑠璃釉陶磁器等の高級品も見受けられる。他にも瀬戸美濃焼、萩焼、備前焼、砥部焼、琉球など特に西日本を中心した各産地の資料が見られる。

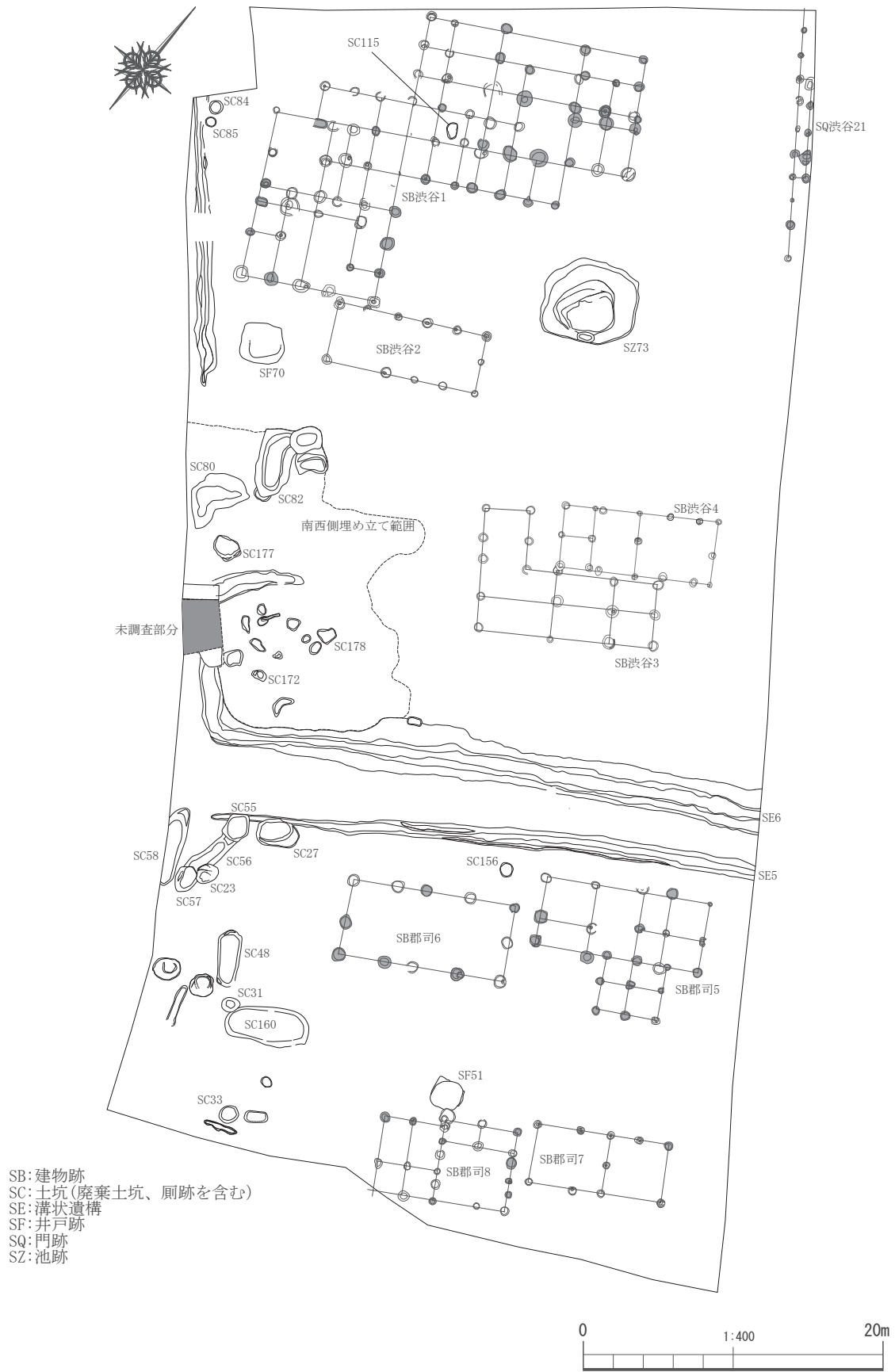
また墨書や刻書のある陶器が出土している(図版25上段ほか)。墨書には渋谷氏を示す可能性のある「渋谷氏」や使用・収納の場所を示す可能性のある「や二十」(No.146)・「二ヤ」・「一ノ九ヤ」、他にも「鳥枝氏」(No.316)・「白」(No.407)・「中」(No.430・431)などが確認されている。

6次調査と8次調査の遺構の検出状況と遺物の出土状況、横浜開港記念館が所蔵する佐土原藩筆頭家老の樺山氏の屋敷図から屋敷内に存在した施設などをまとめたものが第22表である。あくまで発掘調査が行われた範囲での比較となるが、佐土原藩における追手口の武士と鳴之口の武士との間には格差が感じられる。今後佐土原城下の調査事例が増えることでさらに武士階級の生活の様相が見えることとなるだろう。

## 第4節 城下町整備前の遺構と遺物について

### 第1項 遺構について(第160図)

佐土原藩の2代藩主島津忠興が寛永2年(1625)に山上の天守を破却して、山下に藩庁を移し城下町の整備を行ったとされる。それ以前の遺構としては溝状遺構83が挙げられ、そのほか出土遺物の検討から井戸16と井戸100が城下町以前の遺構と考えられる。また建物跡については城下町整備後の屋敷境となる溝状遺構5・6と主軸を異にする12棟が想定される。今回の調査区で検出された柱穴からは14世紀～16世紀にかけての貿易陶磁器の出土が目につく



第159図 渋谷氏郡司氏主要遺構配置図(S=1/400)

ことがその裏づけとなるが、各柱穴の出土遺物を詳細に検討できていないため、一部は城下町整備後の建物である可能性もある。佐土原城は15世紀には築城されていたと考えられており(註9)、建物等の変遷や配置を検討することで中世における本調査区の機能も見えてくるだろう。

## 第2項 出土遺物について

今回の調査で注目される資料のひとつに赤褐色を呈して凸面に青海波紋の叩き痕を、凹面に布目痕を残す瓦がある(図版21下段)。これは朝鮮半島の造瓦技術の系譜を引くものとして考察されており、文禄・慶長の役に参戦した島津豊久により連行された朝鮮の工人によって製作されたという考えもある(註10)。本調査区でこれらは主に柱穴や溝状遺構83から出土している。その帰属時期については溝状遺構83の出土陶磁器等から16世紀後半～17世紀初頭と考えられる。

舶載陶磁器としては龍泉窯系青磁、景德鎮窯の青花、福建省産の白磁・青花など一定量が出土しており、特に青花類の出土が目立つ。また華南産の翡翠釉の小皿(図版13下段中央上)が出土している。本資料は県内でも出土例が少なく注目される。

註4・註7 出口浩二2013「第26回 鹿児島陶磁器研究会報告 一宮崎市佐土原町茶屋窯跡の見学と佐土原城跡の出土品の検討」『からから』No.27 鹿児島陶磁器研究会

註5 宮崎市教育委員会2016『佐土原城跡(第8次調査)』宮崎市文化財調査報告書第107集

註6 深港恭子2013「千鳥印のある白薩摩と商売焼についての一考察」『立野並苗代川焼物高麗人渡来在附由来記』を中心に「『からから』No.27 鹿児島陶磁器研究会

註8 渡辺芳郎2010「鹿児島城下出土の陶磁器と薩摩焼」『季刊考古学』第110号 雄山閣

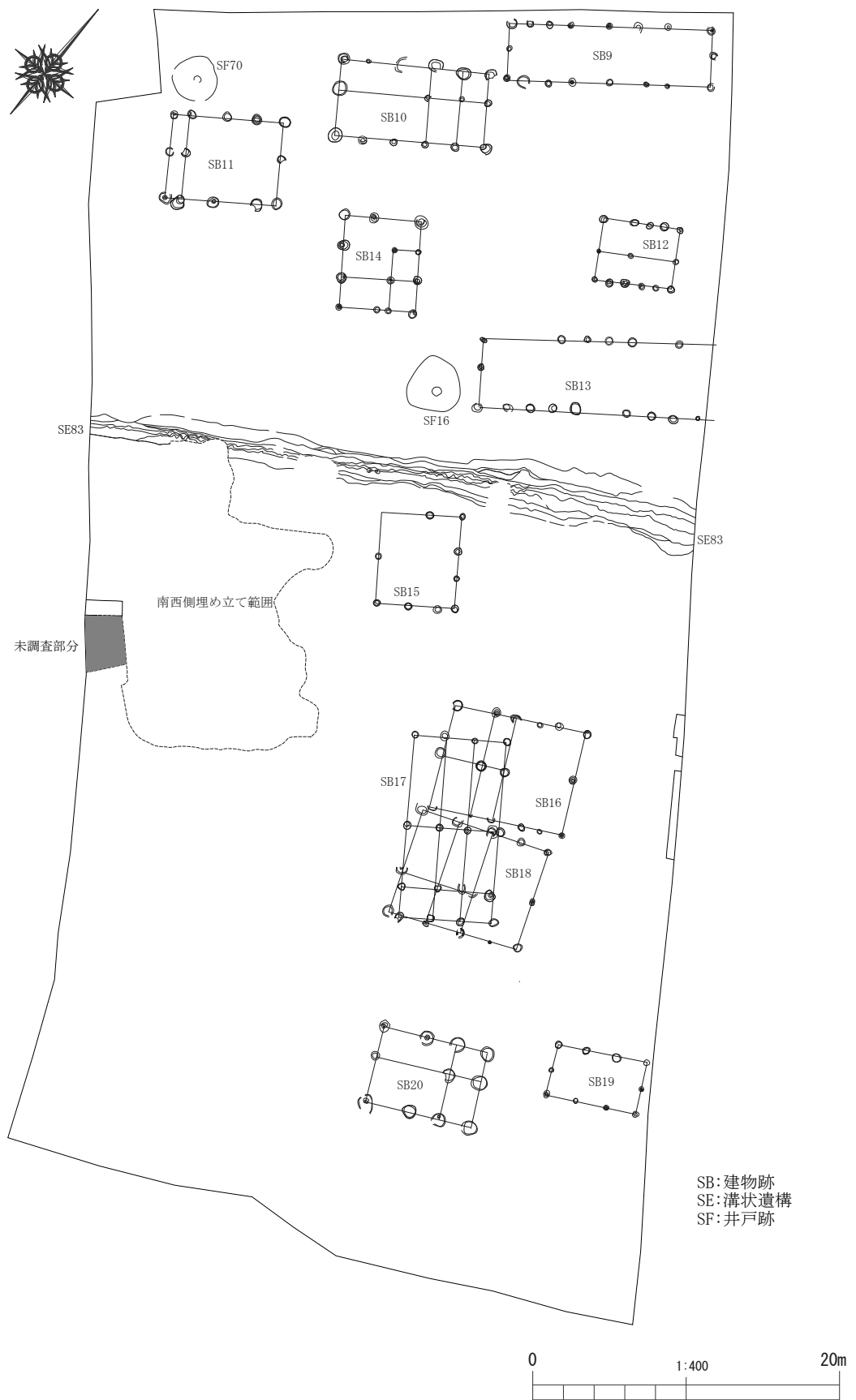
註9 末永和孝2011『佐土原城 天守を持った山城の歴史』鈺脈社

註10 中井 均1998「織豊系城郭の成立要素—南九州を事例をとして—」『織豊城郭』第5号 織豊期城郭研究会

表22：絵図や出土遺物から見た佐土原藩士の生活様式の違い

藩士名	樺山岩記	渋谷直記	郡司範平	池田・島尻幸之助など
格	寄合(筆頭家老)	寄合	騎馬	中小姓
調査	絵図より	第6次調査	第6次調査	第8次調査
分限帖記載の石高	1000	300	110	23と35
敷地面積(調査面積より)	?	2000㎡以上	800㎡以上	400㎡以上
主屋の面積	253畳(461.48㎡)	約147畳(268.03㎡)	約38畳(70㎡) (約70畳:128.24㎡)	約24+α畳 (43.68+α㎡)
敷地内の建物の総面積	253畳+α(蔵3棟と物置と馬小屋)	約224.5畳(409.43㎡)	約115.5畳(210.84㎡)	約42畳+α(76.31㎡)
井戸	○	○	○	×
池	○	○	×	×
厠	○	○	○	?
土蔵	○	?	?	×
馬小屋	○	△	△	×
柿右衛門関連・望料碗・ 亀山焼・瑠璃釉陶磁器・ 犬人形	?	○	×	×
白薩摩	?	○	○	×
京焼風色絵	?	○	○	×
ガラス製品	?	○	○	×

※建物等の畳数については九州で広く使用されていたとされる京間(一畳:1.91m×0.95m=1.82405㎡)を当てた。



第160図 佐土原城跡第6次調査中世以前の可能性のある主要遺構配置図(S=1/400)



- ①：溝状遺構 83 作業風景
- ②：溝状遺構 6 佐土原人形破片検出作業風景
- ③：水抜き作業風景
- ④：台風 2 号による調査区の水没状況
- ⑤：池状遺構 73 作業風景
- ⑥：遊古館クラブによる発掘体験  
(溝状遺構 6 の掘削を行った)





- ①：渋谷氏井戸 16 桶検出状況
- ②：渋谷氏井戸 70 土層
- ③：渋谷氏井戸 70 桶検出状況
- ④：渋谷氏井戸 100 桶検出状況
- ⑤：渋谷氏井戸 100 浄水装置検出状況





渋谷氏廃棄土坑 26



渋谷氏廃棄土坑 28



渋谷氏廃棄土坑 110



渋谷氏廃棄土坑 144



渋谷氏廃棄土坑 150



渋谷氏廃棄土坑 151



渋谷氏厠跡 84



渋谷氏厠跡 85



渋谷氏厠跡 84・85 完掘



渋谷氏埋鉢遺構 115 明黄褐色土検出状況



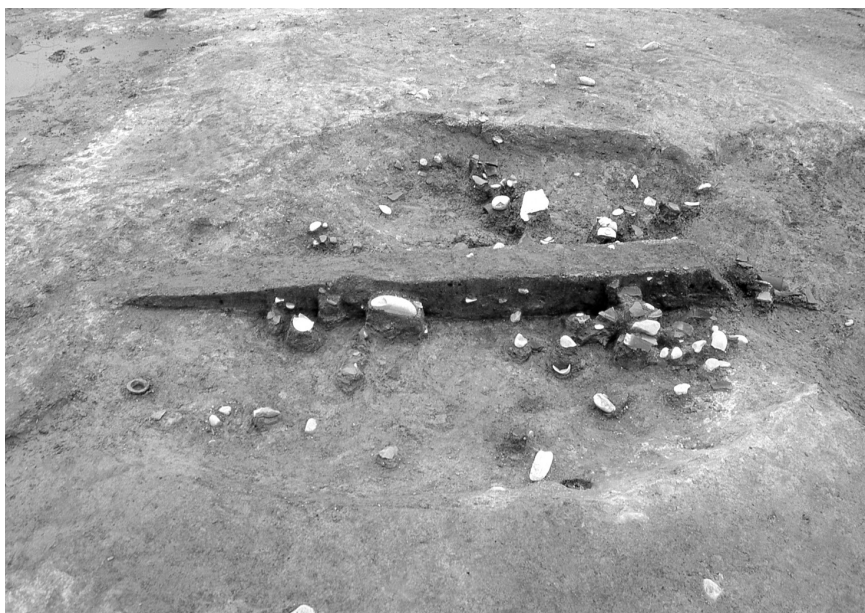
渋谷氏埋鉢遺構 115 明黄褐色土半裁状況



渋谷氏埋鉢遺構 115  
植木鉢検出状況



渋谷氏土坑 34



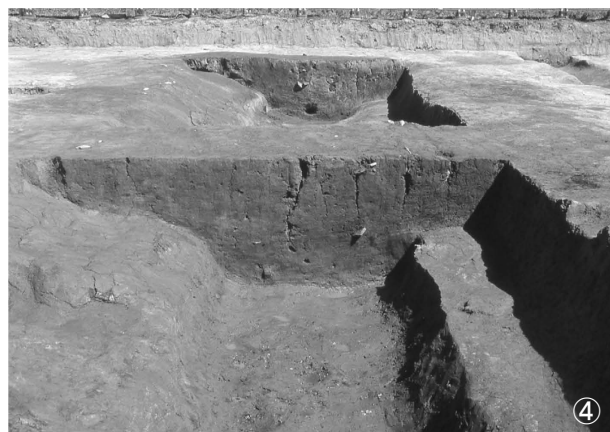
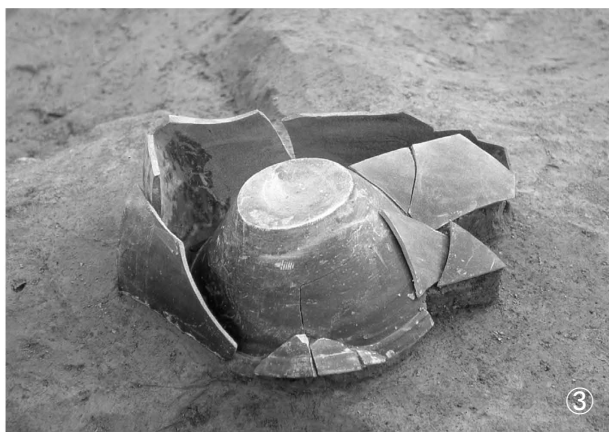
渋谷氏土坑 54



渋谷氏土坑 122



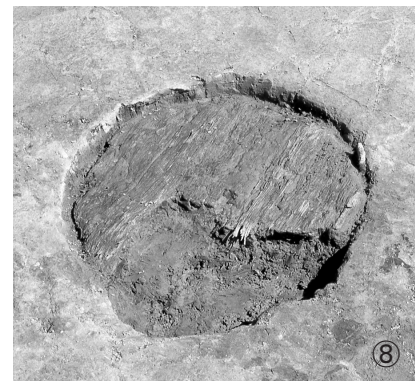
渋谷氏土坑 127・161



①：渋谷氏土坑 127 土層 ②：渋谷氏土坑 161 土層 ③：渋谷氏土坑 162 ④：渋谷氏溝状遺構 6 土層  
 ⑤：渋谷氏溝状遺構 6 佐土原人形破片出土狀況 ⑥：渋谷氏溝状遺構 6 遺物出土狀況  
 ⑦：渋谷氏柱穴内礎板例 ⑧：渋谷氏柱穴内根石例 ⑨：渋谷氏柱穴内礎石例



- ①：渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑 80
- ②：渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出土坑 173
- ③：渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出土坑 178
- ④：郡司氏井戸 51 礫出土状況
- ⑤：郡司氏井戸 51 桶検出状況
- ⑥：郡司氏廃棄土坑 1
- ⑦：郡司氏廃棄土坑 2
- ⑧：郡司氏厠跡 156





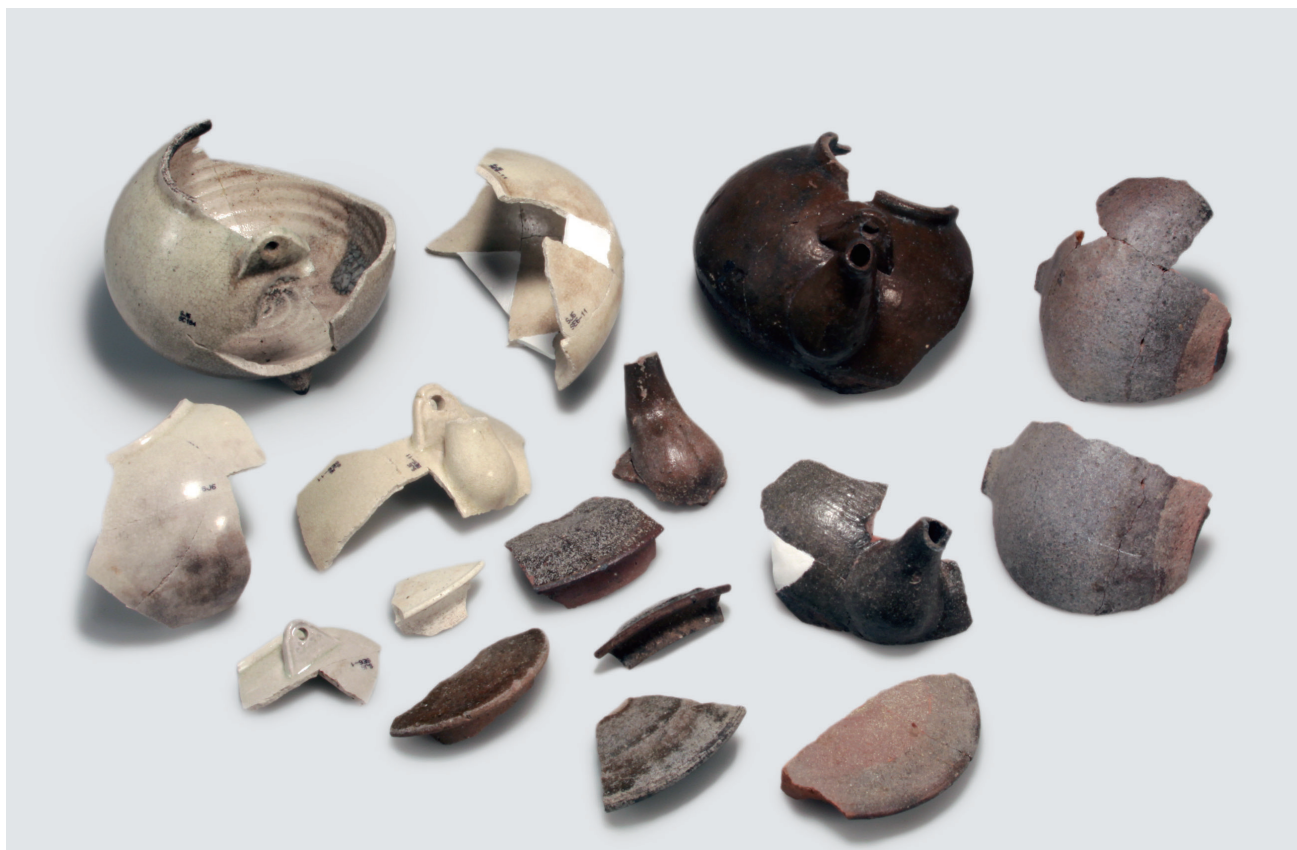


①：郡司氏廃棄土坑 48 ②：郡司氏土坑 67  
③：郡司氏溝状遺構 5 ④：郡司氏土坑 55 56 57  
⑤：溝状遺構 83 土層 ⑥：溝状遺構 83





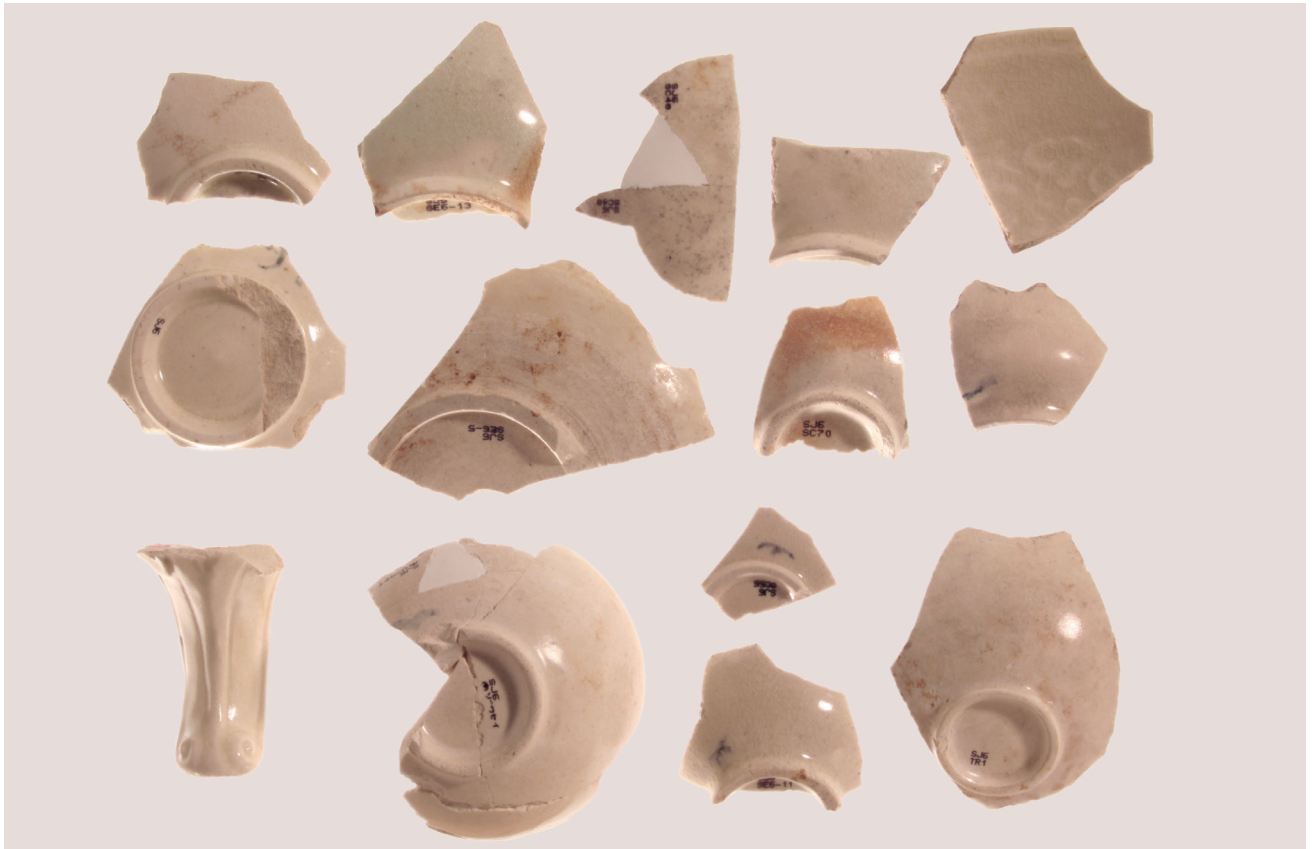
SC184出土陶磁器(実測図未掲載分)



薩摩焼土瓶(実測図未掲載分)



漆器碗(右下以外は実測図未掲載)



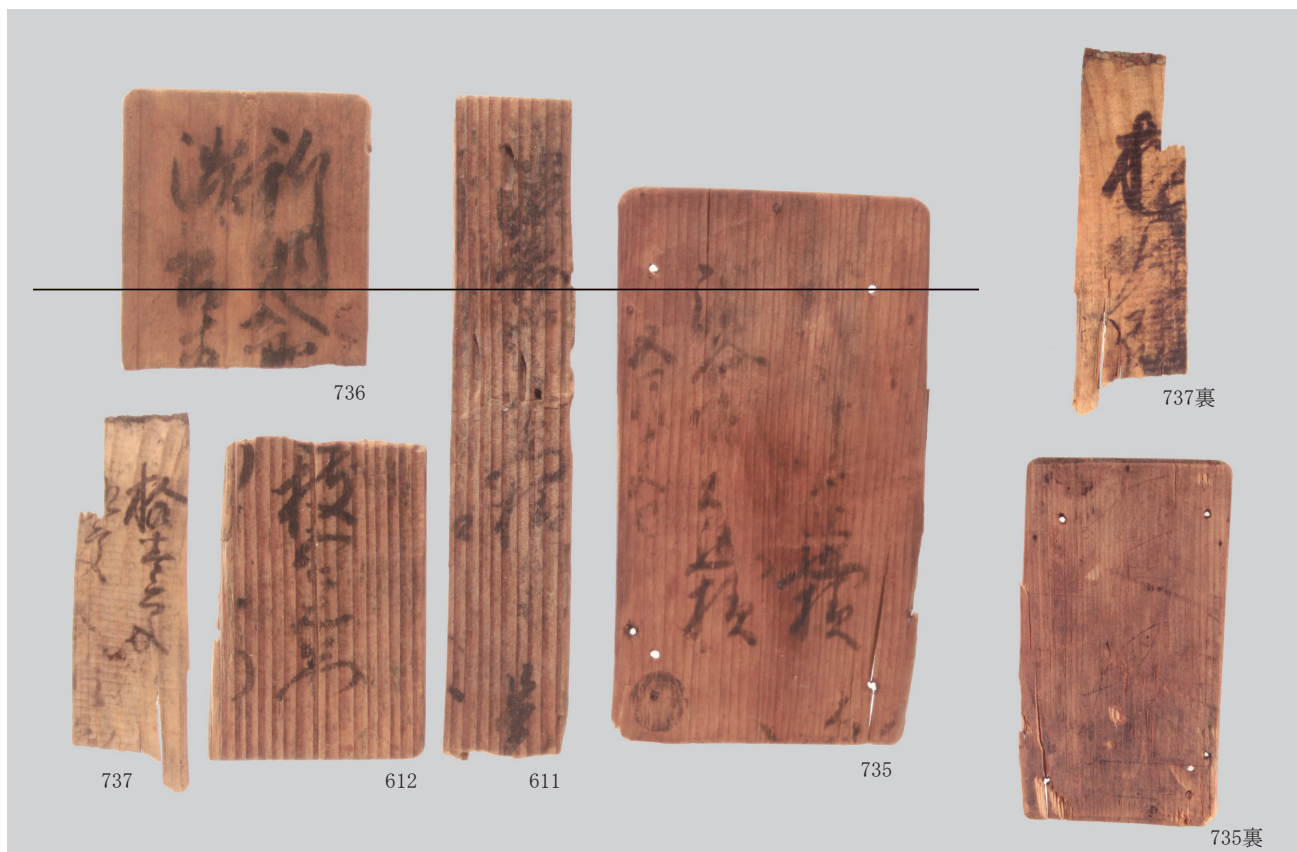
陶器(白薩摩:実測図未掲載分)



船載陶磁器①(白磁・青磁・青花:実測図未掲載分)



ガラス製品・銅製品・石器



木札(墨書有)



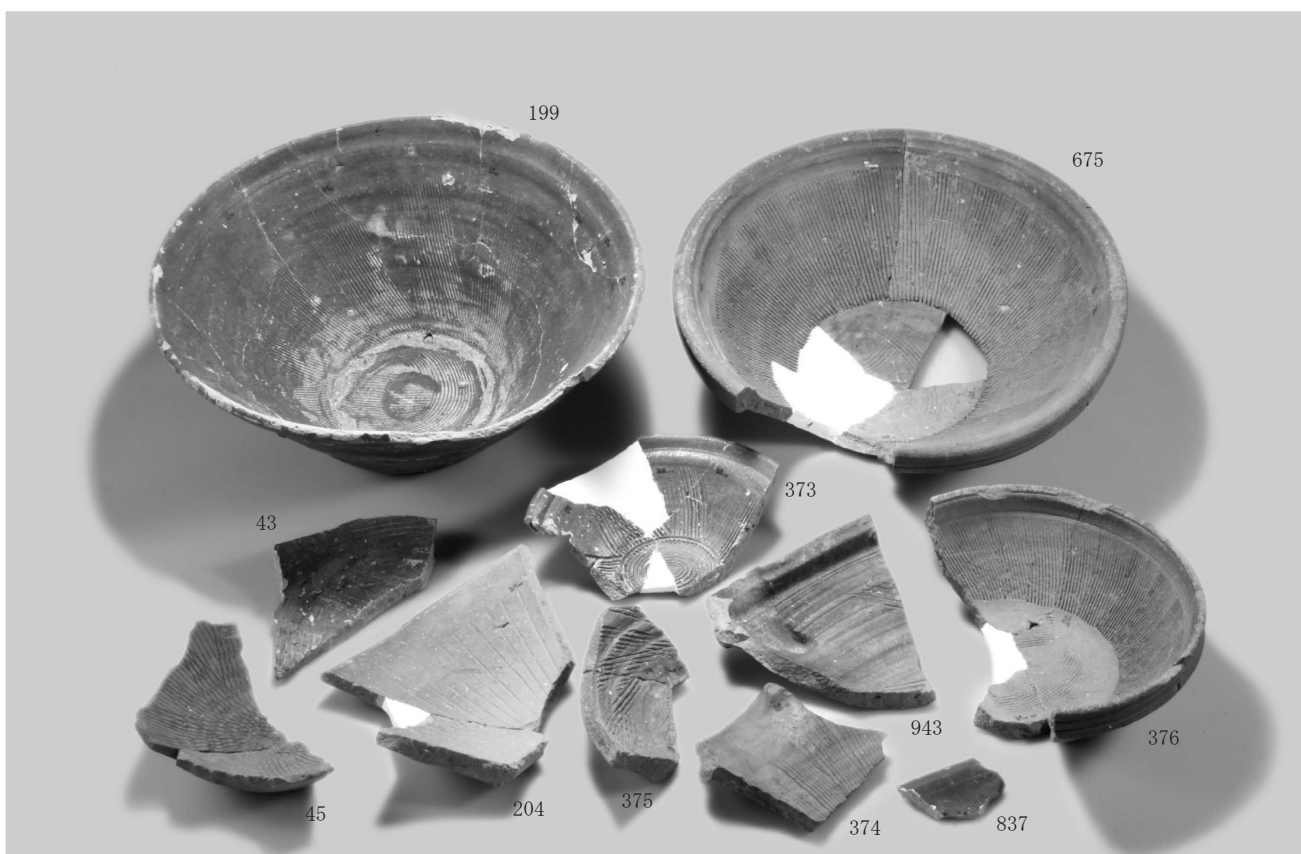
船載陶磁器②(青花:実測図未掲載分)



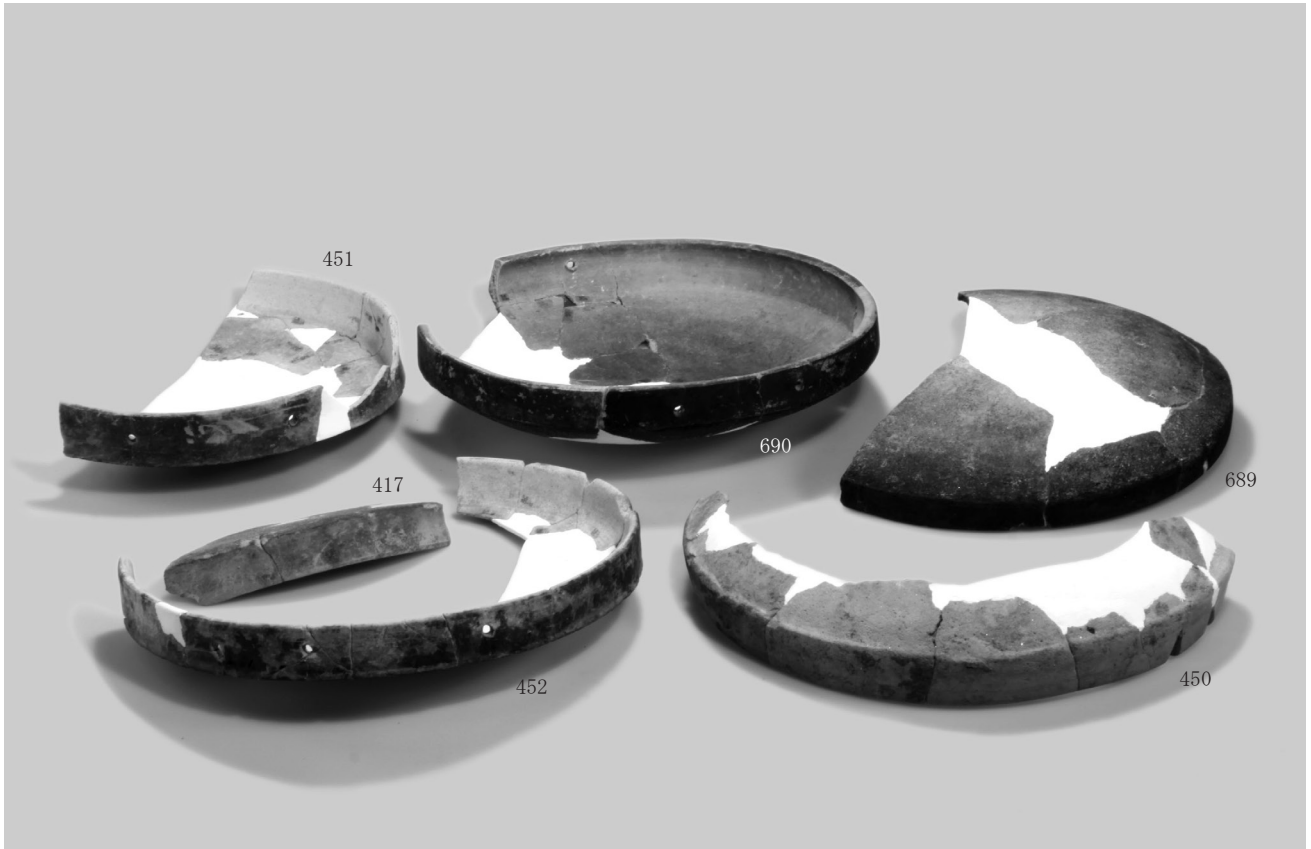
陶器(黒薩摩:実測図未掲載分)



土器類



播鉢



焙烙

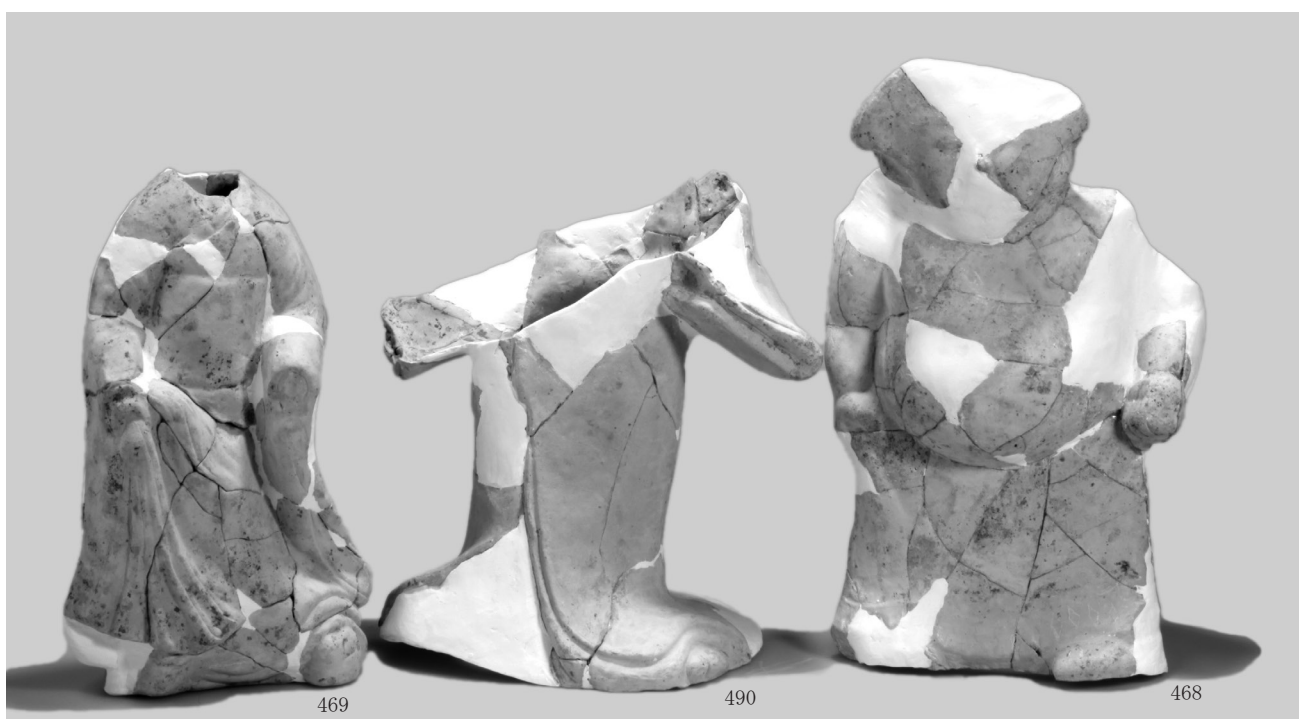


焙烙(煎りゴマ)・秉燭など





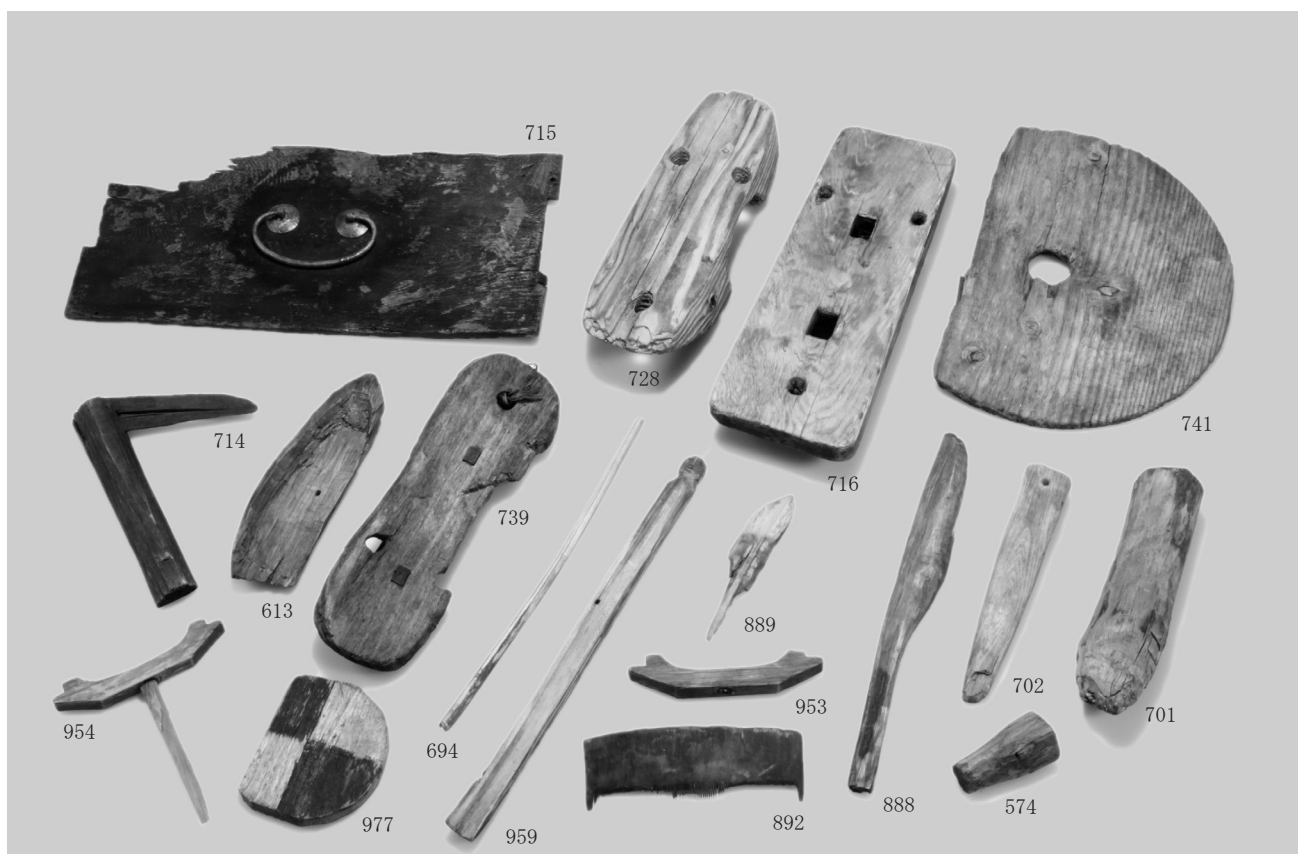
渋谷家溝状遺構6出土 佐土原人形①



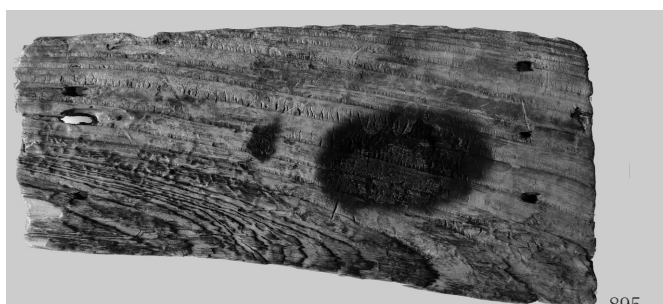
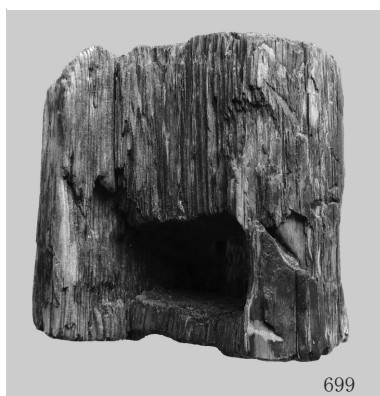
渋谷家溝状遺構6出土 佐土原人形②



人形・土製品など



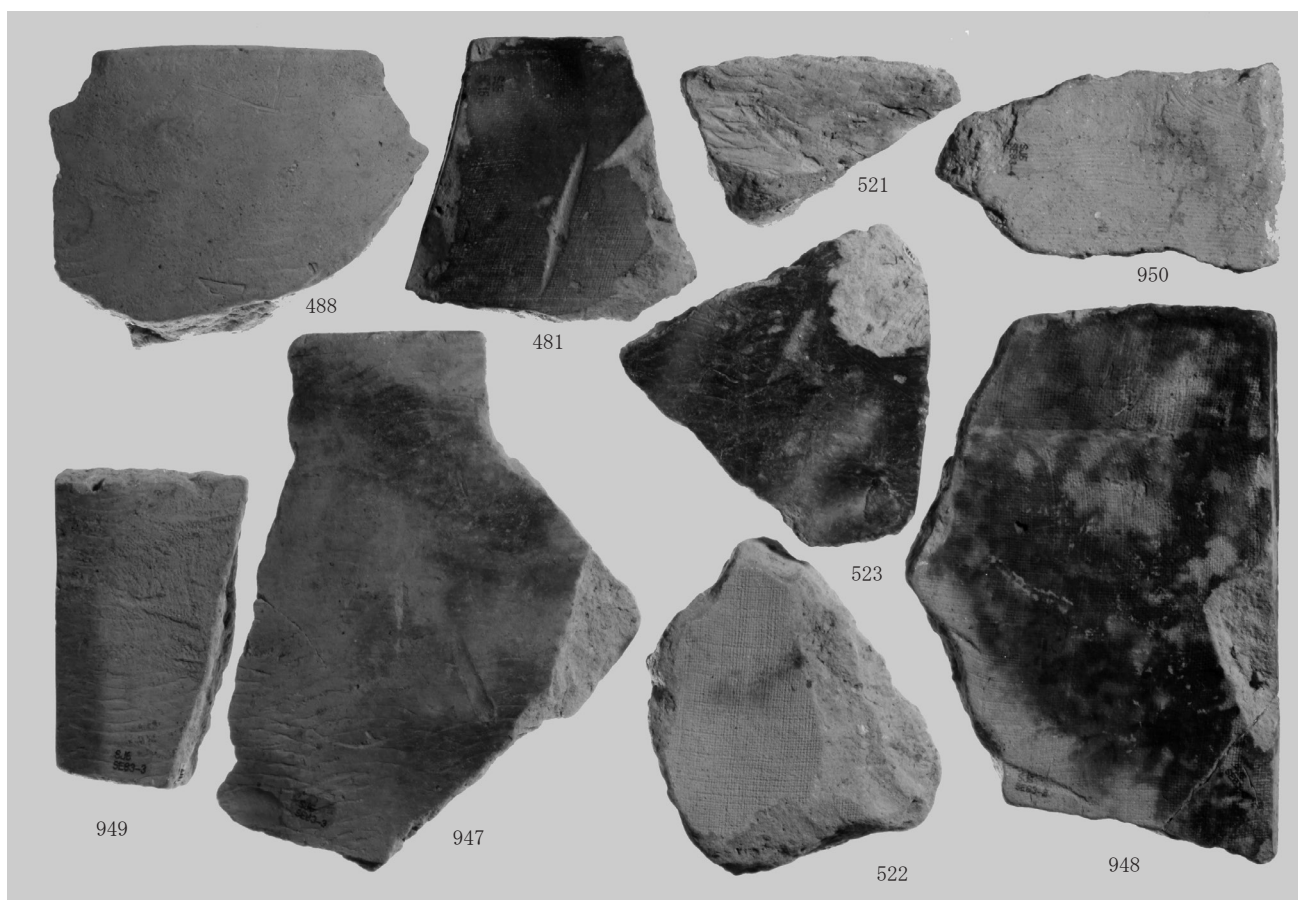
木製品①



木製品②



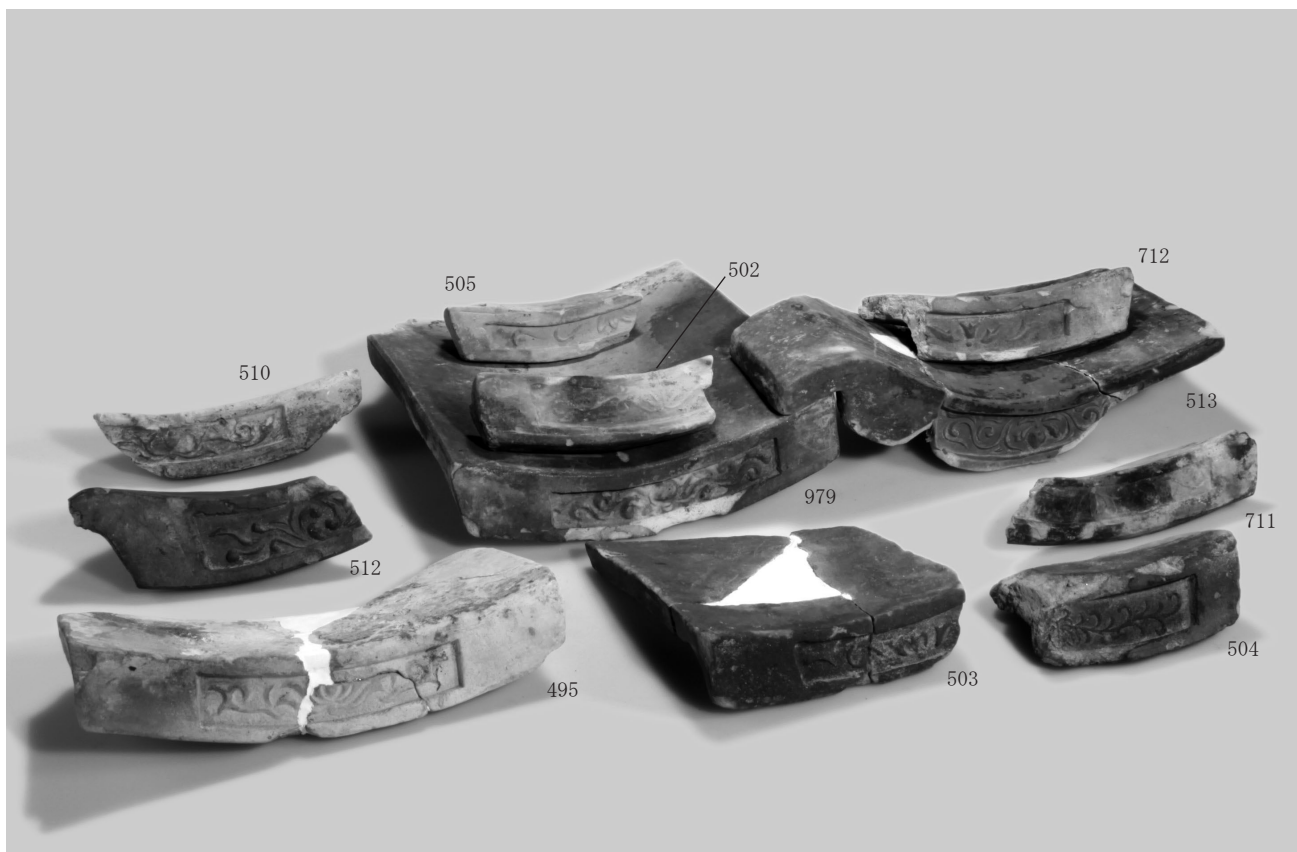
石製品



朝鮮半島の造瓦技術の系譜を引く瓦



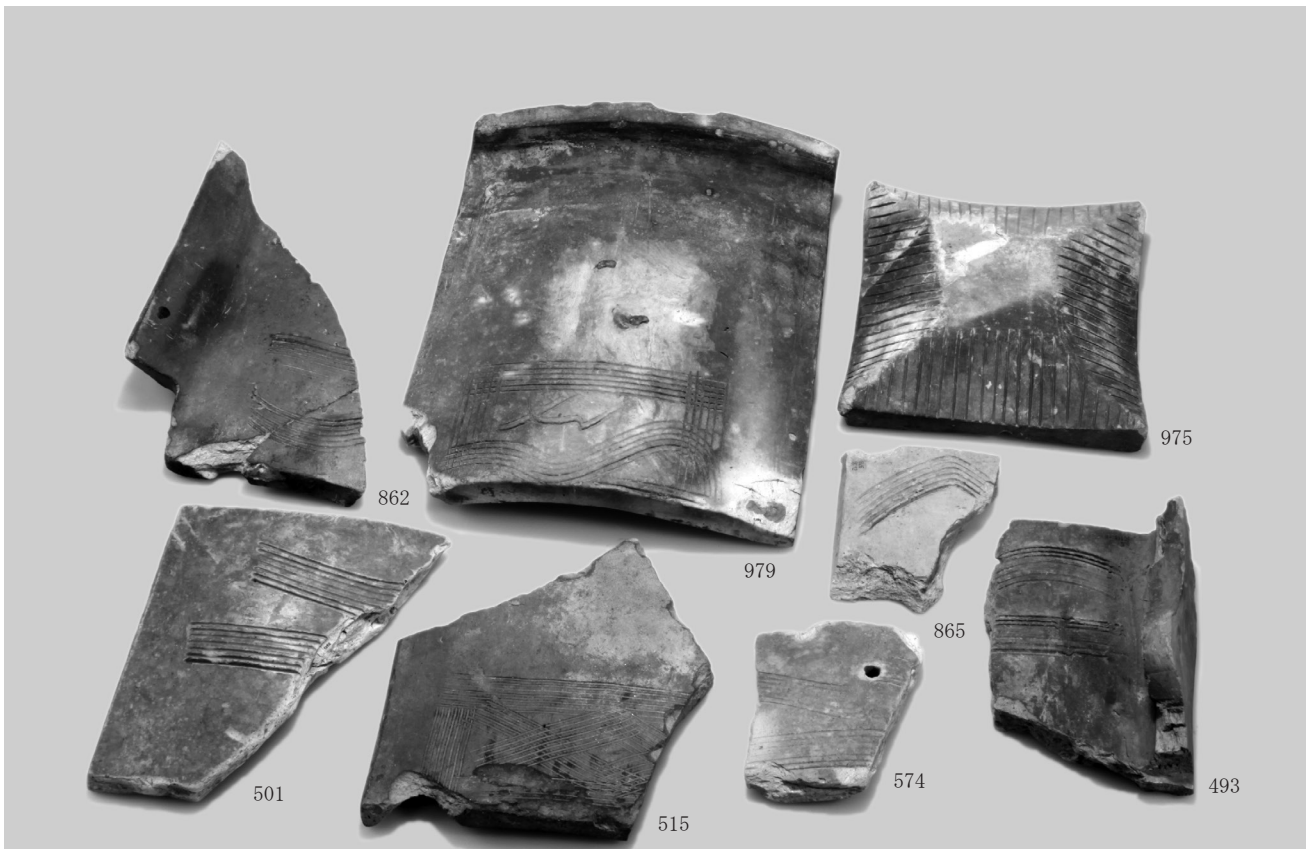
軒丸瓦



軒平瓦・軒棧瓦



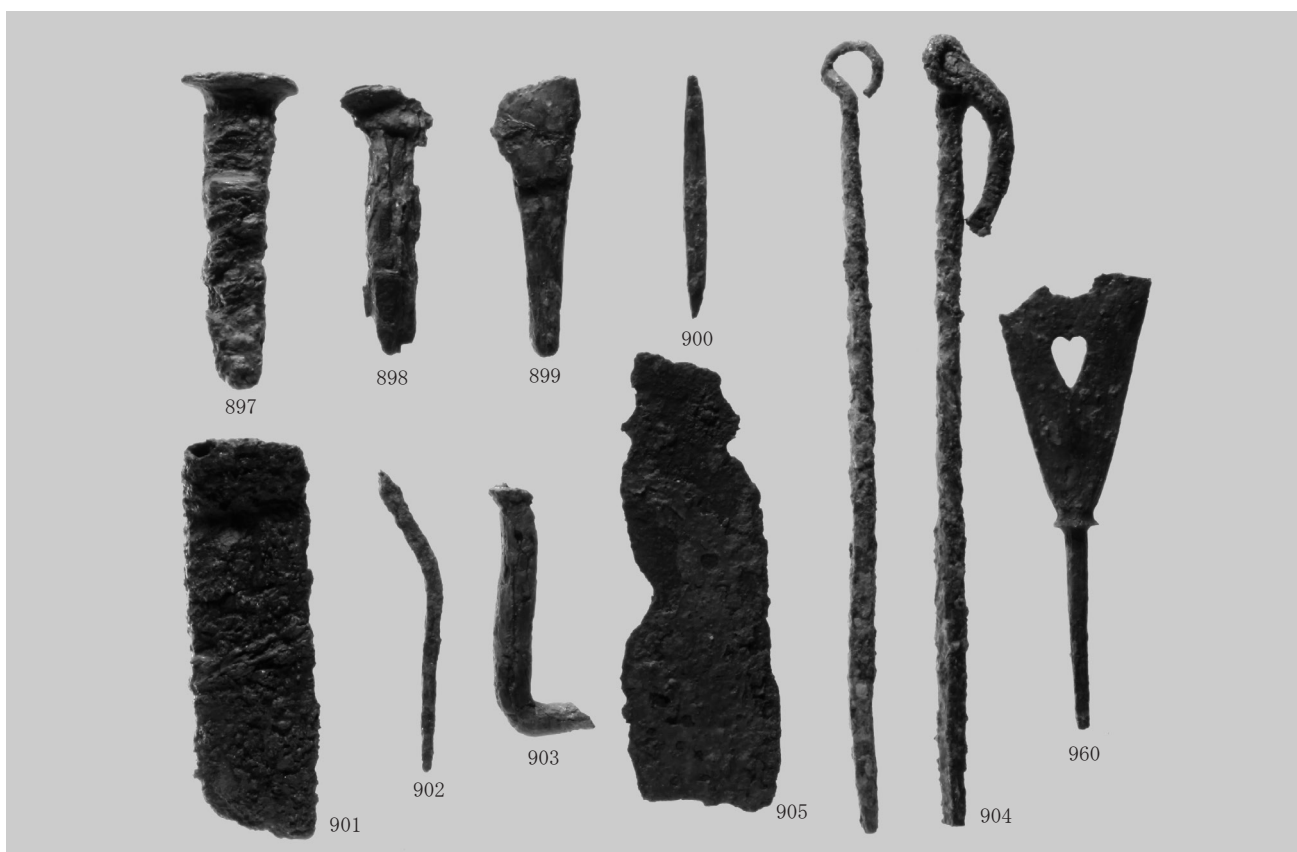
鬼瓦・飾り瓦・線刻のある瓦など



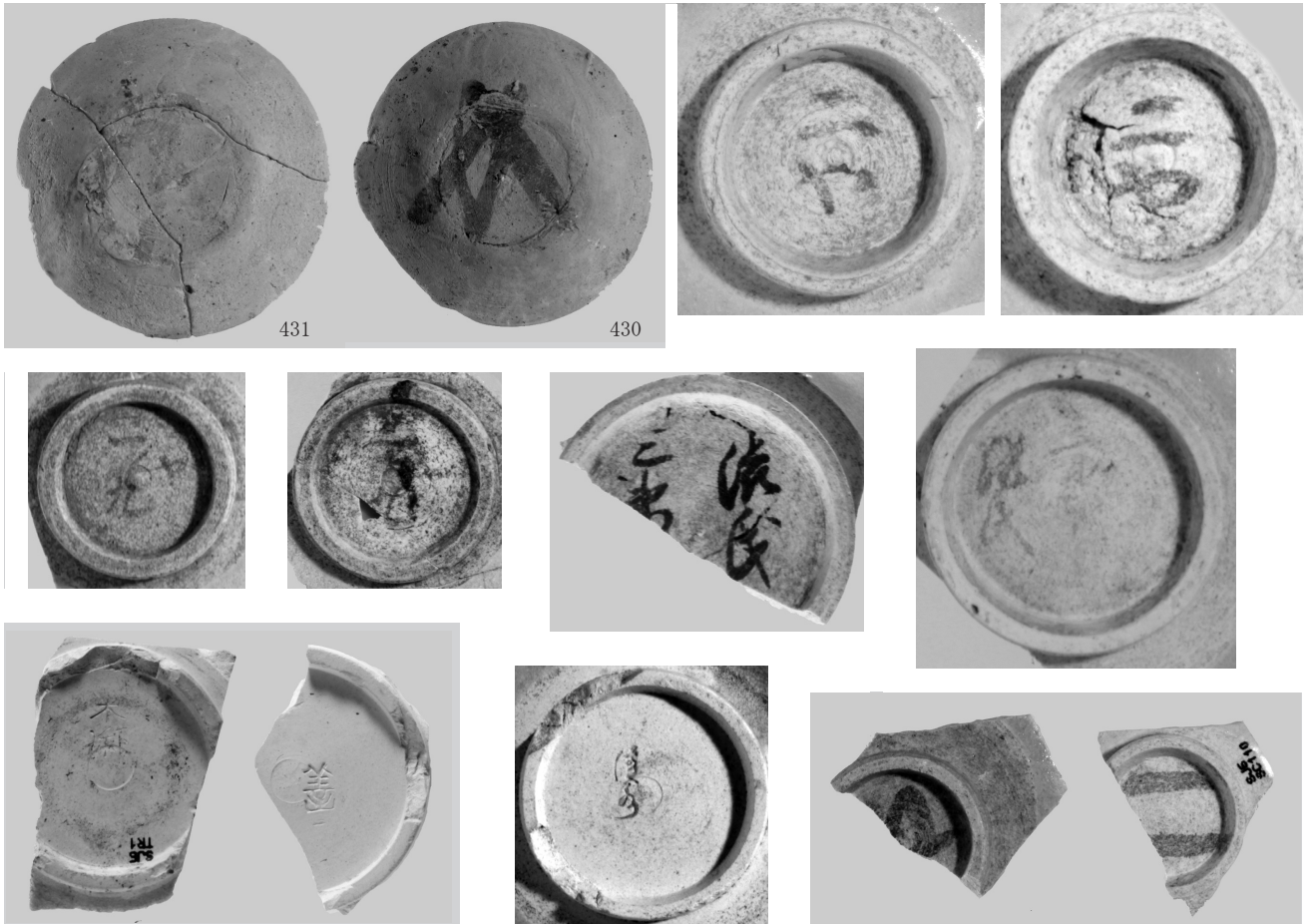
櫛描き文のある瓦



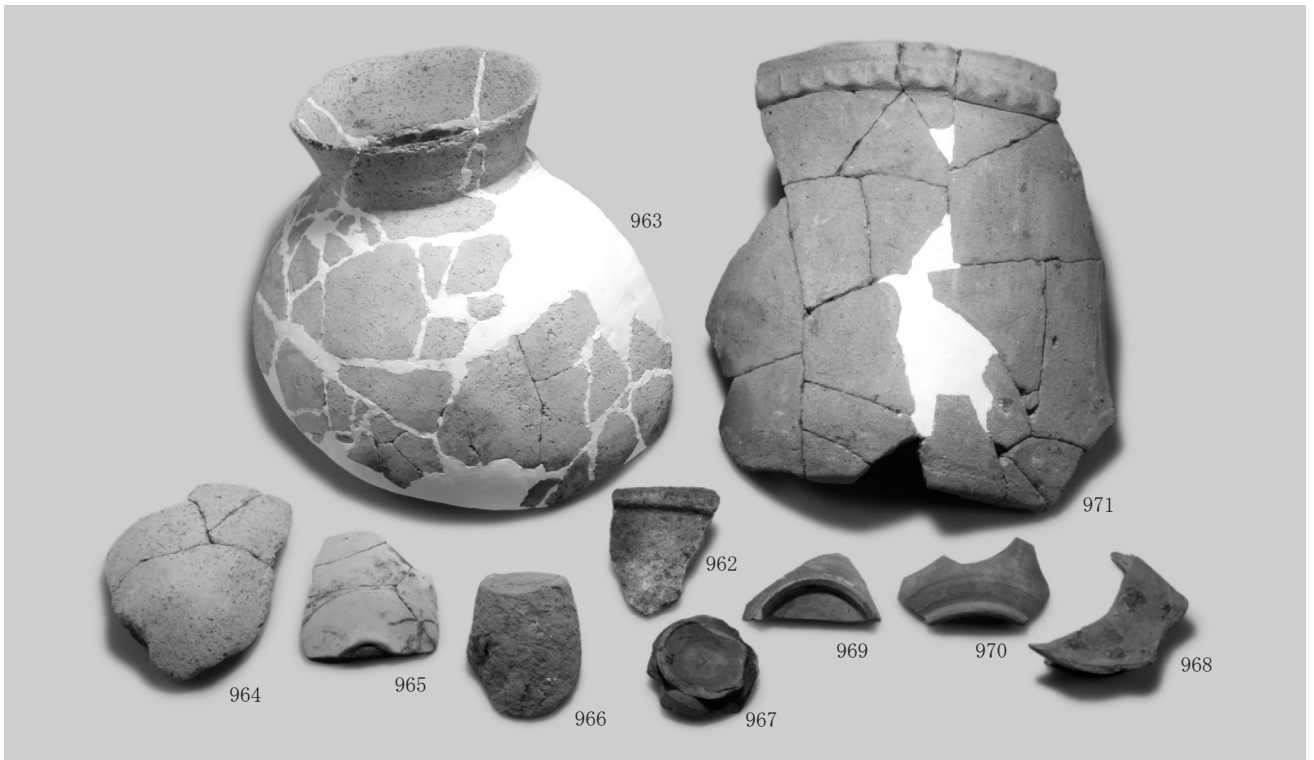
渋谷氏敷地内出土鉄製品・鉛製品



郡司氏敷地内及びSE83出土鉄製品



墨書・刻書類



弥生土器・土師器・須恵器



# 報告書抄録

ふりがな	さどわらじょうあとだいろくじちょうさ						
書名	佐土原城跡第6次調査						
副書名	佐土原中学校公民館及び城の駅建設事業にかかる埋蔵文化財調査報告書						
巻次							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第109集						
編集者名	秋成 雅博						
発行機関	宮崎市教育委員会						
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目14番20号						
発行年月日	2016年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査原因	種別
さどわらじょうあと 佐土原城跡	みやざきけん 宮崎県 みやざきし 宮崎市 さどわらじょう 佐土原町 かみたま 上田島	45201	11-045	32° 02' 49''	131° 25' 40''	公民館建設	城跡
調査期間	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
2012. 1. 17 } 2013. 11. 7	3125 m <sup>2</sup>	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	井戸・溝状遺構・建物跡など 井戸・池状機構・厠跡・建物 溝状遺構・門跡・土坑など		弥生土器 土師器 土師器・須恵器 陶磁器・瓦・木製品・鉄製品 陶磁器・土器・瓦・土製品 木製品・鉄製品など		調査地は「佐土原御城下細見之図」によると渋谷直記と郡司篤之助の屋敷地にあたり、それを裏付けるように「渋谷宇衛門」や「渋谷直」と書かれた木札が出土した。

宮崎市文化財調査報告書 第109集

## 佐土原城跡第6次調査

佐土原中学校公民館及び城の駅建設事業にかかる  
埋蔵文化財調査報告書

平成28年3月

宮崎市教育委員会